佐久市埋蔵文化財

年報 8

平成10年度

長野県佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財

年　報　8

平成10年度

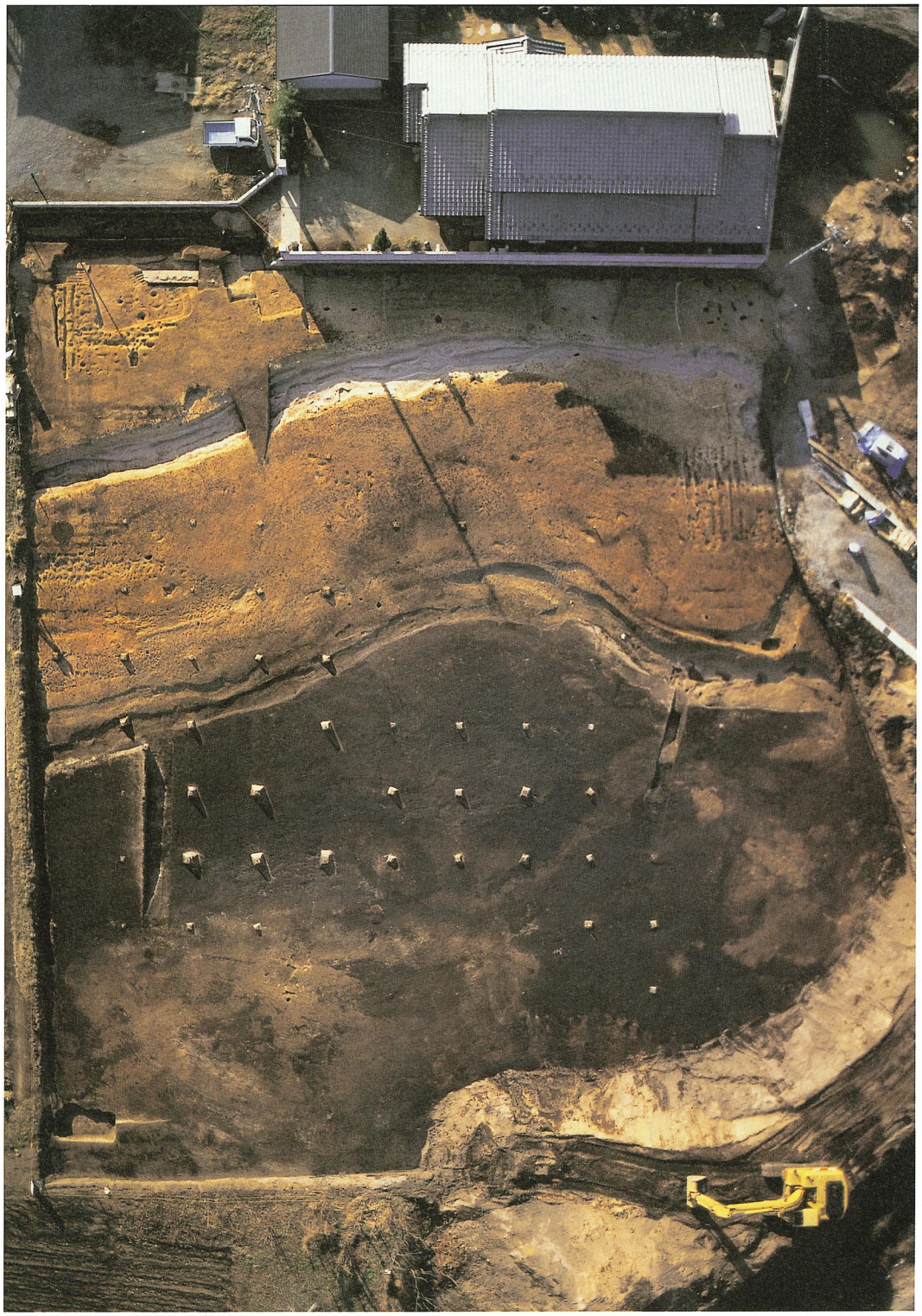
長野県佐久市教育委員会

市道遺跡Ⅱ航空写真

戸坂遺跡群四ツ塚遺跡Ⅰ（奥）戸坂遺跡群供養塚遺跡（手前）航空写真（西から）

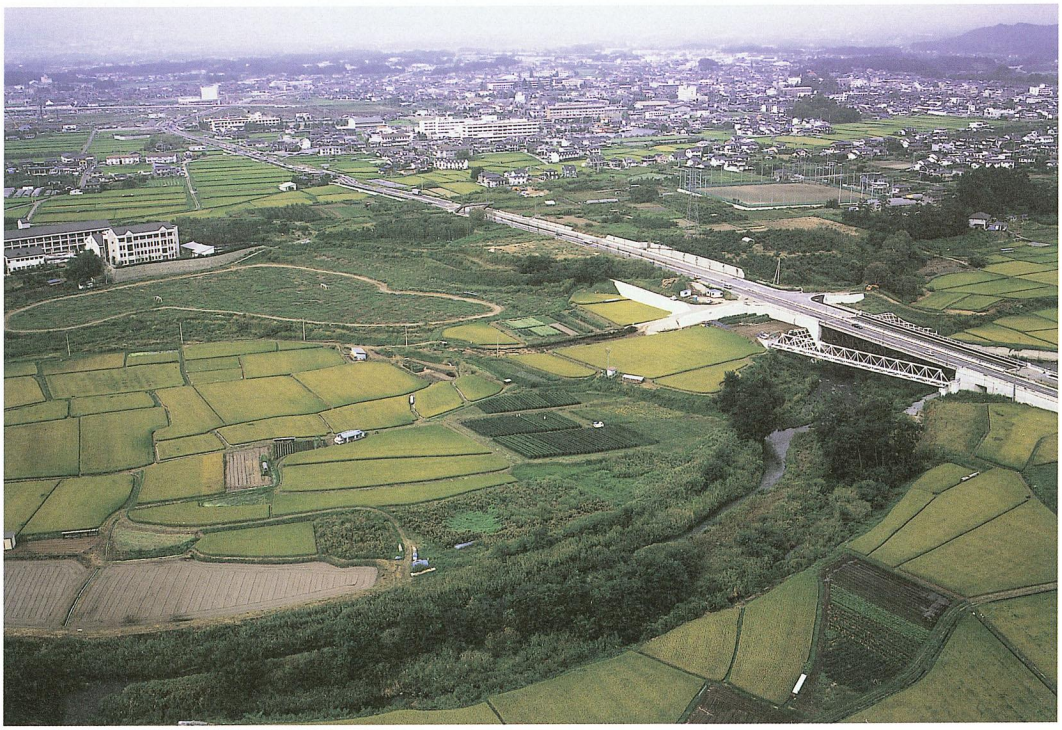
松ノ木遺跡Ⅲ航空写真

巻頭三



枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅲ航空写真

中西ノ久保遺跡Ⅳ航空写真（南西から）



中西ノ久保遺跡Ⅳ航空写真（南から）

円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ航空写真

円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ　H７号住居址に見られる墳砂

西一本柳遺跡Ⅶ全景（南から）

西一本柳遺跡Ⅶ全景（北から）

西一本柳遺跡Ⅶ調査風景

西一本柳遺跡Ⅶ調査風景

H12

M12

H17

H17

Cけ5

H 7

Cけ5

Dあ7

西一本柳遺跡Ⅶ出土遺物

目　　次

Ⅰ　組　　織

1，組　織……1
2，体　制……1

Ⅱ　事　　業

1，調査事業費……3
2，保護・保存事業……3
（1）現状及び指定保護・保存……3
（2）記録保存……3
3，普及・公開事業……7
（1）第19回少年考古学教室……7
（2）埋蔵文化財資料展示室利用状況……7
4，分析・鑑定……8
5，刊行図書……8
6，庶務日誌……9
7，施設……10

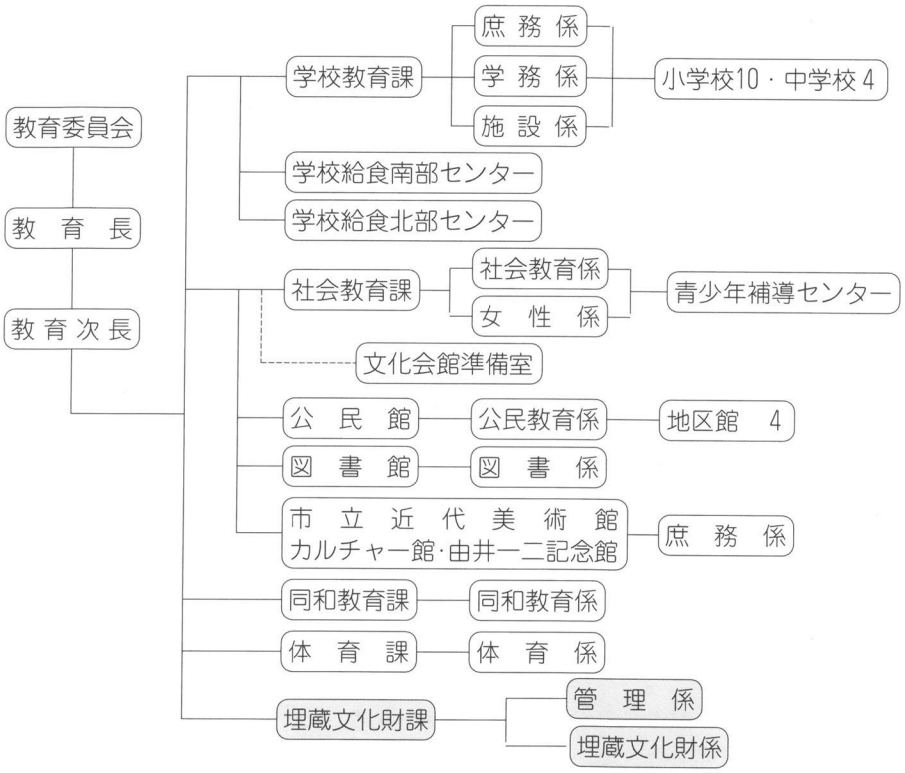
Ⅲ　調査概要

1，中長塚遺跡Ⅱ……12
2，久禰添遺跡Ⅱ……13
3，深堀Ⅰ・Ⅱ……14
4，岩村遺跡群　柳堂遺跡……17
5，市道遺跡Ⅱ……19
6，松ノ木遺跡Ⅲ……21
7，栗毛坂遺跡群Ⅱ……26
8，平賀中屋敷遺跡群　平賀中屋敷遺跡Ⅲ……35
9，番屋前遺跡群　番屋前遺跡Ⅲ……39
10，中西ノ久保遺跡Ⅳ……41
11，円正坊遺跡群　清水田遺跡Ⅱ……44
12，枇杷坂遺跡群　永存遺跡Ⅱ……44
13，枇杷坂遺跡群　直路遺跡Ⅱ……48
14，芝宮遺跡群　下曽根Ⅵ・Ⅶ……52
15，戸坂遺跡群　四ツ塚遺跡Ⅰ……55
16，戸坂遺跡群　供養塚遺跡……57

Ⅳ　西一本柳遺跡Ⅶ調査報告書……59

Ⅰ 組　　織

1 組 織



2 体 制

佐久市教育委員会　教育長　依田　英夫

（事務局）　佐久市教育委員会　埋蔵文化財課

教育次長	北沢　馨
課長(兼)管理係長	須江　仁胤
埋蔵文化財係長	荻原　一馬
埋蔵文化財係	林　幸彦　三石　宗一　須藤　隆司　小林　眞寿 羽毛田卓也　冨沢　一明　上原　学
調査主任	佐々木宗昭　森泉かよ子
調査副主任	堺　益子
調査員	浅沼ノブ江、阿部　和人、荒井　利男、荒井ふみ子、飯澤つや子

磯貝　はな　井出徳四郎、井上　行雄、岩崎　重子、岩下　吉代
岩下　友子、上原　幸子、碓氷　英之、梅沢　淳子、江原　富子
遠藤しずか、大井みつる、小田川　栄、小幡　弘子、柏木　義雄
柏原　松枝、金森　治代、川多あや子、木内　明美、倉見　　渡
神津ツネヨ、神津よしの、小金沢　たけみ、小須田　サクエ
小林　幸子、小林　淳子、小林　立江、小林まさ子、小林百合子
小林よしみ、小山　澄江、小山　正吉、斉藤　真理、斉藤　義雄
桜井　牧子、佐々木　正、佐々木久子、佐藤　愛子、佐藤志げ子
篠崎　清一、島田　幹子、清水佐知子、関口　　正、高橋サチコ
高橋　敬子、田中　章雄、角田すづ子、角田トミエ、東城　友子
東城　幸子、樋田　咲枝、中嶌武三郎、中島　照夫、中島とも子
中嶋フクジ、中嶋　良造、中條　悦子、並木ことみ、成澤　冨子
橋詰　勝子、橋詰けさよ、橋詰　信子、花岡　文夫、花岡美津子
花里香代子、花里四之助、花里三佐子、花里八重子、林　美智子
比田井久美子、平林　泰、細萱ミスズ、細谷　秀子、堀籠　滋子
堀篭　　因、堀籠みさと、真島　保子、増野　深志、水間　雅義
宮川百合子、武者　幸彦、桃井もとめ、柳沢千賀子、山浦　豊子
山崎　　直、山村　容子、依田　みち、若林　　希、和久井義雄
渡邊久美子、渡邊　倍男、青池　紀子、今井　勇一、大塚由美子
高橋　陽一、中島　智広、山浦　貴久

平成10年４月

Ⅱ　事　　業

1　調査事業費

平成10年度埋蔵文化財調査事業費　　予　算　額　252,023,000円
決　算　額　251,879,752円
受託事業費　138,274,000円

2　保護・保存事業

（1）現状及び指定保護・保存

該当なし

（2）記録保存

1）概　要

開発原因者		調査実施数					報告書刊行
		発掘	試掘	立会	整理	計	
国県市等	国・県補助						1
	長野県土地開発公社				2	2	1
	佐久建設事務所	2			1	3	
	地方事務所	1	1			2	
	佐久市土地開発公社	1			3	4	1
	佐久市開発公社						
佐久市		6	7	3		16	3
個人・民間企業		5	23		4	32	6
合計		15	31	3	10	59	12
原因者負担		15		3	10	28	11
国・県補助			31			31	1

2）発掘調査

No.	遺跡名	所在地	備考
	面積	事業	
1	中長塚遺跡Ⅱ	佐久市大字岩村田字中長塚	調査区西に塚原泥流
	660㎡	国道141バイパス建設	

2	久禰添遺跡Ⅱ 1,233㎡	佐久市大字太田部字西屋敷 緊急地方道路整備	神社基礎？
3	深堀遺跡Ⅰ・Ⅱ 5,500㎡	佐久市大字瀬戸 県営農村活性化住環境整備	住居址19、古墳３、溝状遺構、土坑・土坑墓
4	岩村田遺跡群　柳堂遺跡 5,900㎡	佐久市大字岩村田字柳堂 子ども未来館建設関連	住居址３、建物址４、竪穴遺構32、溝状遺構23、土坑214、柱穴4301、特殊遺構７、園池跡２
5	市道遺跡Ⅱ 760㎡	佐久市大字三塚字市道 ホテル建設	住居址５、掘立柱建物址４、溝状遺構３、土坑10 佐久市埋蔵文化財調査報告書第72集
6	松ノ木遺跡Ⅲ 2,902㎡	佐久市大字岩村田字松ノ木 店舗建築	溝状遺構１
7	栗毛坂遺跡群Ⅱ 986㎡	佐久市大字岩村田字東芝間 宅地造成	住居址３、土坑２、ピット２
8	平賀中屋敷遺跡Ⅲ 660㎡	佐久市大字平賀字中屋敷 佐久市城山児童館建設	住居址１（時期不明）、土坑墓３、井戸址１
9	番屋前遺跡群 番屋前遺跡Ⅱ 2,500㎡	佐久市大字猿久保 店舗建設	竪穴遺構４、土坑64、柱穴1006、溝状遺構７
10	中西ノ久保遺跡Ⅳ 1,200㎡	佐久市大字岩村田字中西ノ久保他 緊急地方道整備	住居址16、掘立柱建物址２、溝２、土坑６、ピット
11	円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ 3,540㎡	佐久市大字岩村田字清水田 佐久駅周辺土地区画整備	住居址９、溝状遺構３
12	枇杷坂遺跡群永存遺跡Ⅱ 2,560㎡	佐久市大字岩村田字永存 佐久駅周辺土地区画整備	土坑、畑または水田
13	枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅱ 3,890㎡	佐久市大字岩村田字直路 佐久駅周辺土地区画整備	井戸跡１、竪穴遺構１、溝２、土坑竪穴住居址10
14	芝宮遺跡群下曽根遺跡Ⅵ・Ⅶ 1,453㎡	佐久市大字小田井 市道改良	下曽根Ⅵ　住居址30、竪穴状遺構２、土坑２、ピット113 下曽根Ⅶ 住居址10、掘立柱建物址20、ピット61
15	戸坂遺跡群四ツ塚遺跡Ⅰ 4,600㎡	佐久市大字新子田字供養塚 老人福祉拠点推進	住居址５、掘立柱建物址１、土坑10、溝状遺構２、竪穴状遺構２、古墳址１
16	戸坂遺跡群　供養塚遺跡 1,200㎡	佐久市大字新子田字供養塚 東児童館建設	住居址２、掘立柱建物址１、溝１ 佐久市埋蔵文化財調査報告書第67集

3）整理作業

No.	遺　跡　名	所　在　地 事　業	備　　考
1	八風山・五斗代遺跡	佐久市大字香坂字東地 リゾート開発	平成５～７年度調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第75集
2	観音堂遺跡	佐久市大字岩村田字観音堂 店舗建設	平成９年度調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第70集
3	栗毛坂遺跡群前藤部遺跡	佐久市大字小田井字前藤部 店舗建設	平成８・９年度調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第68集
4	鳴瀬遺跡群五里田遺跡	佐久市大字鳴瀬字五里田 警察官宿舎建設	平成９年度調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第74集
5	榛名平遺跡	佐久市大字根岸 厚生年金福祉施設建設	平成５・６年度調査
6	南近津遺跡	佐久市大字長土呂 宅地造成	平成９年度調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第76集
7	中原遺跡群　梨の木遺跡Ⅱ	佐久市大字中込 R141バイパス建設	平成８年度調査
8	長土呂遺跡群　聖原遺跡	佐久市大字長土呂 佐久流通業務団地造成	平成元年～７年度調査
9	長土呂遺跡群高山遺跡Ⅰ・Ⅱ	佐久市大字長土呂 住宅団地造成	平成６・７年度調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第69集
10	川原端遺跡	佐久市大字大和田 住宅団地造成	平成８年度調査
11	寺畑・仲田・中西ノ久保遺跡Ⅱ	佐久市大字岩村田字中西ノ久保他 R141関連	平成７年度調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第66集
12	中西ノ久保遺跡Ⅲ	佐久市大字岩村田字中西ノ久保他 R141関連	平成７・８年度調査

4）試掘・立ち会い調査

No.	遺　跡　名	所　在　地	開発面積(㎡)	調査期間	調査方法
1	新田遺跡 6	佐久市大字中込	2,933	4/2.3	試掘
2	岩村田遺跡群21	佐久市大字岩村田	90	4/7	試掘
3	下北古屋遺跡（隣接）	佐久市大字鳴瀬	1,470	4/10～14	試掘
4	芝宮遺跡群10	佐久市大字長土呂	1,458	4/23.24.30.5/20	試掘
5	松の木遺跡Ⅲ	佐久市大字岩村田	2,902	6/11.12	試掘
6	西大久保遺跡群 8	佐久市大字下平尾	2,022	6/24	試掘
7	中久保田遺跡 5	佐久市大字岩村田	399	7/6	試掘
8	中原遺跡群17	佐久市大字中込	1,045	7/17	試掘
9	中原遺跡群18	佐久市大字三河田	2,085	7/17	試掘
10	芝宮遺跡群11	佐久市大字長土呂	1,525	7/27.28	試掘
11	枇杷坂遺跡群15	佐久市大字岩村田	481	9/17	試掘
12	西一本柳遺跡群　西一本柳遺跡Ⅶ	佐久市大字岩村田	977	9/22～10/23	試掘
13	平賀中屋敷遺跡 4	佐久市大字平賀	657	9/29	試掘
14	立石遺跡 6	佐久市大字根岸	5,926.25	9/29	試掘
15	中原遺跡群19	佐久市大字中込	661	10/1	試掘
16	向畑遺跡 2	佐久市大字鍛冶屋	1,263.66	10/8	試掘
17	深堀遺跡群他	佐久市大字瀬戸	32,000	9/28～10/23	試掘
18	番屋前遺跡群12	佐久市大字猿久保	8,677.87	10/29～11/7	試掘
19	跡部儘田遺跡　跡部町田遺跡	佐久市大字跡部	12,000	10/5～11/7	試掘
20	中原遺跡群20	佐久市大字中込	1,993.74	11/9	試掘
21	下蟹沢遺跡13	佐久市大字長土呂	1,074.54	11/10	試掘
22	松の木遺跡（隣接）	佐久市大字岩村田	1,772	11/10	試掘
23	西近津遺跡群 2	佐久市大字長土呂	1,710	11/25	試掘
24	金山遺跡（隣接）	佐久市大字跡部	5,402.48	12/14～12/17	試掘
25	岩村遺跡群22	佐久市大字岩村田	400	12/17	試掘
26	平賀中屋敷遺跡 5	佐久市大字平賀	98	2/16	試掘
27	中原遺跡群21	佐久市大字今井	696	2/16	試掘
28	野沢館跡	佐久市大字原	1,339.15	2/17～3/2	試掘
29	長土呂遺跡群　下聖端遺跡	佐久市大字長土呂	2,846	3/24.25	試掘
30	薊沢遺跡 3	佐久市大字野沢	342	3/26	試掘
31	根々井館跡 4	佐久市大字根々井	290	3/29.30	試掘
32	内山中村遺跡 1	佐久市大字内山	37.5	2/15	立会
33	藤ヶ城跡 1	佐久市大字岩村田	25	3/3	立会
34	野沢館跡 4	佐久市大字原	25	3/10	立会

3　普及・公開事業

（1）　第19回少年考古学教室

開催遺跡　中西ノ久保遺跡Ⅳ

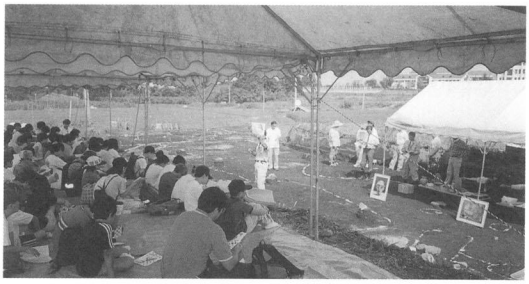
開催日時　平成10年8月4～6日

対象・参加者　市内小中学校生徒・161名

内　　容　講話「佐久地方における発掘調査の成果」

実技　古代竪穴住居址の発掘調査

見学　弥生～平安時代の竪穴住居址等



（2）埋蔵文化財資料展示室利用状況

		月	人数
上半期	平成10年	4月	33名
		5月	13名
		6月	2名
		7月	12名
		8月	17名
		9月	81名
	合計		158名

		月	人数
下半期	10年	10月	5名
		11月	
		12月	
	11年	1月	
		2月	
		3月	17名
	合計		22名

総計	180名

埋蔵文化財資料展示室見学者表

4　分析・鑑定

（1）内西浦遺跡

木製品保存処理　　株式会社　吉田生物研究所

（2）観音堂遺跡

貝類の分類・同定及び報告書作成他　　パリノ・サーヴェイ株式会社

人骨鑑定　　聖マリアンナ医科大学　平田和明教授

獣骨鑑定　　日本ほ乳類学会　宮崎重雄氏

（3）五里田遺跡

人骨鑑定　　聖マリアンナ医科大学　平田和明教授

獣骨鑑定　　日本ほ乳類学会　宮崎重雄氏

金属製品分析・保存処理　財団法人　元興寺文化財研究所

（4）高山遺跡

獣骨鑑定　　日本ほ乳類学会　宮崎重雄氏

（5）中西ノ久保遺跡

獣骨鑑定　　日本ほ乳類学会　宮崎重雄氏

（6）前藤部遺跡

人骨鑑定　　聖マリアンナ医科大学　平田和明教授

獣骨鑑定　　日本ほ乳類学会　宮崎重雄氏

（7）榛名平遺跡

獣骨鑑定　　日本ほ乳類学会　宮崎重雄氏

（8）柳堂遺跡

木製品保存処理　株式会社　吉田生物研究所

5　刊行図書

佐久市埋蔵文化財　年報７　平成９年度

第66集　『中西ノ久保遺跡Ⅱ　仲田遺跡　寺畑遺跡Ⅱ』

第67集　『供養塚遺跡』

第68集　『前藤部遺跡』

第69集　『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』

第70集　『観音堂遺跡』

第71集　『市内遺跡発掘調査報告書1997』

第72集　『市道遺跡Ⅱ』

第73集　『西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ』

第74集　『五里田遺跡』

第75集　『八風山・五斗代』

第76集　『南近津遺跡』

6　庶務日誌

平成10年

4月6日　調査員委嘱式

4月7日　発掘調査開始

4月10日　平成10年度補助事業実績報告（県庁）

4月15日　調査員健康診断

4月17日　市役所新規採用職員31名資料展示室見学

4月30日　月例会

5月20日　遺跡出土人骨鑑定依頼（神奈川県川崎市聖マリアンナ医科大学）

5月22日　佐久市市議会OB会12名資料展示室見学

6月5日　平成10年度文化財保護行政市町村担当者会議（長野市　県庁講堂）

6月2日　月例会

7月14日　埼玉県行田市文化財保護審議委員会8名資料展示室見学

7月9日　月例会

7月28日　月例会

8月4・5・6日　第19回少年考古学教室開催（中西ノ久保遺跡Ⅳ）

8月31日　月例会

9月6日　下宿区50名資料展示室見学

9月7日　月例会

9月28日　月例会

10月23日　佐久市立東中学校3名職業研修

10月29日　月例会

10月31日　柳堂遺跡　出土遺物新聞報道（信濃毎日）

12月3日　月例会

12月11日　防災訓練

12月25日　課の仕事納め

平成11年

1月5日　月例会

1月7日　課の仕事始め

2月2日　文化庁次長通知説明会　（更埴市　県立歴史館講堂）

2月8日　月例会

2月10日　職員健康診断

2月13・14日　長野県考古学会冬季大会　（塩尻市　総合文化センター）

2月19日　年度報告会

3月5日　月例会

3月8日　ＦＭ佐久平出演（発掘調査の雇用について）

3月17日　平成10年佐久地区文化財担当者会議（北相木村役場）

3月27日　課の年度納め

7　施　設

平成2年に野沢旧水道企業団跡地より旧志賀小学校跡地に移り現在に至る。施設は旧志賀小学校の一部を改修・修繕して使用。平屋の事務所棟（南校舎）は明治34年に、2階建ての北棟は大正12年に造築された校舎である。平成9年度には北棟の一部が老朽化のため度重なる修繕の甲斐なく取り壊しとなり、新たに平屋の整理室（2部屋）を増設した。

施設総面積　8,050㎡（グランドは除く）

事務室　1室（2室分）、管理・更衣室・事務用品倉庫　1室

図書室　1室、資料展示室　1室

調査整理室　15室（平成9年度4室を解体、2室増室）

水洗室　2室、スタジオ　1室、保存処理室　1室、

木製品収蔵室　1室、機械整備室　1室、機器材倉庫2カ所、

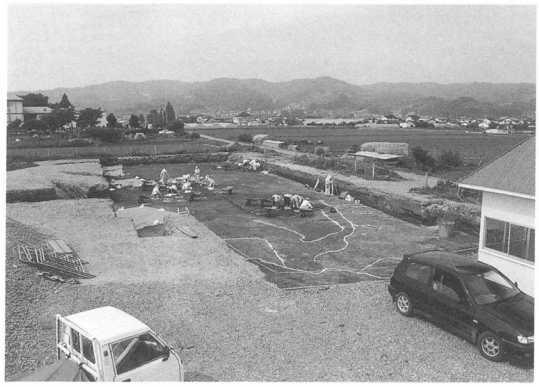
測量用具倉庫　1室、大型遺物収蔵庫　1棟、耐火収蔵庫　1室、

小倉庫　2室、防火器具庫　2カ所、防火水槽　1カ所、

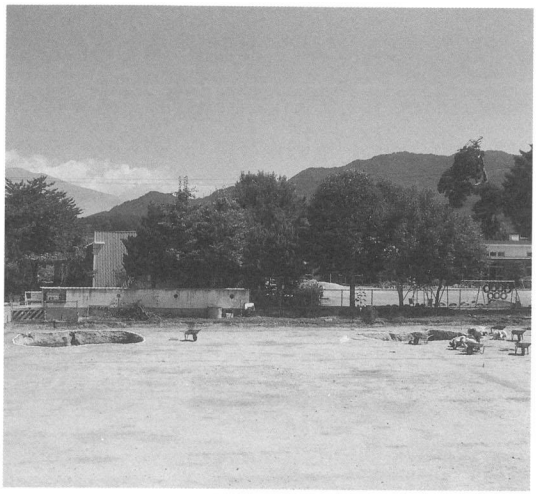
給湯施設　3カ所、屋内トイレ　2カ所、屋外トイレ　2カ所、

休憩・シャワー室　1室

Ⅲ　調査概要



市道遺跡Ⅱ調査風景

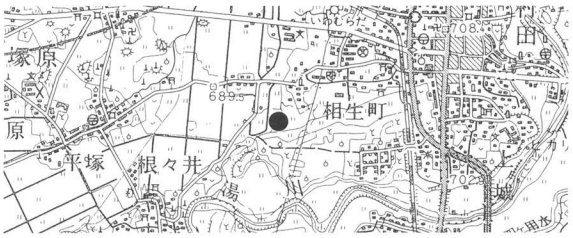


戸坂遺跡群　供養塚遺跡調査風景

戸坂遺跡群　四ツ塚遺跡Ⅰ調査風景

中長塚遺跡Ⅱ

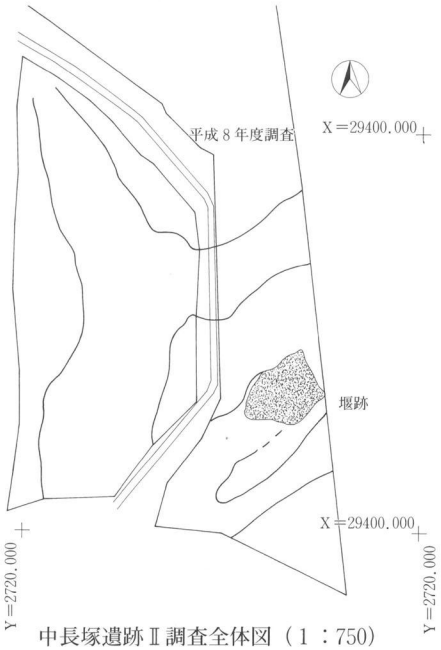
所　在　地　佐久市大字岩村田字中長塚
調査委託者　佐久建設事務所
開発事業名　国道141号バイパス建設工事
調 査 期 間　平成10年11月19日～30日
調 査 面 積　660㎡
調査担当者　林　幸彦



中長塚遺跡Ⅱ位置図（1：50,000）

経過と立地

中長塚遺跡Ⅱは岩村田市街地の西方、約0.8kmの低地に所在し広く水田地帯として利用されている地域である。周辺には弥生時代から平安時代の多くの遺跡が所在する。特に北西に位置する濁り遺跡からは調査区一面にに大規模な古代の水田址が発見され、周辺の古代集落の生産活動を考える上で貴重な発見であった。また、本遺跡では1993（平成５）年下水道工事に伴う試掘調査により、古い堰跡らしき木組みが発見されている。国道141号バイパス工事用地内の1996（平成８）年の中長塚遺跡Ⅰの調査では、1993年の試掘調査時の木組みが確認された付近から弥生時代後期と考えられる堰跡が検出された。遺物は堰の周囲から木製の鋤・弥生時代後期の土器片が出土した。今回、この堰跡の西側にあった住宅が取り壊されたので、バイパス用地分の発掘調査を実施した。



中長塚遺跡Ⅱ調査全体図（1：750）

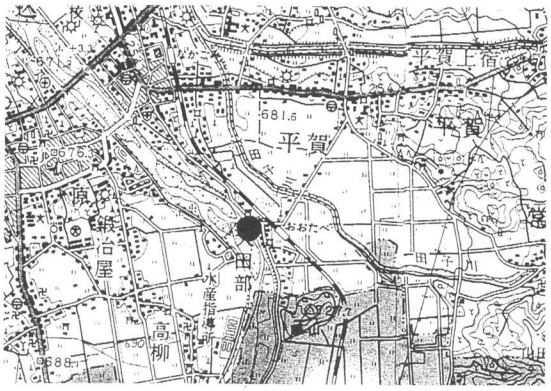
調査概要

今回の調査範囲までは、東側で調査された堰跡が伸びていないことが判明した。調査区の西部に塚原泥流がみられた。

中長塚遺跡Ⅱ調査近景（南から）

久禰添遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字太田部字西屋敷209外
調査委託者　佐久建設事務所
開発事業名　緊急地方道路整備事業
（県道川上佐久線）
調 査 期 間　平成10年９月14日～10月19日
調 査 面 積　1,233㎡
調査担当者　林　幸彦



久禰添遺跡Ⅱ位置図（１：50,000）

経過と立地

久禰添遺跡は、千曲川の右岸に沿って南北に長く展開し離れ山北裾に接している。対象地は、JR小海線太田部駅西方100ｍの地点にあり、標高685ｍを測る。弥生時代～平安時代の複合遺跡である。佐久建設事務所の県道川上佐久線整備事業計画地一帯は、千曲川との比高10ｍ弱であり、氾濫による遺構への影響が懸念されたので、1997年に試掘調査を実地した。多量の礫・砂に覆われた弥生時代後期終末の竪穴住居址等が検出され、記録保存のための発掘調査が行われた。今回は、その北側にあたる対象地での継続調査である。

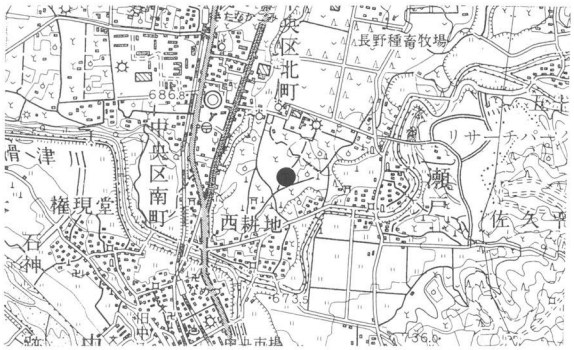
調査概要

調査対象地は、南側に墓地が中央に神社があった。表土下0.3～0.5ｍで河床礫・砂層・シルト質土の地山があらわれる。対象地ほぼ中央から、大小の礫が詰まった長方形の掘り込みが検出された。神社の基礎部分であろうか。対象地の北側からは、中世陶磁器類が少量出土したが、掘建柱建物址等の遺構は検出されなかった。

久禰添遺跡Ⅱ調査近景（南方から）

深堀Ⅰ・Ⅱ

所　在　地　佐久市大字瀬戸1218.1062-4外
調査委託者　佐久地方事務所･佐久市耕地課
開発事業名　県営農村活性化住環境整備事業
調 査 期 間　平成10年８月３日～12月９日
調 査 面 積　5,500㎡
調査担当者　羽毛田卓也　冨沢　一明



深堀Ⅰ・Ⅱ位置図（１：50,000）

経過と立地

深堀遺跡群は佐久市大字瀬戸に所在し、東方は志賀川、西方は田切り地形に挟まれた台地上に展開する大遺跡群である。標高は670～690ｍを測る。本遺跡群内では昭和40年度に国道141号バイパス工事に伴い深堀遺跡の発掘調査が行われ、弥生時代中期の竪穴住居址２棟が調査されている。また、台地の南側には瀬戸狐塚古墳群、東端部には八反田城跡が存在する。東千石平遺跡群は深堀遺跡群の南に隣接して存在し、標高670ｍ内外を測る。

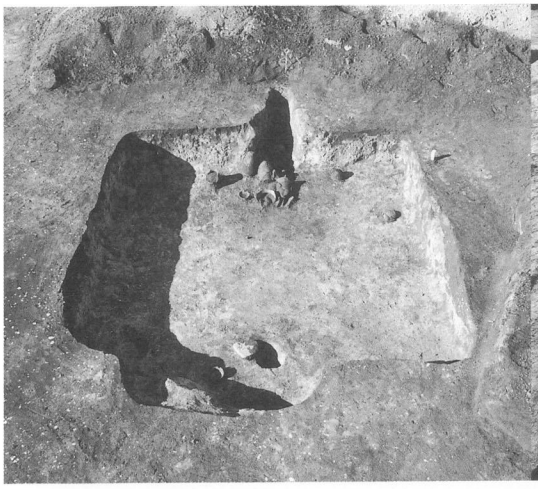
今回、両遺跡群内で瀬戸原農村活性化住環境整備事業が計画されたため、遺跡群の遺構分布状況を把握するため試掘調査と昨年試掘調査が行われた集落１号線と２号線の本調査を行った。

調査概要

試掘調査では検出遺構を時代別に概観すると、まず縄文期の遺構は検出されなかったが、台地西際で加曽利期の土器片が表採された。次に台地南側の深堀地籍では弥生中期の住居址が約11軒検出された。続く古墳前期～中期の住居址は台地西側と南側にそれぞれ検出され小集落を形成しているようである。台地全体に広がる集落址は主に平安期の住居址群で台地東側がやや密な分布を示している。また、台地全体からは無数の溝状遺構が検出された。これらは形態やその分布から台地東端にある八反田城跡や西側の深堀城跡に関係する中世遺構も多いと考えられる。古墳址は対象地内に５基存在する事が知られているが、この内試掘調査を行ったものは３～５号墳で、周溝は４・５号墳で確認できた。

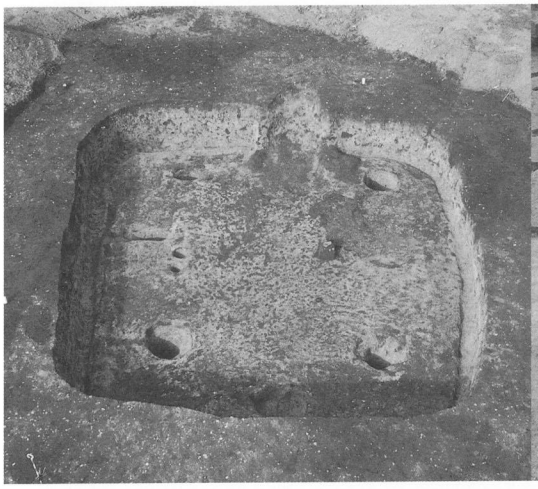
本調査では古墳後期～平安期の竪穴住居址が19軒･溝状遺構･土坑･土壙墓などが多数検出された。特にＭ１号溝状遺構は中世の所産と考えられ周辺の畑地割りにも痕跡を止める堀割的様相を示し、八反田城跡との関連が推定された。また、平安期の土壙墓からは墨書された完形の土師器坏が１点出土する例が多くあり当該期の墓制を考える上で好資料となりそうである。

深堀Ⅰ・Ⅱ調査区全景



H17号住居址全景（南より）古墳

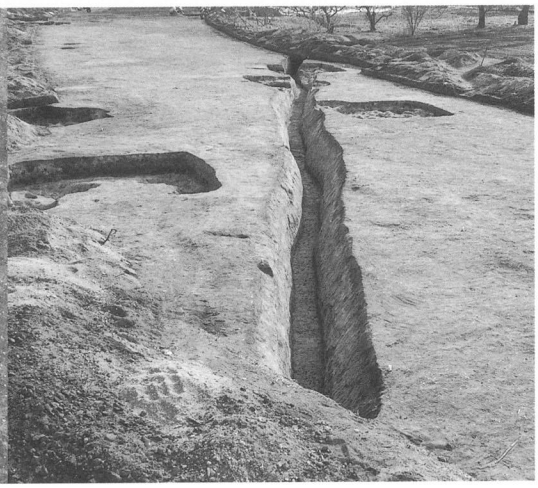
Ｍ１号溝状遺構（北より）



H10号住居址全景（南より）奈良

Ｍ８号溝状遺構とピット群（南より）

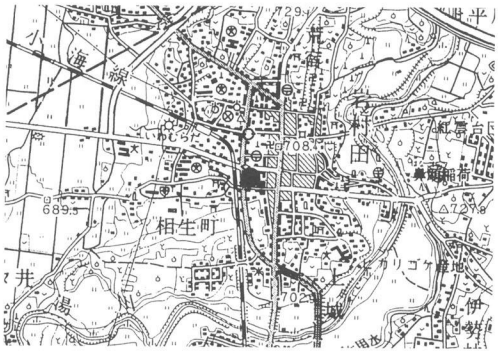
Ｈ１号住居址全景（南より）平安



Ｍ７号溝状遺構（北西より）

岩村田遺跡群　柳堂遺跡

所　在　地　佐久市大字岩村田字柳堂1931－７外
調査委託者　佐久市土地開発公社
開発事業名　子ども未来館建設関連事業
調 査 期 間　平成10年４月13日～11月４日
調 査 面 積　5,900㎡
調査担当者　羽毛田卓也・富沢　一明



柳堂遺跡位置図（１：50,000）

経過と立地

岩村田遺跡群は南北に伸びる田切地形上に展開する弥生時代から近世にかけての複合遺跡である。今回調査した柳堂遺跡は本遺跡群の南西端、標高704m内外の緩やかに南西に傾斜する台地上に位置する。付近には北側に中世を主体とする内西浦遺跡（平成元年調査）が、南側に観音堂遺跡（平成９年調査）などが存在する。今回佐久市が子ども未来館の建設を計画したため、協議の結果、佐久市土地開発公社より委託を受け、佐久市教育委員会が調査を行うこととなった。

調査概要

調査の結果以下の遺構が検出された。

住 居 址	３軒（弥生時代後期２軒、平安時代中期１軒）		
建 物 址	４棟（中世以前）	竪穴遺構	32軒（中世）
溝状遺構	23条（弥生時代・中世）	特殊遺構	７基（中世・近世）
円形周溝	２基（弥生時代後期）	園 池 跡	２ヶ所（中世）
土　　坑	214基（弥生時代後期、中世、井戸を含む）		
柱　　穴	4301基（中世・近世）		

弥生時代後期・古墳時代中期包含層

主たる出土遺物

弥生時代後期の土器（甕・壷・高坏・浅鉢）・石器、古墳時代中期の土器（甕・坏）

平安時代の土師器（甕・坏）

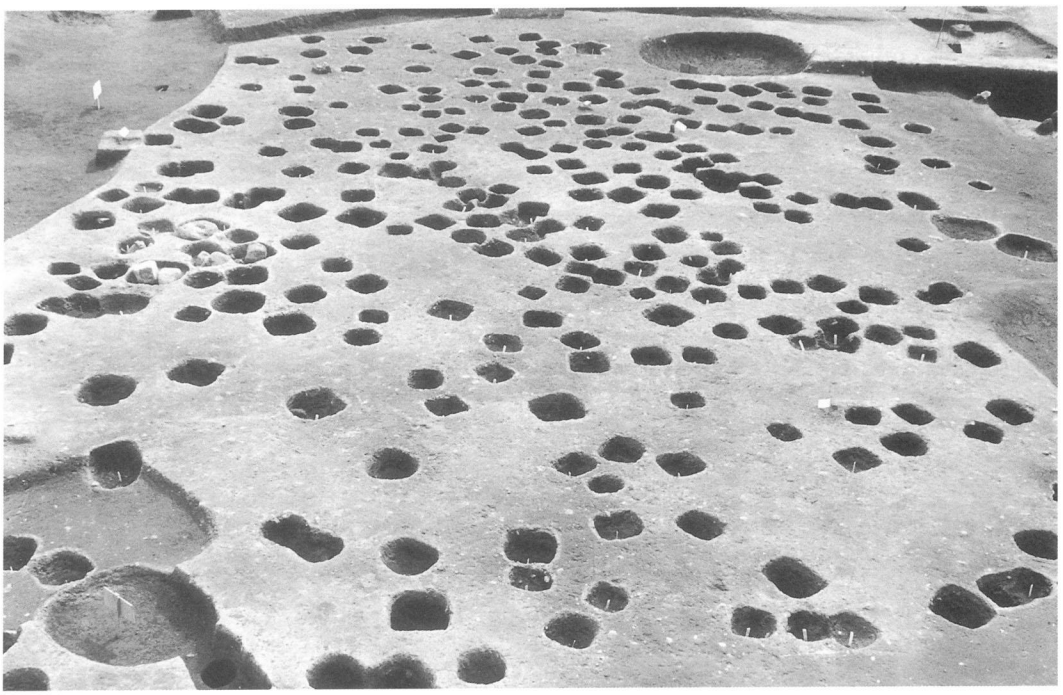
中世14世紀から16世紀にかけての外国産磁器（青磁・天目）・国産陶器（瀬戸など）

中世の土師質土器・土鍋、木製品（羽子板・杭・井戸部材）、獣骨

中世の金属製品（角釘・銅製銀装笄・古銭など）、石製品（石臼・五輪塔部品など）

近世から近代の国産陶磁器

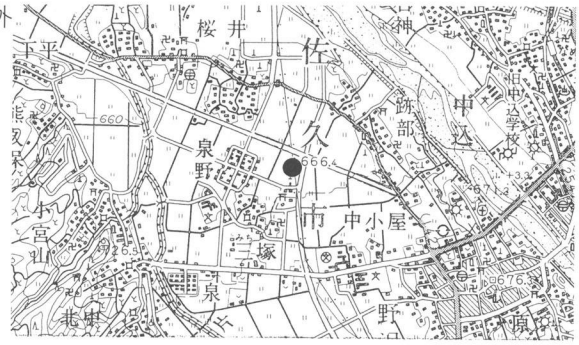
中世井戸址（北より）



中世ピット群（北より）

市道遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字三塚字市道126－1外
調査委託者　ルートイン佐久株式会社
開発事業名　ホテル建設
調 査 期 間　平成10年６月22日～７月29日
調 査 面 積　760㎡
調査担当者　冨沢　一明



市道遺跡Ⅱ位置図（１：50,000）

経過と立地

市道遺跡は佐久市の西方、通称「野沢平」のほぼ中央に位置する。遺跡付近の標高は668ｍ前後を測り、周辺の水田面よりも0.6ｍ程高く沖積微高地を形成している。周辺の遺跡としては、昭和40～50年代に発掘調査された市道遺跡・三塚町田遺跡・跡部町田遺跡や近年の調査の寺添遺跡などがある。これら遺跡はいずれも古墳時代中期～平安時代の集落址が確認されている。

今回、遺跡内にルートイン佐久株式会社がホテル建設を計画し、当教育委員会により試掘調査をおこなったところ遺構が確認された為、記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。

調査概要

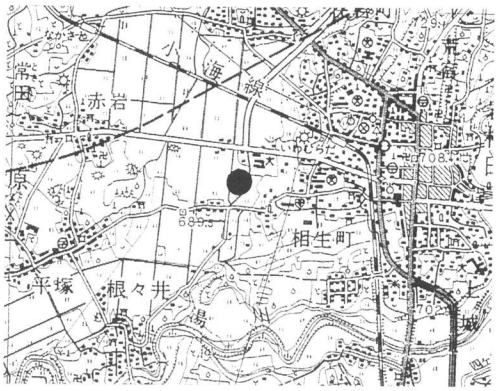
本調査では竪穴住居址５軒（古墳後期２軒・奈良３軒）、掘立柱建物址４棟、溝状遺構３本、土坑10基が検出された。この内遺跡北側から検出された大溝は多少位置は異なるが古墳中期より近世に至るまで連綿と継続した流路であることが解り、遺跡の所在する微高地が比較的安定した場所であることが推定できた。

Ｈ５号住居址出土遺物

市道遺跡Ⅱ調査区全景（株式会社　みすず綜合コンサルタント撮影）

松ノ木遺跡Ⅲ

所　在　地　佐久市大字岩村田字松ノ木1453－3外
調査委託者　株式会社マルカワ
開発事業名　店舗建設工事
調 査 期 間　平成10年６月11・12日
調 査 面 積　2,902㎡
調査担当者　林　幸彦



松ノ木遺跡Ⅲ位置図（1：50,000）

経過と立地

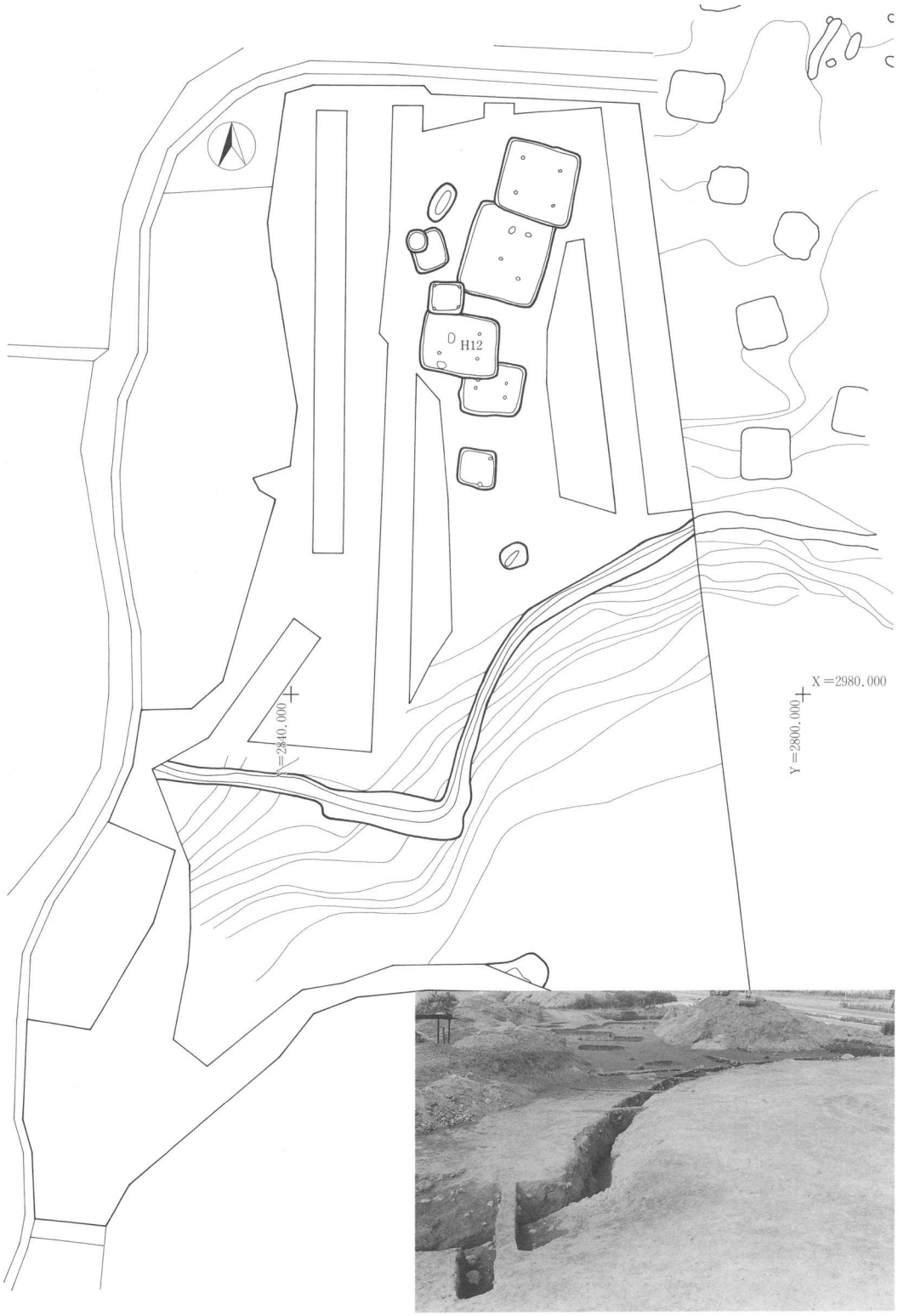
松ノ木遺跡は、佐久市立浅間中学校の西側に隣接し、標高は695ｍを測る。付近は新幹線佐久平駅周辺区画整理事業によって地形が大きく変化している。遺跡付近では田切り地形が消滅し、一見平坦な地形を見せているが、塚原泥流の残丘地形が埋没しており決して単調な平地ではないことが、いくつかの発掘調査によりわかっている。残丘周辺の平旦地と北東から残丘に伸びる微高地、それを取り巻く低地といった地形が随所にみられる。残丘周辺の平坦地及び微高地上からは、多くの集落が検出されている。

対象地南端の塚原泥流の残丘から北東に向けて、周辺の水田より２ｍ程高い微高地が形成されている。幅30ｍ程度の細長い小規模な微高地である。国道141号バイパス工事に先立ち、1996年に調査された松ノ木遺跡Ⅰの西隣である。松ノ木遺跡Ⅰでは、弥生時代終末～古墳時代初頭の竪穴住居址６棟他が検出された。

株式会社マルカワの店舗建設にあたり、事前に試掘調査を実施し遺構の状況を把握したところ５軒以上の竪穴住居址とみられる遺構が確認された。協議の結果、建物の基礎部分が遺構に達するため記録保存調査を実施することになった。

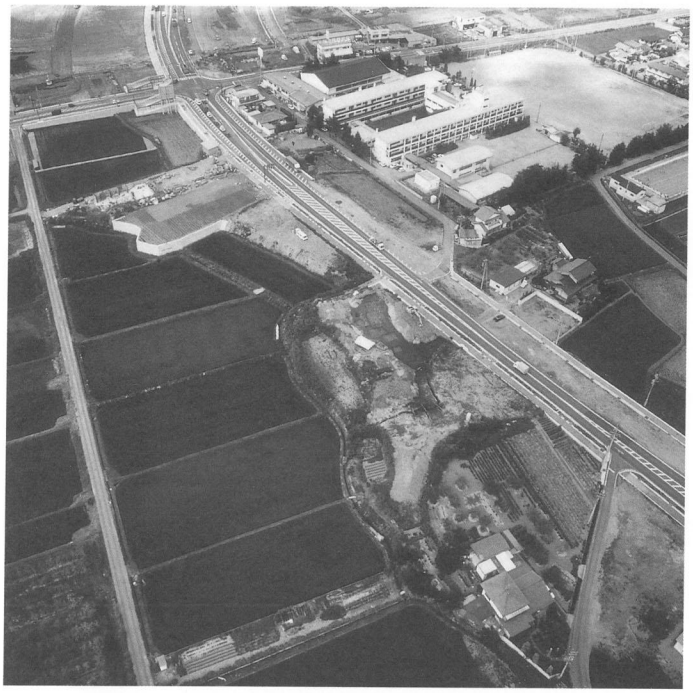
調査概要

松ノ木遺跡Ⅰの西に展開する状況で、弥生時代後期終末～古墳時代初頭の竪穴住居址が７棟検出された。調査区の南半部にみられた溝状遺構は、すでに調査されていた松ノ木遺跡ⅠのＭ１号溝状遺構に繋がり、くびれを持つことがわかった。北側のくびれ部分に対応する南側の位置にも同様な落ち込みがみられた。全体の形態は、前方後円形で後円部径40ｍ前方部長30ｍ全長64ｍほどの巨大なものである。形態・規模とも藤ノ木古墳群４号墳によく似ている。



松ノ木遺跡Ⅲ調査全体図（1：500）

松ノ木遺跡Ⅲ１号墳（南から）



松ノ木遺跡Ⅲ航空写真（南から）

松ノ木遺跡Ⅲ１号墳（北東から）

松ノ木遺跡Ⅲ航空写真（右斜め下が北）

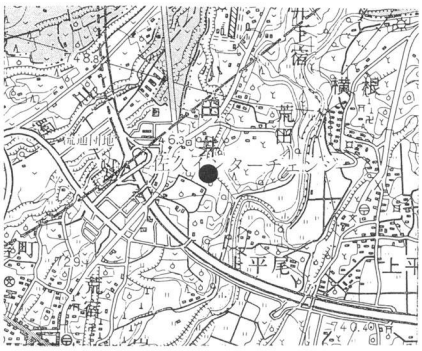
松ノ木遺跡Ⅲ近景（北から）

松ノ木遺跡ⅢH12号住居址（南から）

松ノ木遺跡ⅢH12号住居址遺物出土状態（東から）

栗毛坂遺跡群Ⅱ

所　在　地　佐久市大字岩村田字東芝間3873－1外
調査委託者　株式会社アメック
開発事業名　宅地造成
調 査 期 間　平成10年11月4日～平成11年3月31日
調 査 面 積　986㎡
調査担当者　小林　眞寿



栗毛坂遺跡群Ⅱ位置図（1：50,000）

経過と立地

栗毛坂遺跡群は佐久市岩村田に所在し、標高730m内外を測る。調査地は、北東を田切谷により隔絶され、東に湯川を臨む台地上に位置する。

調査地は、平成8年サカイ創建株式会社により宅地造成が計画され、試掘調査を実施した経緯があり、その祭に平安時代の集落址の存在が確認されていた。今回、同一地積において株式会社アメックによる宅地造成事業が計画されたため、遺跡の保存に向けた協議が行われ、発掘調査を行い記録保存することとなり、株式会社アメックから委託を受けた佐久市教育委員会が調査を実施した。

調査概要

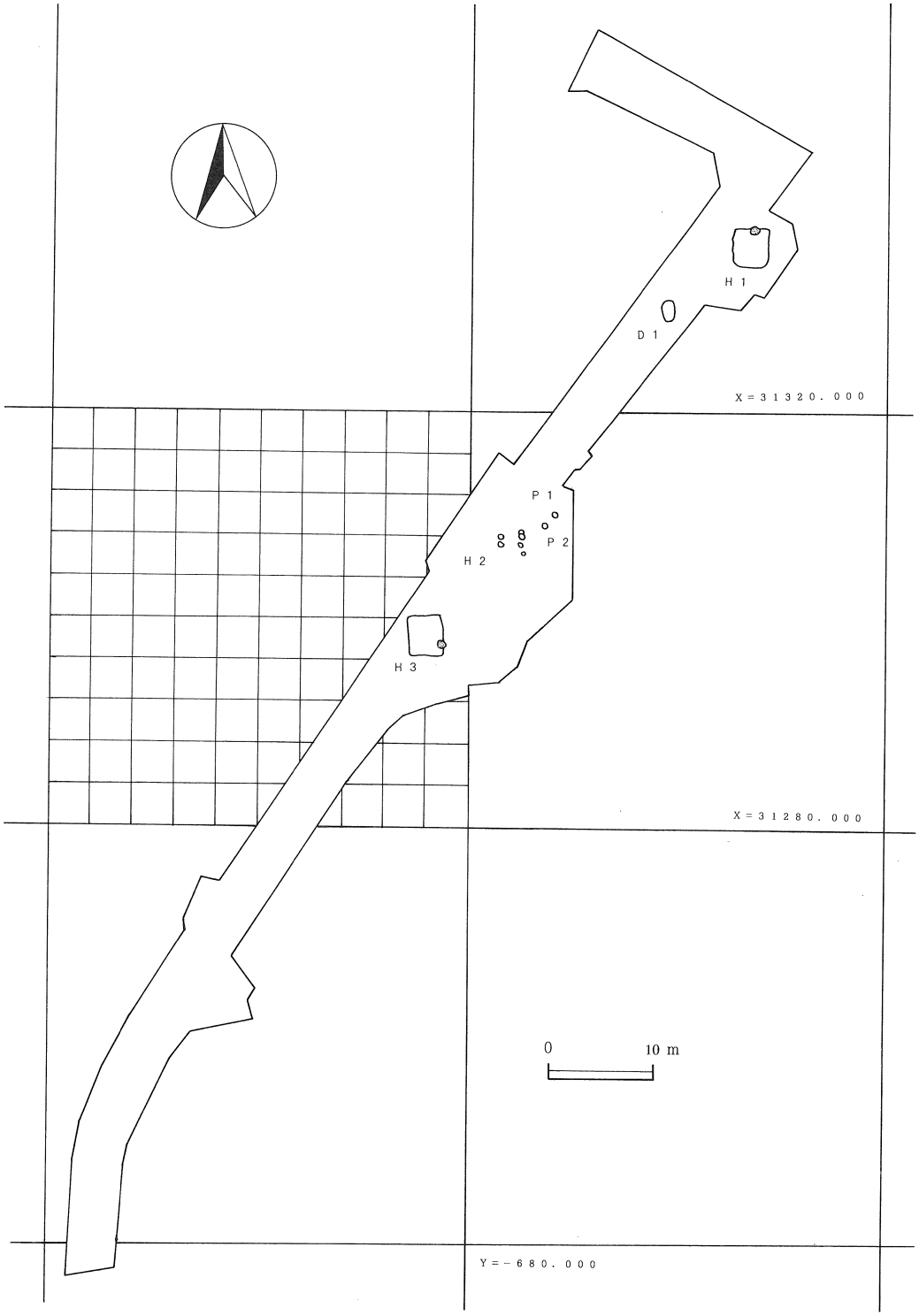
調査は削平される道路部分に限定され実施され、それ以外の部分は盛土による保存がなされた。

検出された遺構は、平安時代の竪穴住居址－3軒、縄文時代と思われる陥穴－1基、pit－2基である。

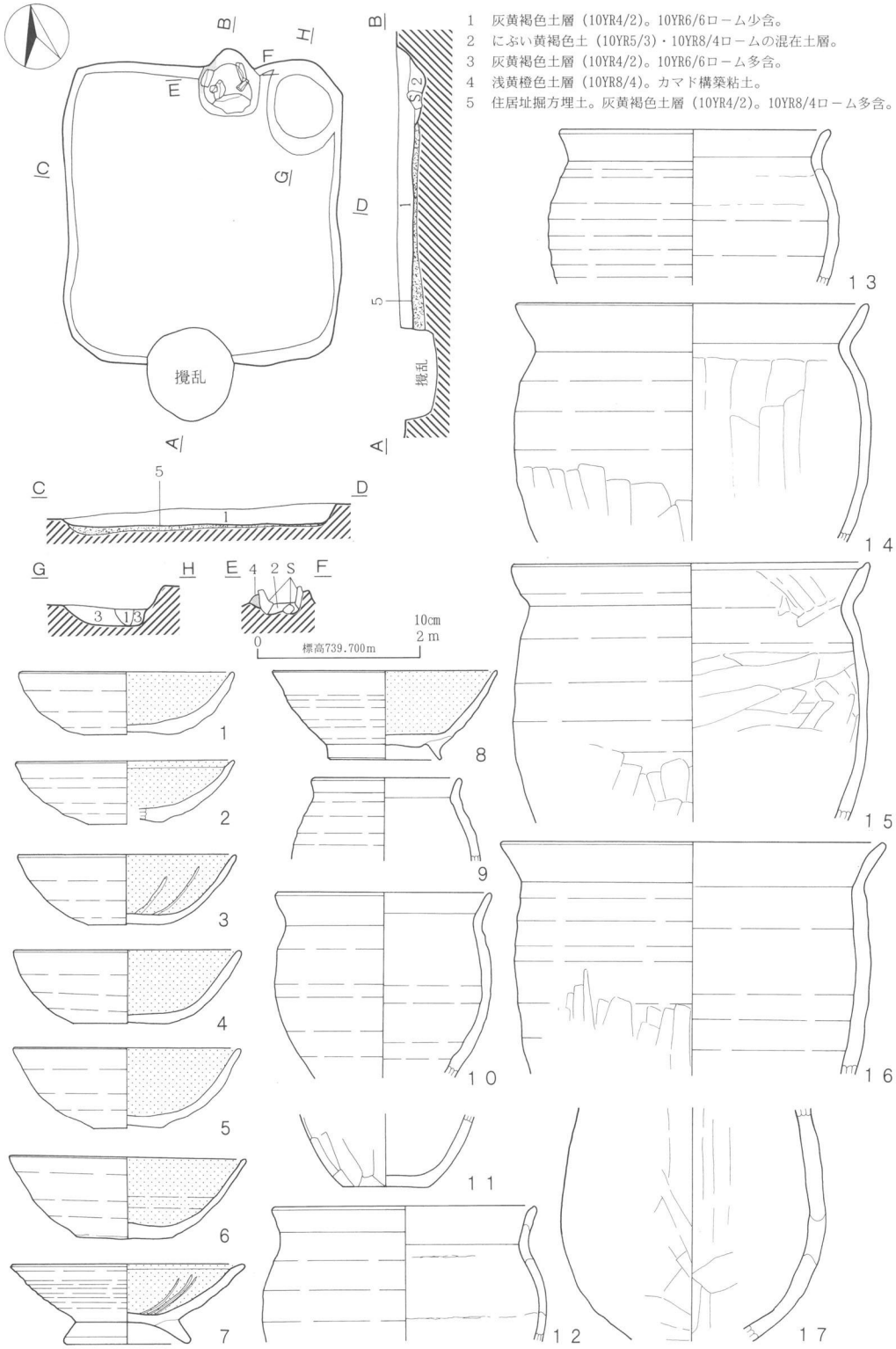
H1号住居址

本址は調査区の北端付近で検出された。林檎栽培による攪乱を受けている。隅丸長方形の平面形状を呈し、南北3.8m、東西3.5m、壁残高0.2mの規模を有する。長軸方位はN－10°－Eを示す。柱穴は存在せず、北東隅に直径1.0m、床からの深度0.4mの土坑が認められた。カマドは北壁のやや東よりに構築されており、所謂「石組み粘土カマド」である。

出土した遺物はすべて土師器である。1～6は坏で内面黒色処理が施される。3は暗文が認められる。ロクロからの切離はすべて右回転の糸切りである。7・8は有台の坏で、1～6の台無の坏に高台が付けられたものである。甕は17を除きロクロ甕である。法量的に9のような小型のものと、10～13のような中型のもの、14～16のような大型のものに分類される。叩き成形の痕跡



栗毛坂遺跡群Ⅱ全体図


1　灰黄褐色土層（10YR4/2）。10YR6/6ローム少含。
2　にぶい黄褐色土（10YR5/3）・10YR8/4ロームの混在土層。
3　灰黄褐色土層（10YR4/2）。10YR6/6ローム多含。
4　浅黄橙色土層（10YR8/4）。カマド構築粘土。
5　住居址掘方埋土。灰黄褐色土層（10YR4/2）。10YR8/4ローム多含。
撹乱
撹乱
10cm
2 m
0
標高739.700m

H1号住居址

は確認できない。体部最大径付近を境に上部はロクロによる成形痕、下部にはナデ調整が施される。11の底部には右回転の糸切り痕が認められる。

17は内外面にナデ調整が施されるもので、ロクロ甕とは器形・胎土が異なる。

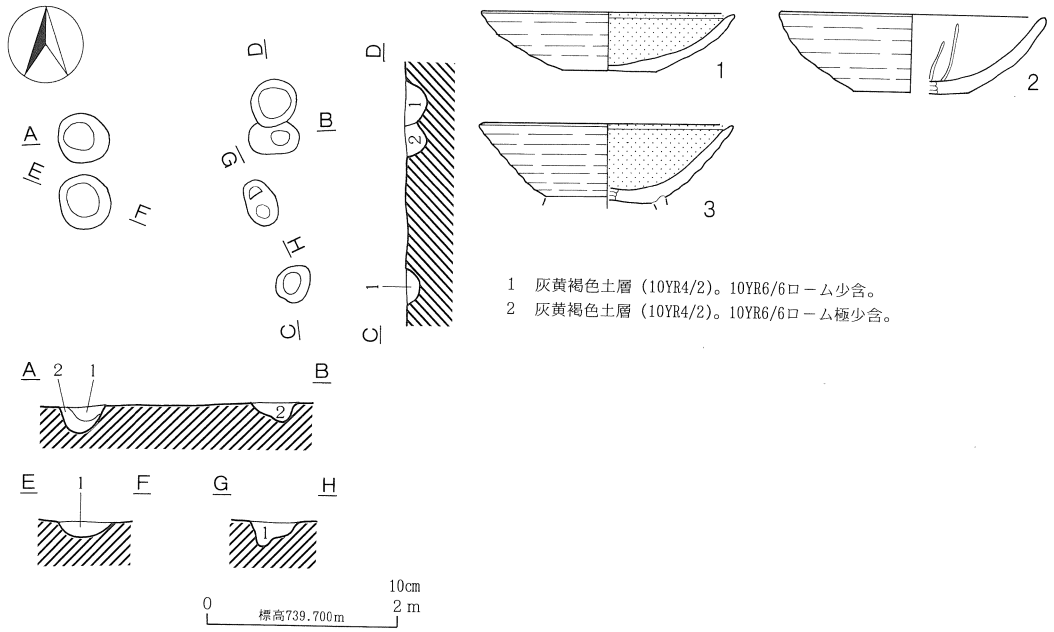
H2号住居址

本址は調査区の中央やや北東よりにおいて検出された。重機による林檎の抜根による攪乱が著しく、6基のpitの貼床の一部が残存していただけであった。pitからは柱痕は確認できなかった。また、焼土も存在しなかった。

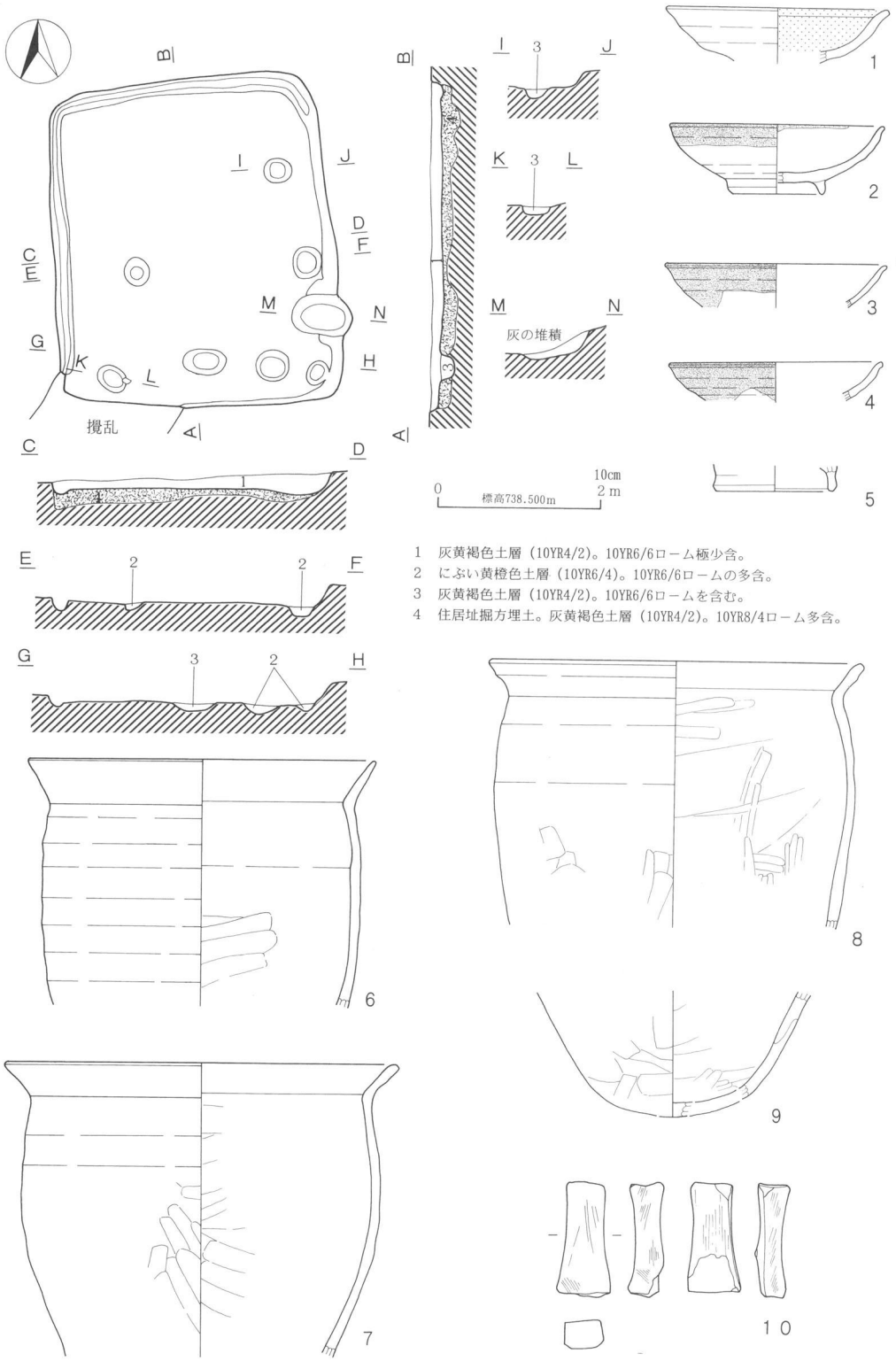
遺物は土師器が比較的まとまった量出土したが、破片が多く、図下できえたのは3点だけである。1・2は坏で、1は内面黒色処理、2は暗文が施される。ロクロからの切離は2点共に右回転の糸切りである。3は有台の坏であるが、高台を欠損する。内面黒色処理が施され、ロクロからは右回転の糸切りにより切り離される。

H3号住居址

H2号住居址の南西において検出された。長軸方位はほぼ真北である。南北4.1m、東西3.5mの隅丸長方形の平面プランを呈する。南西隅付近を攪乱により破壊される他は、他遺構との重複関係は有さない。壁残高は最大で0.25mを有し、カマドは東壁の南東隅よりに構築される。石・粘土等の構築材は残されておらず、使用時の状態は不明である。pitは7基が検出されているが、いずれも浅く、柱痕も確認できなかった。北東隅～南西隅にかけて壁下に床面からの深度5cmほ



H2号住居址



1　灰黄褐色土層（10YR4/2）。10YR6/6ローム極少含。
2　にぶい黄橙色土層（10YR6/4）。10YR6/6ロームの多含。
3　灰黄褐色土層（10YR4/2）。10YR6/6ロームを含む。
4　住居址掘方埋土。灰黄褐色土層（10YR4/2）。10YR8/4ローム多含。

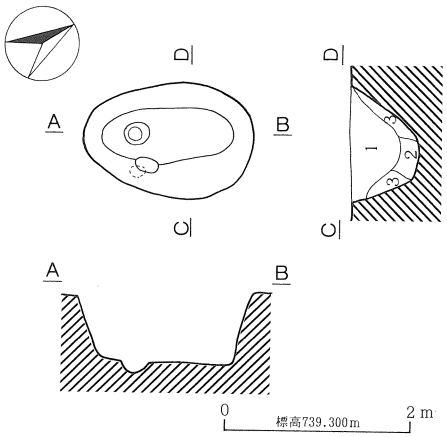
H３号住居址

どの周溝が巡らされている。

遺物は土師器・灰釉陶器・砥石が出土している。土師器には1の内面黒色処理が施される坏と、6～9のようなロクロ甕が認められる。ロクロ甕は叩き成形されないもので、体部の最大径から上部にはロクロ成形痕、下部にはナデ調整が施される。灰釉陶器はすべて椀であり、施釉は付けがけで、高台は三日月高台である。大原2号窯式期に比定されるものと思われる。砥石は鉄器を対象として使用されたものである。4面に使用痕が認められる。

D1号土坑

H1号住居址の南西において検出された。長径2.35m、短径1.25m、深度0.7mの規模を有し、卵型の平面形状を呈する。長軸方位はN－27°－Eにとる。底面に1ケ、側面に1ケの合計2ケのサカモギを埋設したと思われる小pitを有することから、本址は陥穴であろうと推測される。また覆土は質・色調共に他に検出されている平安時代の遺構とは異なることから、縄文時代の所産の可能性が強いものと思われる。遺物は出土していない。

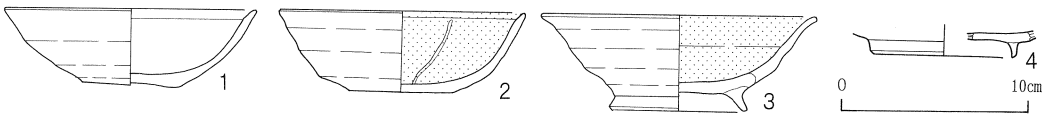


1　黒褐色土層（10YR2/2）。⌀5mm大パミス少含。
2　灰黄褐色土層（10YR4/2）。10YR6/6ロームを含む。
3　明黄褐色土層（10YR6/6）。ローム2次堆積。10YR4/2粒子少含。

D1号土坑

遺構外出土の遺物

1～3の土師器と4の灰釉陶器が図化可能であった。図化不可能であった遺物は量的には極めて少量である。1・2は坏で2は内面黒色処理・暗文が施される。ロクロからの切離は右回転の糸切りである。3は有台の坏で内面黒色処理が施され、右回転の糸切りによりロクロから切離されている。4は灰釉陶器の皿である。



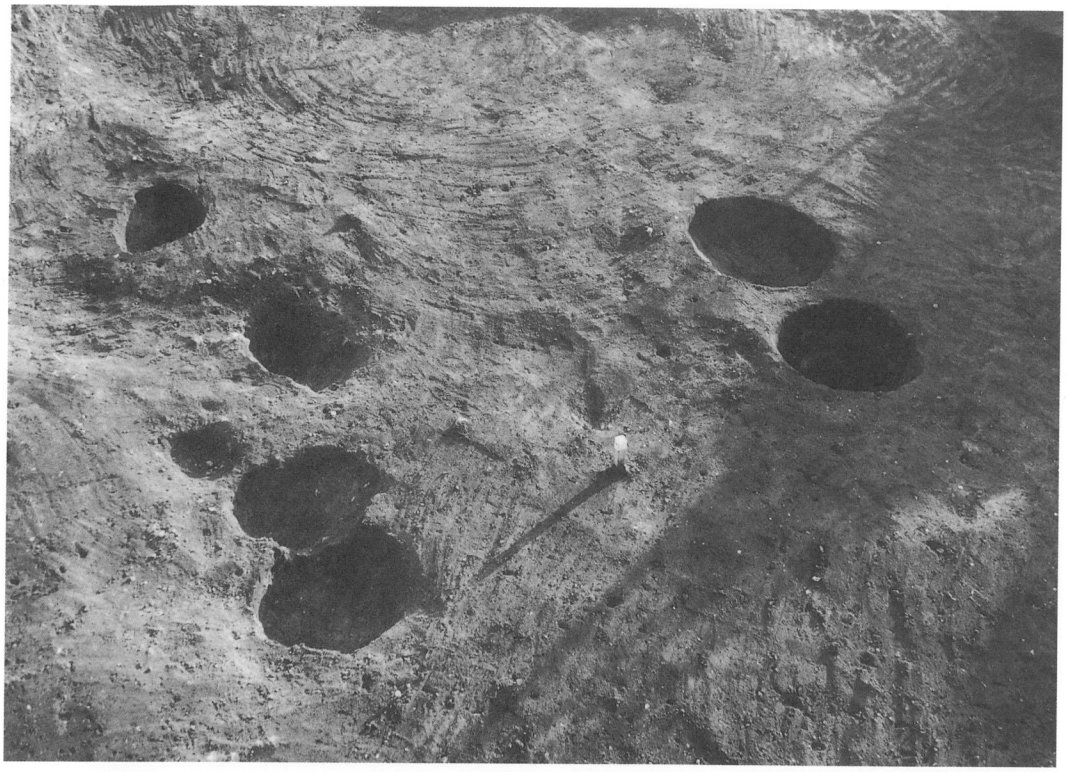
遺構外出土遺物

調査のまとめ

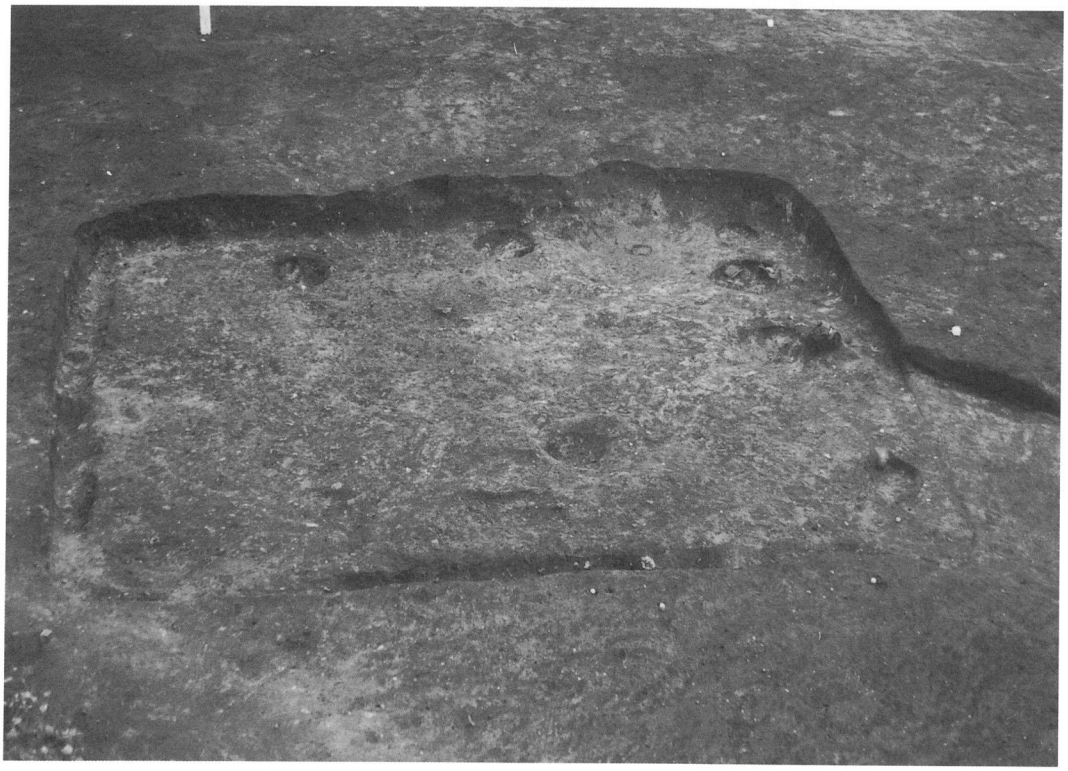
調査のまとめとして3軒の住居址の時代にふれておきたい。土器組成において須恵器が含まれないこと、土師器甕が武蔵甕でなくロクロ甕であること、伴出した灰釉陶器が大原2号窯式であることから、3軒の住居址は平安時代10世紀後半に比定されるものと思われる。

H１号住居址

H１号住居址カマド



H 2 号住居址



H 3 号住居址

D１号土坑

引用参考文献

１９８８　『薊沢・蔦石』　佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財調査センター

１９８９　『宮の上Ⅱ』　佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財調査センター.

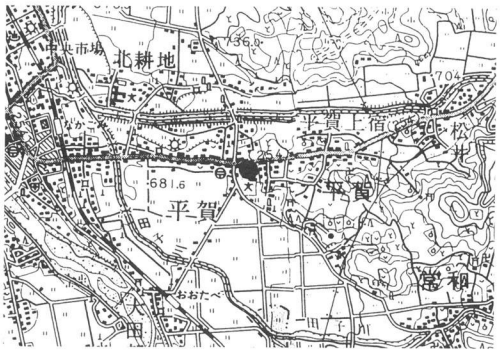
１９９３　『川原田遺跡　平安・中世編』　御代田町教育委員会

１９９５　『曽根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅷ
西曽根遺跡Ⅱ・Ⅲ』　佐久市教育委員会

１９９７　『市内遺跡発掘調査報告書１９９５』　佐久市教育委員会

平賀中屋敷遺跡群　平賀中屋敷遺跡Ⅲ

所　在　地　佐久市大字平賀字中屋敷5332－２外
調査委託者　佐久市土地開発公社
開発事業名　佐久城山児童館建設事業
調 査 期 間　平成10年９月29日～10月２日
調 査 面 積　660㎡
調査担当者　羽毛田卓也



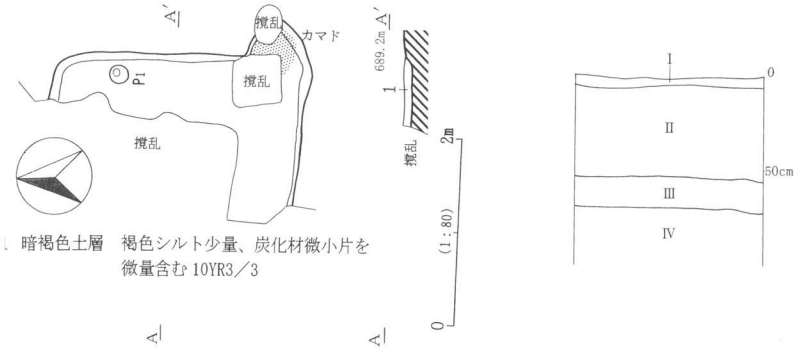
平賀中屋敷遺跡Ⅲ位置図（１：50,000）

経過と立地

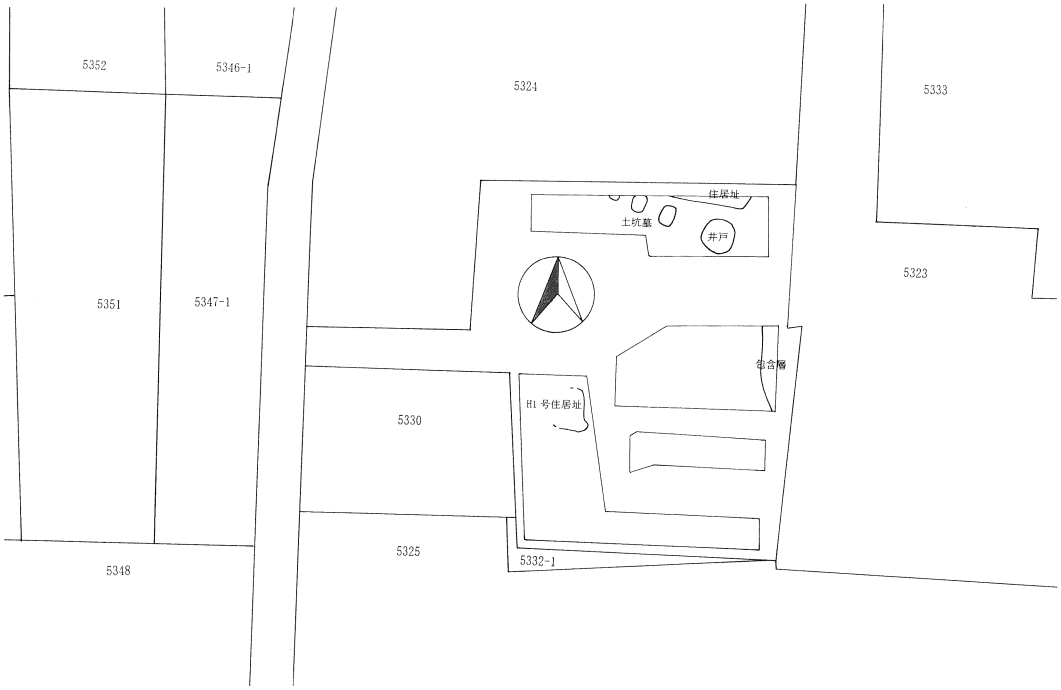
平賀中屋敷遺跡群は佐久市南部平賀集落内に展開する弥生～平安時代にかけての複合遺跡である。今回の調査地点は、遺跡群西側中央に位置する。今回佐久市による佐久城山児童館建設事業が計画されたため試掘調査を行った。その結果、遺構が検出されたため佐久市土地開発公社より委託を受け、佐久市教育委員会が調査を行った。

調査概要

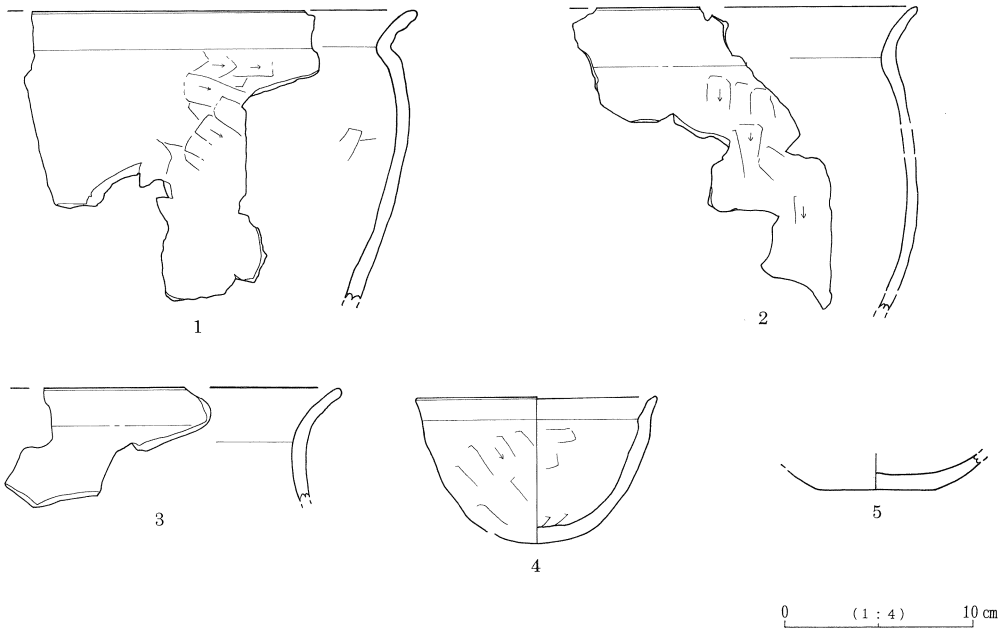
調査は、建物の建設される南側に限定して行った。北側は駐車場となるため埋め戻して保存した。調査により、北側より時代不明の住居址１棟、中世の土坑墓３基・井戸址１基が確認された。また南側より奈良時代の住居址と古墳時代の包含層が確認された。



Ｈ１号住居址実測図・全体層序模式図

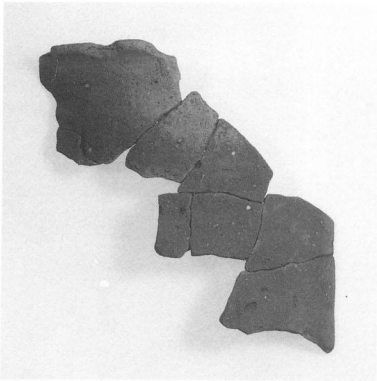


平賀中屋敷遺跡Ⅲ全体図（1：500）



平賀中屋敷遺跡Ⅲ出土土器実測図

1（1：4）



2（1：4）

トレンチ掘削状況（東より）

4（1：4）

プラン確認状況（北より）

H１号住居址

H１号住居址は、調査区の西側で検出され、西側半分とカマドの一部を撹乱により破壊される。覆土は暗褐色土層の１層が確認された。ピットは北東隅で検出され、深さは床面より22cmを測る。カマドは南東隅で検出されたが、破壊・崩壊が著しく、赤褐色に変色した火床部のみが残存していた。遺物は挿図の１～４番までの土器が出土した。所産期は奈良時代と考えられる。

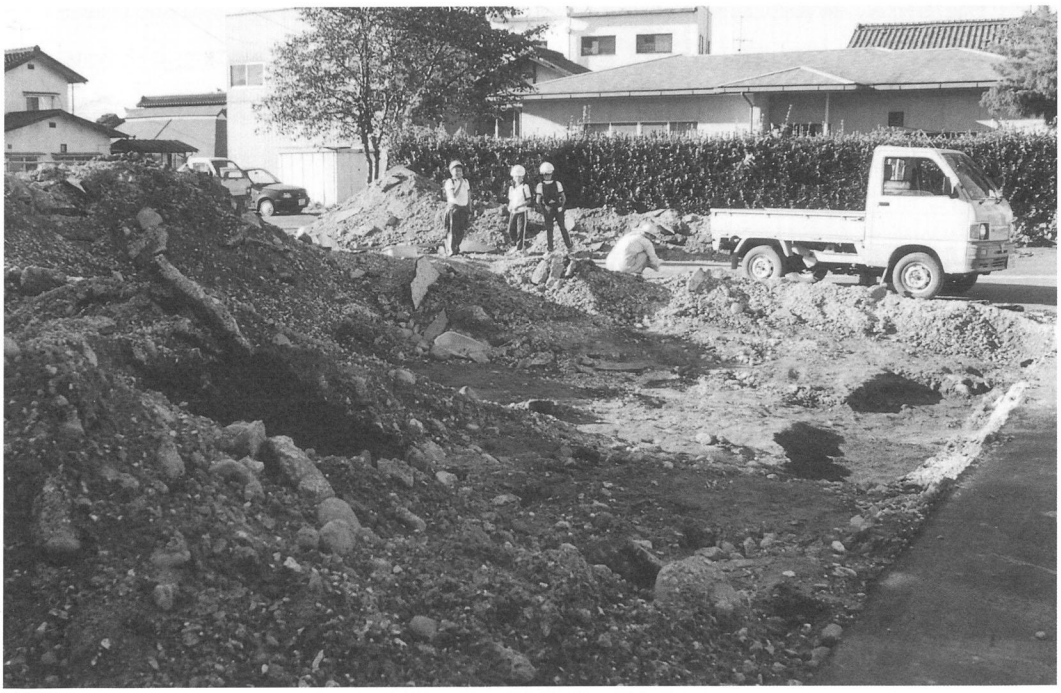
包含層

調査区の東側で検出された。南北方向に広がり、西から東に向かって傾斜する。覆土は砂礫を多量に含む暗褐色土であった。遺物は古墳時代末の須恵器の大甕の破片、奈良時代の土師器の坏・甕片などが出土した。

平賀中屋敷遺跡Ⅲ出土土器説明表

番号	出土遺構	器　種	特　　徴
1	H１	甕	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。
2	H１	甕	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。
3	H１	甕	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。
4	H１	鉢	胴部外面篦削り、内面篦ナデ。口縁内外横ナデ。
5	包含層	坏	内面黒色処理。底部回転糸切り後縁を篦削り。

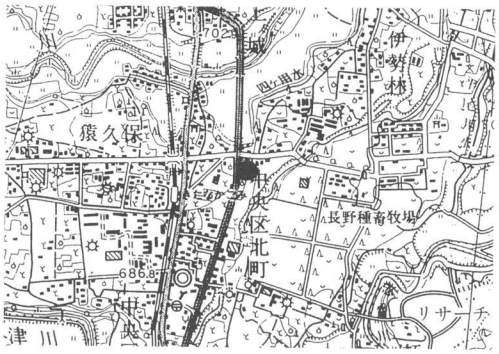
Ｈ１号住居址（北より）



調査区東側近景（南より）

番屋前遺跡群　番屋前遺跡Ⅲ

所　在　地　佐久市大字猿久保27－1外
調査委託者　長野県経済事業
　　農業協同組合連合会
開発事業名　店舗建設事業
調 査 期 間　平成10年11月7日～12月24日
調 査 面 積　2,500㎡
調査担当者　羽毛田卓也



番屋前遺跡Ⅲ位置図（1：50,000）

経過と立地

番屋前遺跡群は、佐久市大字猿久保・中込に所在し、南北に伸びる田切地形（帯状低地と帯状台地の交互地形）の帯状台地上標高689mから699mに展開する弥生時代・平安時代から中世の複合遺跡である。本遺跡は平成8年に発掘調査され、時代不明瞭な溝・土坑・井戸が検出されている。今回調査した番屋前遺跡Ⅲは、本遺跡中央東端の標高694m内外を測る台地東端に位置する。

今回、長野県経済事業農業協同組合連合会が行う店舗等建築工事に伴い、長野県経済事業農業協同組合連合会と佐久市教育委員会とで協議の結果、試掘調査により遺構の確認作業を行うこととなった。試掘調査により対象地全体に中世の遺構が広がっていることが判明し、再度両者で協議を行った。その結果、駐車場部分に若干の盛り土をし保存することとし、店舗本体部分については長野県経済事業農業協同組合連合会より委託を受けた佐久市教育委員会が主体となって発掘調査を行う運びとなった。

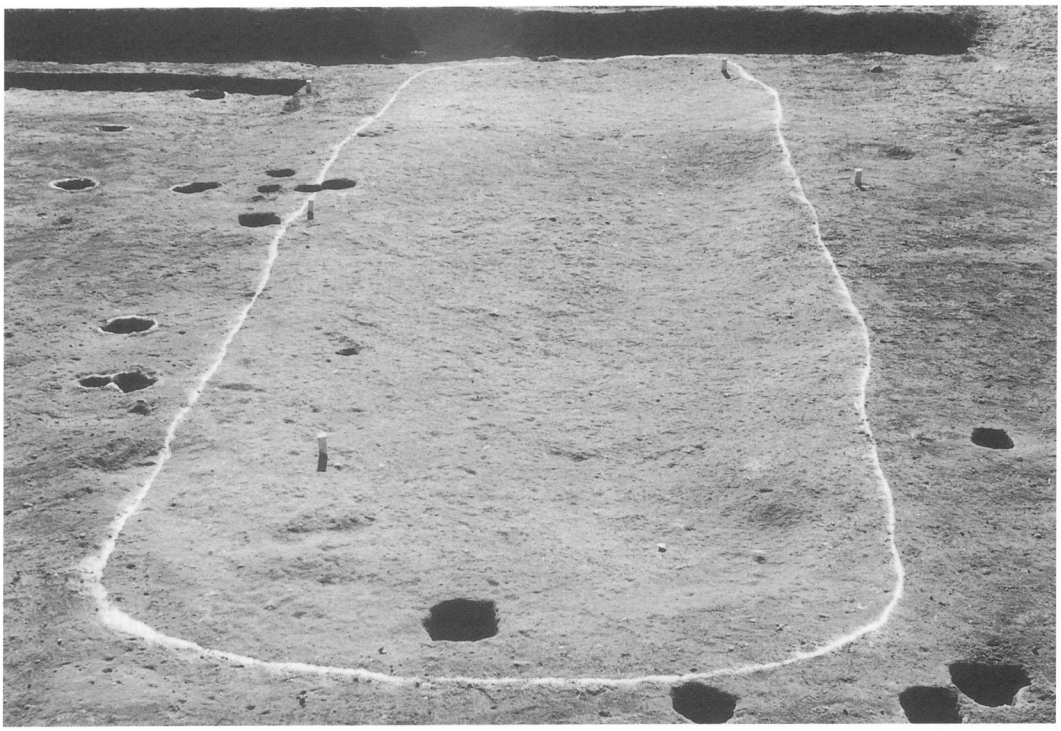
調査概要

調査により以下の遺構が検出された。

中世の竪穴遺構　3棟（上屋を持つ土間状遺構1棟）
中世の土坑　64基（内井戸址1基）　中世の柱穴　1006基
中世の溝状遺構　7条（区画溝3条、道路址1条）

主たる出土遺物

縄文時代中期・弥生時代の土器片・石器（石匙・石鏃・打製石斧など）
中世前半代の国産陶器（常滑製甕片・瀬戸壷片など）、外国産磁器（青磁・白磁）
中世の土師質土器・土鍋、金属製品、古銭など、近世の国産陶磁器



中世の土間状遺構（北より）

調査区西側全景（東より）

中西ノ久保遺跡Ⅳ

所　在　地　佐久市大字岩村田字中西ノ久保2423－2
字南西ノ久保2443－3外・字東西ノ久保2425

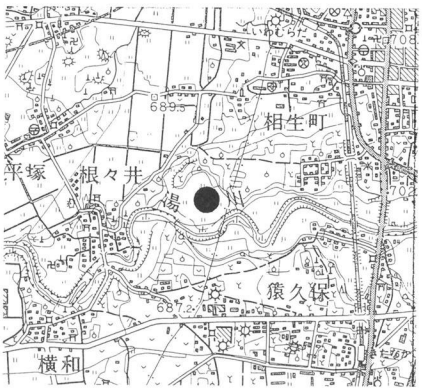
調査委託者　佐久市土木課

開発事業名　緊急地方道整備事業（市道改良）

調 査 期 間　平成10年7月21日～9月9日

調 査 面 積　1,290㎡

調査担当者　林　幸彦



中西ノ久保遺跡Ⅳ位置図（1：50,000）

経過と立地

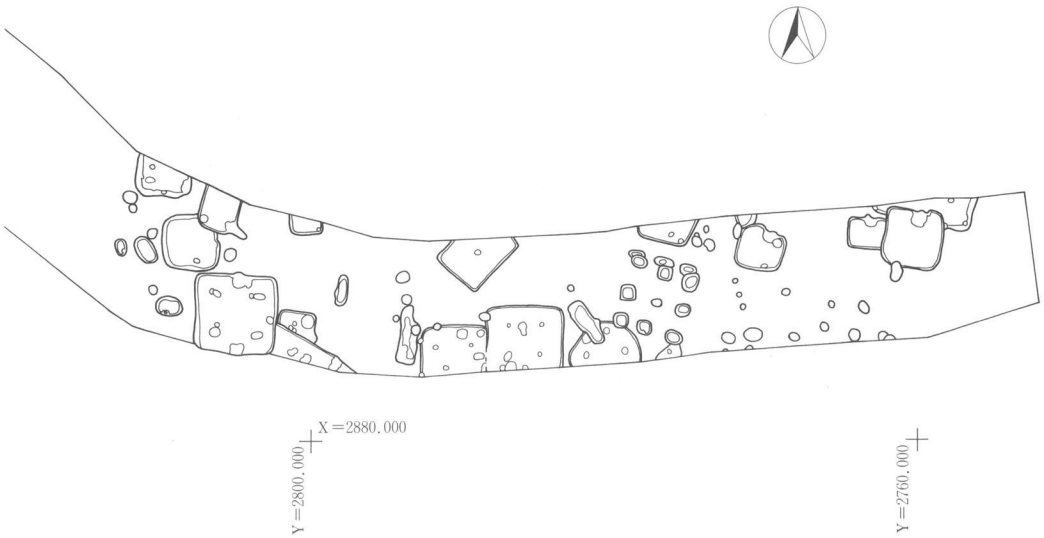
中西ノ久保遺跡は、湯川の第三段丘上にあり標高680mを測る。湯川との比高は約10mで従前は、遺跡の存在は希薄であるとされていた段丘である。これより高位の段丘上には、県内では稀少な形象埴輪等を出土した古墳群、弥生時代中期・後期、古墳時代中期、平安時代の集落が検出された北西ノ久保遺跡、弥生時代中期の人面付土器が出土し弥生時代中期～平安時代の大集落が調査された一本柳遺跡群が所在する。しかし、1992年度の佐久公共下水道工事に伴う中西ノ久保遺跡Ⅰでは予想を覆して、古墳時代～平安時代の竪穴住居址18軒掘建柱建物址1棟等が検出され、この段丘上にも古代の集落が存在したことが判明した。さらに、1995年度の国道141号バイパス工事に伴う中西ノ久保遺跡Ⅱの調査では、古墳時代～平安時代の竪穴住居址34軒、掘建柱建物址7棟等が確認され、各時代の集落が密集した状況で複合していることがわかった。

この両遺跡に隣接して市道改良が行われることになり、昨年（1997年）の中西ノ久保遺跡Ⅲに引き続き発掘調査を実施した。

調査概要

調査の結果、古墳時代・古墳時代後期・奈良・平安時代の竪穴住居址16軒、掘建柱建物址2棟、溝2本、土坑6基、ピット群が検出された。

遺物は、弥生時代後期の土器、古墳・奈良・平安時代の土師器・須恵器、灰彩陶器等が出土した。



中西ノ久保遺跡Ⅳ調査全体図（1：250）

中西ノ久保遺跡Ⅳ航空写真（上が北）

中西ノ久保遺跡Ⅳ航空写真（上が北）

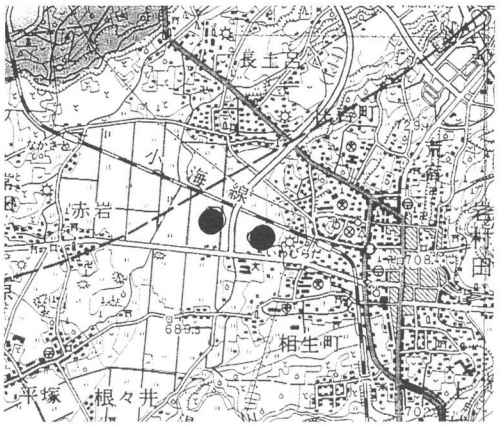
中西ノ久保遺跡Ⅳ掘立柱建物址付近航空写真（上が北）

円正坊遺跡群 清水田遺跡Ⅱ 枇杷坂遺跡群 永存遺跡Ⅱ

円正坊遺跡群

清水田遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字岩村田字清水田1369－1外
調査委託者　佐久市区画整理課
開発事業名　佐久駅周辺土地区画整理事業
調 査 期 間　平成10年５月11日～８月５日
調 査 面 積　3,540㎡
調査担当者　林　幸彦



円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ
枇杷坂遺跡群永存遺跡位置図（１：50,000）

枇杷坂遺跡群

永存遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字岩村田字永存
調査委託者　佐久市区画整理課
開発事業名　佐久平駅前区画整理事業
調 査 期 間　平成10年４月22日～５月25日
調 査 面 積　2,560㎡
調査担当者　林　幸彦

円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ航空写真（上が北）

経過と立地

清水田遺跡は円正坊遺跡群の西端にあり標高は701ｍ～704ｍを測る。北東100ｍにある清水田遺跡Ⅰが、1979年（昭和52年）に圃場整備事業に先立ち記録保存調査されている。弥生時代後期の竪穴住居址10棟、古墳時代後期の竪穴住居址３棟以上が検出されている。

また、中部電力㈱による送電線鉄塔付け替え工事により、隣接する円正坊遺跡群円正坊遺跡Ⅱ

が調査されている。弥生時代中期・後期、古墳時代後期初頭、平安時代の竪穴住居址8棟、掘立柱建物址1等が検出されている。付近には1930年（昭和5年）に神津猛等により竪穴住居址3棟が調査された岩村田駅遺跡がある。また、江戸中期に吉沢鶏山が著した「四隣譚藪」に、円勝寺の廃址として円勝寺または円正坊と呼ばれる地があり、この付近一帯より壺等が出土すると記されているように古くから知られ調査されている。

円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ航空写真（南東から）

遺跡付近では田切り地形が消滅し、一見平坦な地形を見せているが、塚原泥流の残丘地形が埋没しており決して単調な平地ではないことが、いくつかの発掘調査によりわかっている。残丘周辺の平旦地と北東から残丘に伸びる微高地、それを取り巻く低地といった地形が随所にみられる。残丘周辺の平坦地及び微高地上からは、多くの集落が検出されている。

円正坊遺跡群清水田遺跡ⅡH7号住居址に見られる墳砂(北から)

佐久駅周辺土地区画整理事業予定地は水田圃場整備が実施されているが、多くの遺跡が破壊されずに残っていることが予定地内での調査により判明している。1995（平成7）年の長土呂遺跡群上村遺跡、1996（平成8）年の長土呂遺群上前田遺跡、1997（平成9）年の枇

円正坊遺跡群清水田遺跡ⅡＨ２号住居址（南から）

円正坊遺跡群清水田遺跡ⅡＨ４号住居址（東から）

杷坂遺跡群下伯母塚遺跡・直路遺跡などが区画整理事業予定地内で発掘調査されている。

今回、JR小海線以南から県道下仁田・浅科線、市道佐久駅蓼科口線の間約166,000㎡を試掘調査した。その結果、第６号公園の北西100ｍ（枇杷坂遺跡群永存遺跡）に土抗等が、第７号公園付近（円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ）に竪穴住居址等が確認されたので、引き続き発掘調査を実施した。

調査概要

円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱからは、弥生時代後期の竪穴住居址９棟、溝状遺構３本が検出され、枇杷坂遺跡群永存遺跡からは、土抗と畑または水田とみられる遺構が検出された。

円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ調査全体図（1：500）

枇杷坂遺跡群　直路遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字岩村田字直路307－1外
字水引272－1外

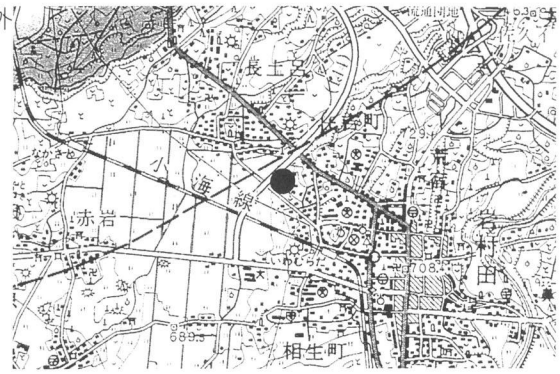
調査委託者　佐久市区画整理課

開発事業名　佐久駅周辺土地区画整理事業

調 査 期 間　平成10年8月25日～12月15日

調 査 面 積　3,890㎡

調査担当者　林　幸彦



枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅱ位置図（1：50,000）

経過と立地

枇杷坂遺跡群は標高705～735ｍを測り、仙禄湖から南西に約2㎞約300ｍを測る広大なものである。仙禄湖付近は「田切り」地形が顕著であるが、枇杷坂遺跡群の南端に至ると谷底との比高差が減少し、微高地状の地形となる。標高705ｍ付近は水位が高く、また、湧水もみられ水引・清水田といった小字名もみられる。本遺跡群内では、多くの遺跡が調査されている。今回の調査地点付近では、1978（昭和53）年～1985（昭和60）年に北佐久農業高校用地内において琵琶坂遺跡Ⅰ～Ⅴの発掘調査が実施され竪穴住居址5棟（弥生時代後期2、古墳時代後期3）が検出された。また、1985（昭和60）年の㈱イケウチの店舗建設の際には、上直路遺跡が調査されて弥生時代後期の竪穴住居址2棟等が検出された。弥生時代後期の第1号住居址からは、21点の銅釧や多量の土器が出土した。1997（平成9）年に佐久駅周辺土地区画整理事業に伴い直路遺跡Ⅰが調査され、弥生時代中期・後期の竪穴住居址5棟等が検出された。

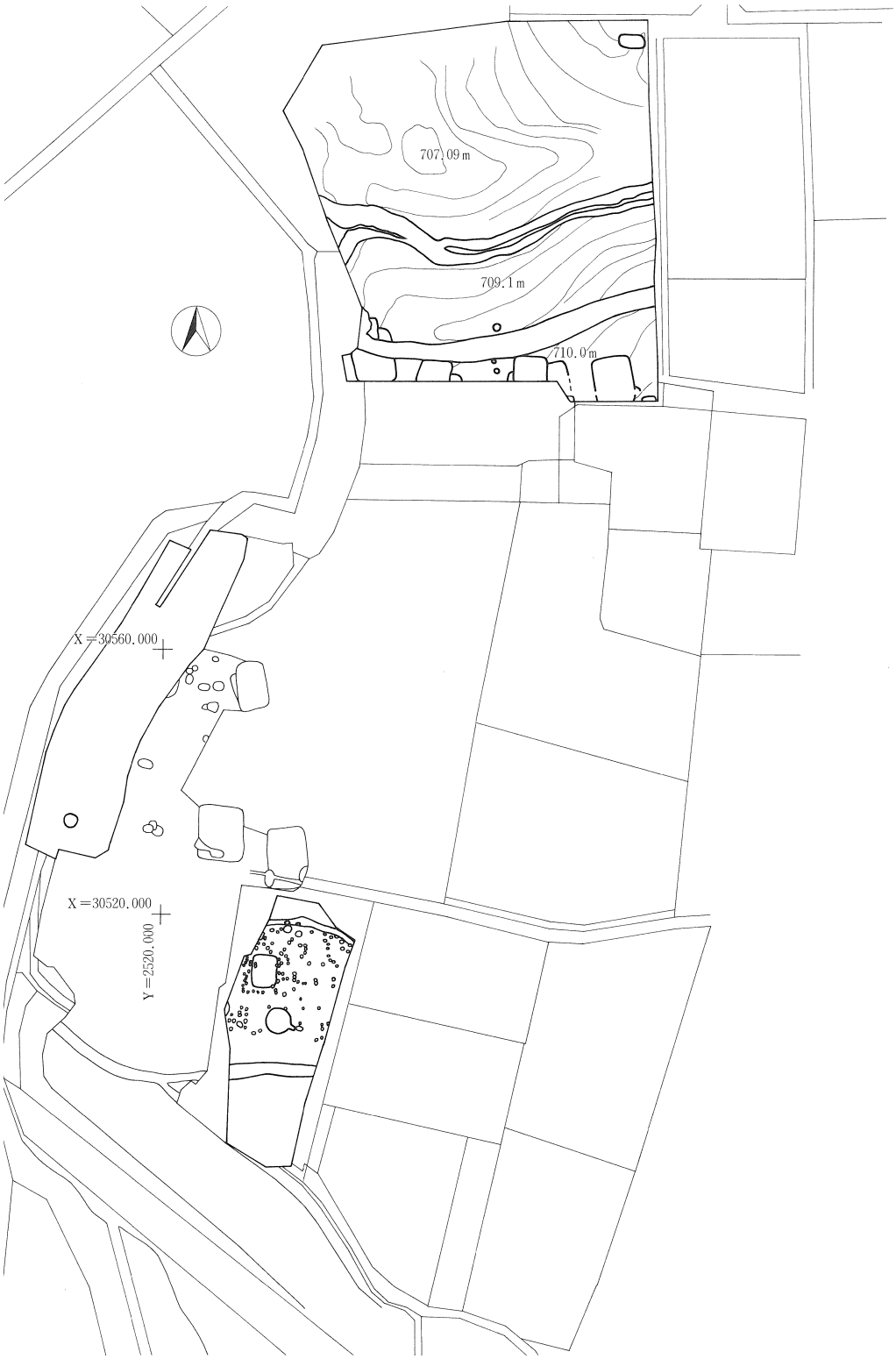
今回、直路遺跡Ⅰの東に隣接する地点と北側の地点を調査した。

調査概要

調査の結果、南側の調査区では、中世の井戸址1基・竪穴遺構1基・溝2本・多くの土坑やピット群が検出された。

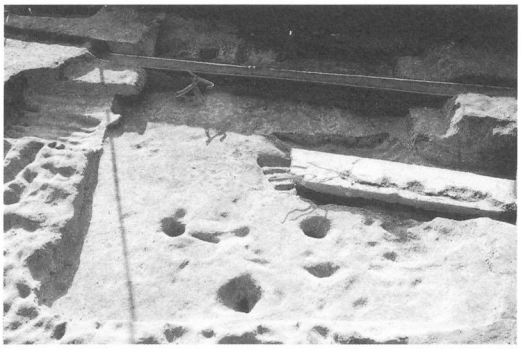
北側の調査区からは、弥生時代後期の竪穴住居址10棟、溝2本等が検出された。壁が東から西へ大きくずれていたり、不自然に歪んだ堆積状態の覆土から2棟の竪穴住居址に何らかの地殻変動が認められた。

遺物は、弥生時代後期の土器等が出土した。

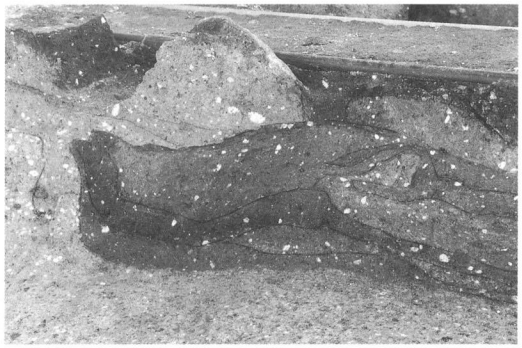


枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅱ調査全体図（1：1000）

枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅱ航空写真（北から）

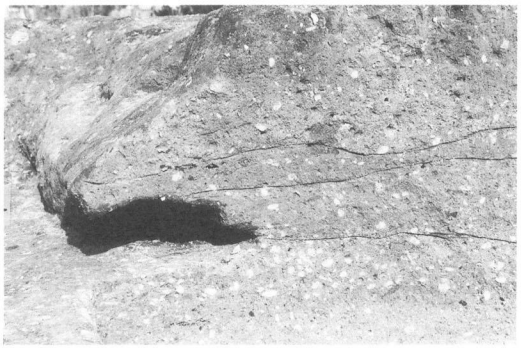


枇杷坂遺跡群直路遺跡ⅡＨ10号住居址全景（北から）



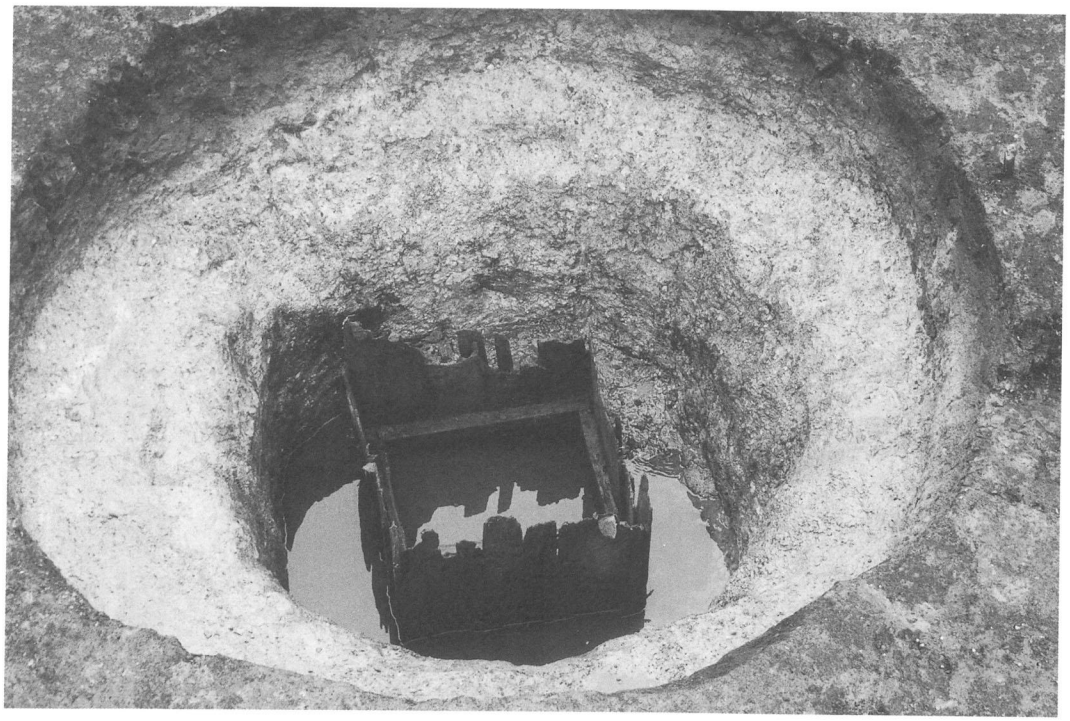
直路遺跡ⅡＨ10号住居址壁が西へずれている（北から）

直路遺跡ⅡＨ10号住居址壁が西へずれている（北から）



直路遺跡ⅡＨ８号住居址壁が西へずれている（南から）

枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅱ（井戸址、竪穴状遺構、ピット群　南から）



枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅱ井戸址

芝宮遺跡群　下曽根Ⅵ・Ⅶ

所　在　地　佐久市小田井

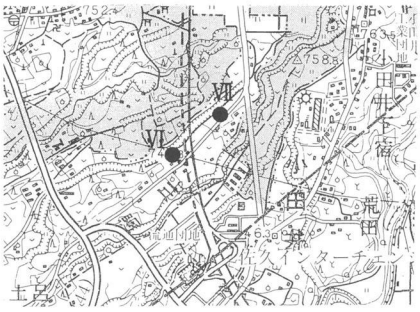
調査委託者　佐久市新幹線高速課

開発事業名　市道改良

調 査 期 間　平成10年８月17日～平成11年３月31日

調 査 面 積　1,453㎡

調査担当者　小林　眞寿



下曽根Ⅵ・Ⅶ位置図（１：50,000）

経過と立地

芝宮遺跡群は佐久市の北部に位置し、古墳時代から平安時代の集落遺跡として知られている。この付近は浅間火山の第一軽石流の堆積と浸食により形成された田切地形の発達した地域であり、この田切りに挟まれた台地上には多くの遺跡が存在している。

平成６年度から、佐久市による市道改良に伴い、調査を行っている下曽根遺跡Ⅵ・Ⅶ次調査を平成10年度にも実施した。

調査概要

平成10年度の調査で検出された遺構は以下のとおりである。

○下曽根Ⅵ

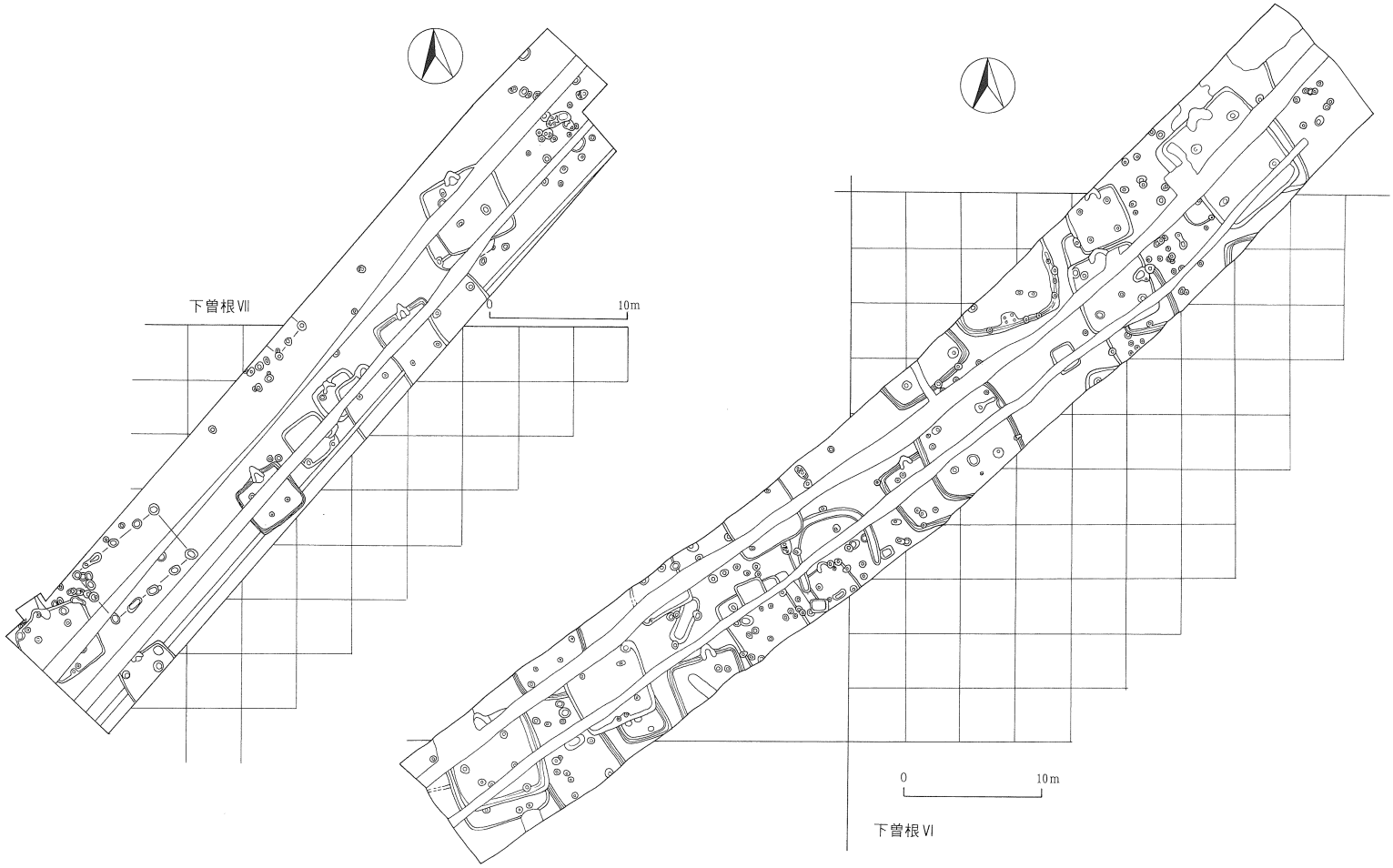
竪穴住居址－30軒（古墳時代後期から平安時代）、竪穴－２基（中世）

土坑－２基、pit－113基

○下曽根Ⅶ

竪穴住居址－10軒（古墳時代から平安時代）、掘立柱建物址－２棟、pit－61基

下曽根遺跡Ⅵ遠景



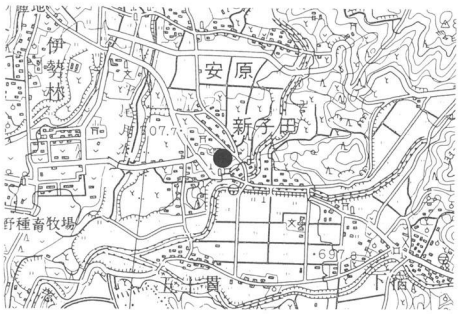
下曽根ⅥⅦ全体図

下曽根Ⅵ　調査風景

下曽根Ⅶ　重複する住居址

戸坂遺跡群　四ツ塚遺跡Ⅰ

所　在　地　佐久市大字新子田字供養塚
調査委託者　佐久市保険福祉部老人福祉拠点整備推進室
開発事業名　老人福祉拠点推進事業
調 査 期 間　平成10年７月１日～平成11年３月31日
調 査 面 積　4,600㎡
調査担当者　上原　学



四ツ塚遺跡Ⅰ位置図（1：50,000）

経過と立地

戸坂遺跡群は、佐久市岩村田市街地の西1.5kmの新子田地積に展開し、標高705ｍ内外の台地上に位置する。調査区は旧三井小学校跡地にあたり、以前は古墳と考えられる４基の塚が存在したとされる地域である。

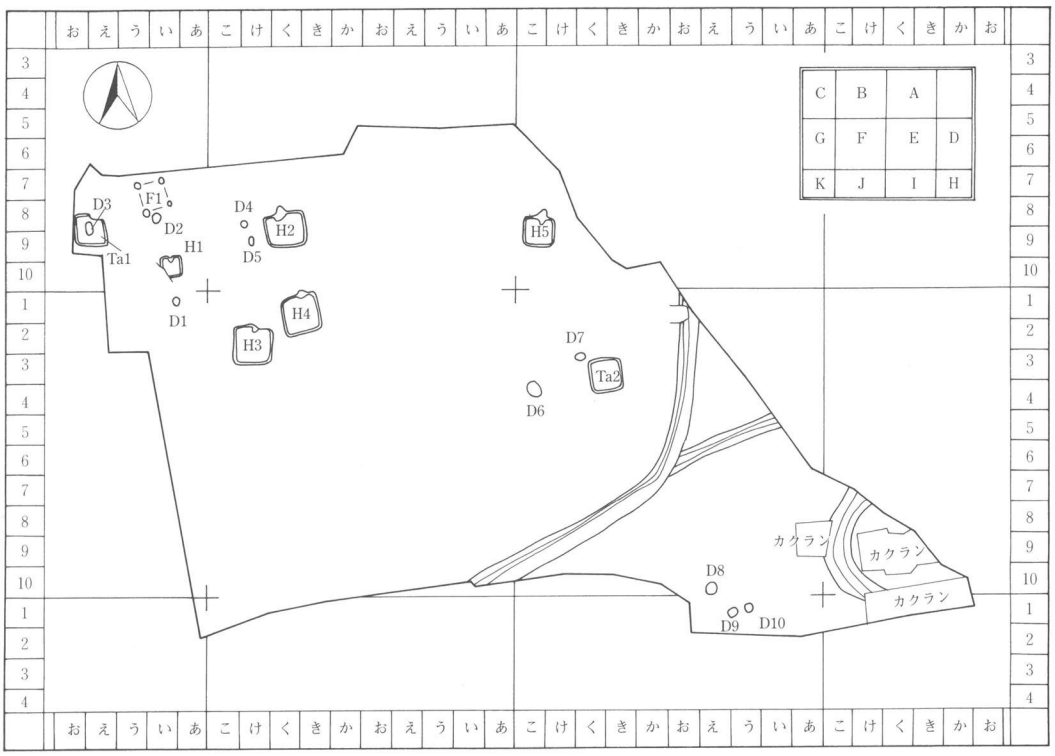
今回、佐久市による老人福祉拠点推進事業が行われることとなり、平成10年３月に遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。その結果、古代の竪穴住居址等の遺構が認められたため、遺跡の記録保存を目的として本調査を行った。

調査概要

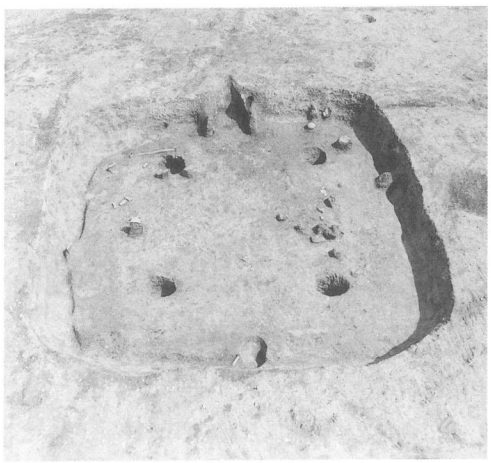
調査の結果、竪穴住居址５軒、掘立柱建物址１棟、土坑10基、溝状遺構２条、竪穴状遺構２棟、古墳跡１基が認められた。住居址は調査区北半を中心に存在しすべて奈良時代であった。掘立柱建物址は調査区北東隅に位置する。土坑は調査区南西付近を除く地域に計10基認められたが、掘立柱建物址共々確実な時期は不明である。溝状遺構は２条認められ、１本は調査区の西寄りを南北方向にやや湾曲しながら走り、西から来る溝と合流する。遺物は土師器・須恵器片が僅かに出土したが、溝の形状及び付近に中世の城跡が存在する事から、中世の溝址である可能性が高い。古墳跡は調査区の西際に存在が認められたが、墳丘及び主体部は完全に破壊されており、周溝の一部が僅かに確

四ツ塚遺跡Ⅰ航空写真

認できた。遺物は7世紀末、8世紀始め、9世紀前半の3時期の土器が周溝内から出土した。これらの遺物は、住居址の時期と大差がないため、古墳と住居の居住者との関係が興味深い。また、古墳周辺の攪乱からは埴輪片も出土しており、四ツ塚古墳の中には埴輪を飾ったものも存在していた可能性が推察できた。



四ツ塚遺跡Ⅰ調査全体図



H2号住居址全景（南から）

古墳跡全景

戸坂遺跡群　供養塚遺跡

所　在　地　佐久市大字新子田字供養塚897-1・877-1
調査委託者　佐久市保険福祉部児童課
開発事業名　児童館建設事業
調 査 期 間　平成10年７月１日～平成11年３月31日
調 査 面 積　1,200㎡
調査担当者　上原　学

供養塚遺跡位置図（１：50,000）

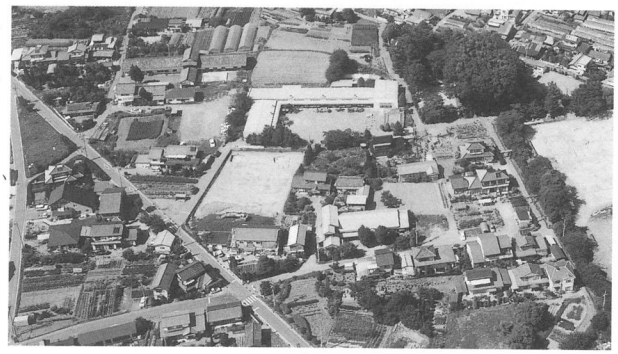
経過と立地

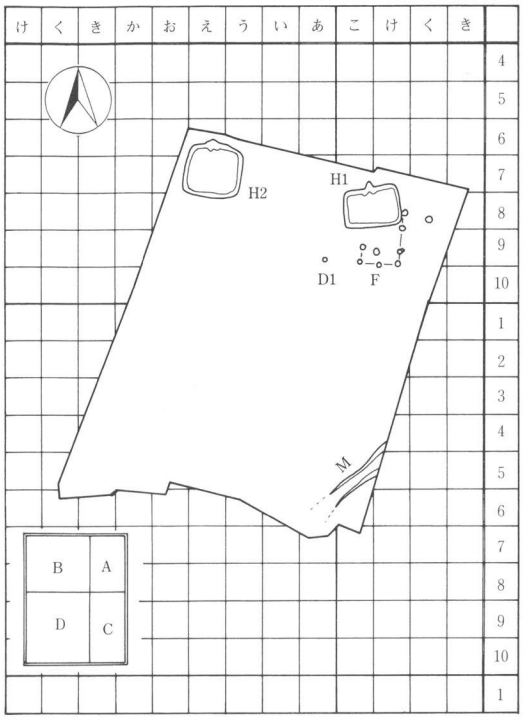
戸坂遺跡群は、佐久市岩村田市街地の西1.5kmの新子田地積に展開し、標高705ｍ内外の台地上に位置する。調査区は遺跡群中央のやや北東寄りにあり、東保育園の南に隣接する。付近には遺跡群、城跡と称する地域も多く、東に高師町遺跡群、西に四ツ塚古墳、南に浅井城跡・鳥坂城跡・家之前遺跡、北に新子田神明の木遺跡が所在する。

今回、佐久市による児童館建設事業が行われることとなり、平成10年３月に遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。その結果、古代の竪穴住居址が確認されたため、遺構の記録保存を目的として本調査を行った。

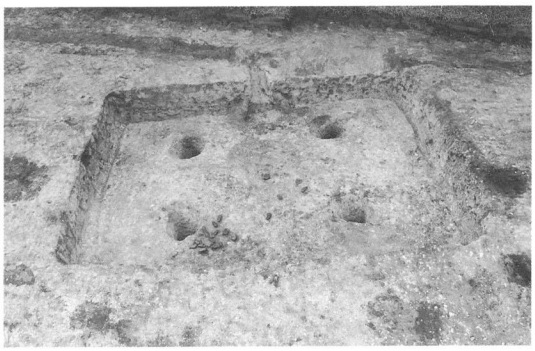
調査概要

調査の結果、奈良時代の竪穴住居址２軒、掘立柱建物址１棟、溝状遺構１条が確認できた。遺構の大半は調査区北半に認められ、南には時期不明の溝状遺構１条のみであった。竪穴住居址は１片が約６ｍ、壁高0.9ｍの正方形のものと、東西約６ｍ、南北約５ｍ、壁高0.6ｍの長方形の２軒が認められた。かまどは共に北壁のほぼ中央に構築されていた。掘立柱建物址は長方形の住居址と切り合い関係にあり、住居址に切られている。遺物は、２軒の住居址内から土師器を中心に出土しており、これらは８世紀第一四半期の特徴を有することから、本遺跡において認められた住居址は、８世紀初め頃に使用されていたものと考えられる。


供養塚遺跡航空写真

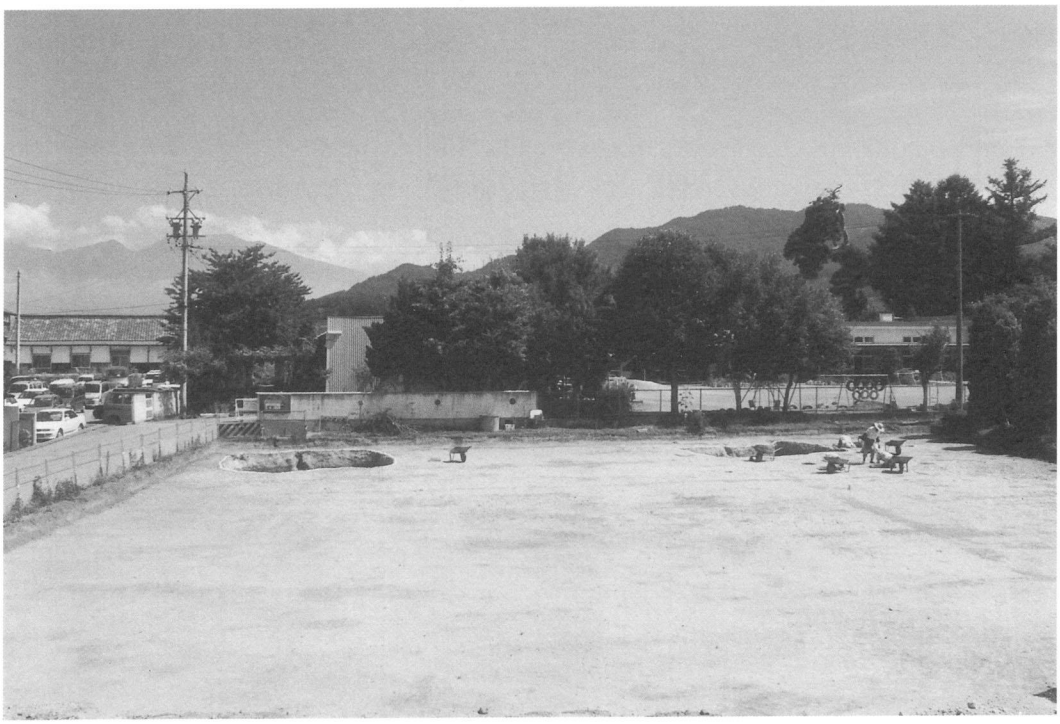


供養塚遺跡調査全体図（1,800）



H１号住居址全景（南から）

H２号住居址全景（南から）



供養塚遺跡全景

Ⅳ

西一本柳遺跡Ⅶ
報告書

一本柳遺跡群　西一本柳遺跡Ⅶ

所　在　地　佐久市大字岩村田字常木
2339－７、2339－１他

調査委託者　笹沢　幸司

開発事業名　店舗兼住宅建設

調 査 期 間

発掘調査　平成10年（1998）９月22日
～10月23日

整理作業　平成10年（1998）10月26日
～平成12年（2000）３月31日

調 査 面 積　977㎡

調査担当者　森泉かよ子

第１図　西一本柳遺跡Ⅶ位置図　（１：50,000）

凡　例・例　言

１．遺構の略号は次の通りである。

Ｈ－竪穴住居址、Ｆ－掘立柱建物址、Ｄ－土坑、Ｍ－溝状遺構、Ｐ－ピット

２．遺構の縮尺は竪穴住居址１／80、土坑１／60、掘立柱建物址－１／80、溝状遺構１／200、遺物１／４を基本とし、異なる場合は図に明記してある。

３．挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

遺構

地山断面　焼土　粘土　柱痕

遺物

赤色塗彩－濃い　赤色塗彩－淡い　礫

須恵器　黒色処理・煤

４．遺構図の海抜標高は各遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」として示した。

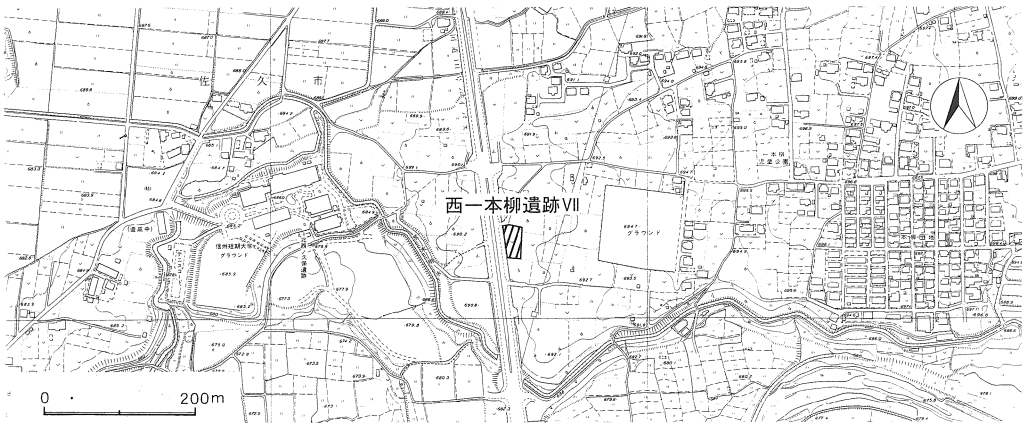
６．土層・土器の色調は、1988年『新版標準土色帖』に基づいた。

経過と立地

一本柳遺跡群は、佐久市岩村田地籍に所在し、東西方向に流れる湯川の右岸の台地上にある。岩村田市街地の南西1㎞、標高690m前後を測り、浅間第1軽石流を地盤とし、田切り地形が発達している地点である。一本柳遺跡群は田切り上を南西に展開し、中央から西半分を西一本柳遺跡、東半分を東一本柳遺跡、中央部北を北一本柳遺跡と呼称している。この地域は市街地に近いため宅地化が進んでおり、本遺跡群内では東一本柳遺跡が昭和43年度に宅地造成に伴い発掘調査が実施され、古墳時代後期の竪穴住居址5棟が検出された。それをはじめとして昭和46年度東一本柳古墳の調査では青銅板に金張りを施した馬具の飾り金具を出土し、北一本柳遺跡、西一本柳遺跡Ⅰ、さらに北西ノ久保遺跡の発掘調査が行われ、弥生中期～平安時代の集落や弥生～近世の墳墓等が数多く検出されている。本遺跡の周辺は、平成4年の公共下水道事業で西一本柳遺跡Ⅱ、平成7～10年度の同じく国道141号線の工事に伴い西一本柳遺跡Ⅲ～Ⅵとして調査され、密集した古代集落が検出されている。

弥生時代中期から中世に至るまでの人々の痕跡が残され、佐久市内で有数な遺跡の一つである。本遺跡群の周辺についてみると、東方に上の城遺跡群・岩村田遺跡群の古墳時代から中世にわたる集落みられる。本遺跡との間には低地が存在している。遺跡群全体が低地に囲まれた環濠集落状の台地だったようである。南は湯川に望み、北にも川が流れる低地をもつ自然条件に恵まれた所であった。本遺跡群に含まれるであろう南東の常木用水を挟んで一段下がった中西の久保遺跡群からは古墳時代初頭の集落もみられる。

国道141号線は西一本柳遺跡を南北に貫くが、本遺跡はその東に隣接し南西に延びる台地の南よりである。今回、店舗兼住宅建設が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、笹沢幸司氏より委託を受け佐久市埋蔵文化財課が発掘調査を実施することとなった。



第2図　発掘区設定図（1：10,000）

調査概要

遺構

竪穴住居址

弥生時代	8棟
古墳時代	7棟
平安時代	2棟

竪穴状遺構	1棟
掘立柱建物址	5棟
土　坑	8基
溝状遺構	6本
単独ピット	50個

主な出土遺物

弥生時代中期後半土器

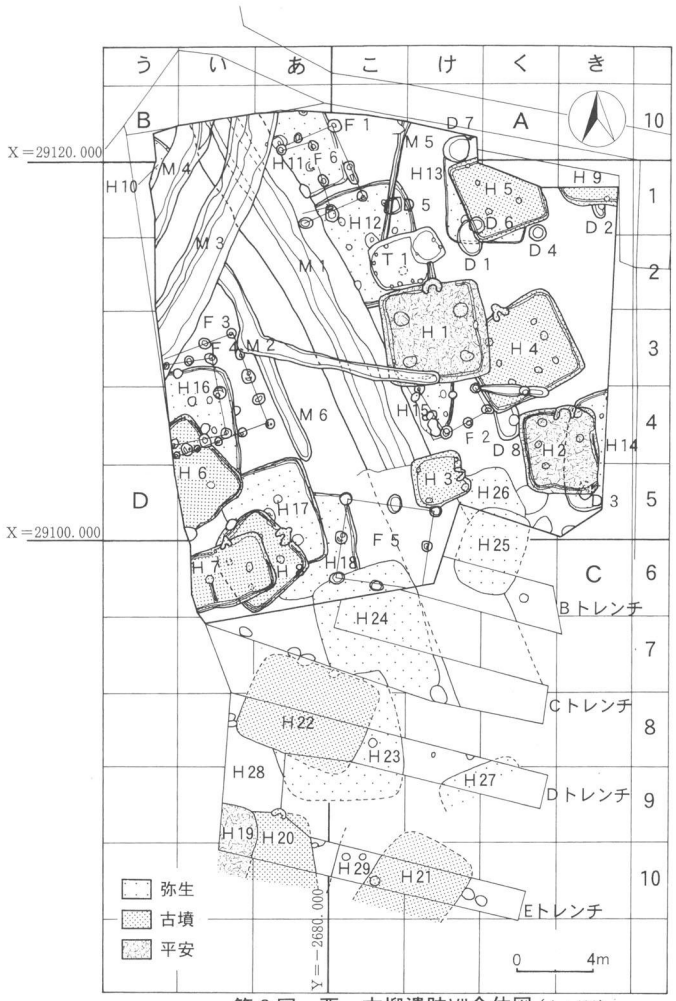
砥石・磨製石鏃

弥生終末土器群

古墳時代後期土器群

スリ石・紡水車

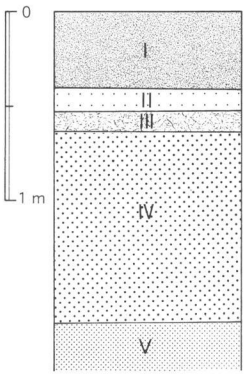
平安時代土器群



第３図　西一本柳遺跡Ⅶ全体図（1：400）

基本層序

調査地点は浅間第１軽石流の上に１ｍ近く湯川層が堆積している。Ⅲ・Ⅳ層が湯川層であり、砂層である。遺構はⅢ層で確認されⅣ層中に構築されている。砂質のため壁は崩壊し易い。



Ⅰ層　耕作土

Ⅱ層　黒褐色土層（10YR２／２）

Ⅲ層　明褐色土層（10YR６／６）

Ⅳ層　にぶい黄橙色土層（10YR７／２）

Ⅴ層　黄褐色土層（10YR５／６）

第４図　西一本柳Ⅶ基本層序模式図

竪穴住居址

平安時代

Ｈ１号住居址

調査区中央にあり、Ｔ１・Ｈ４・H12・H15・Ｍ１を切り、Ｍ２に切られる。ほぼ北に主軸があり北壁中央にカマドを持つ。カマドは焼土範囲が残り、天井・袖等は崩壊していた。主柱穴は４本であるが、同じ位置のすぐ西に旧ピットがある。新ピットがやや東に移ったようである。カマドの東側床面は粘土を貼り込みよく締まり、全体に砂ブロックを含み締まっていた。北東には鉄平石が２個敷かれ、そばに横転する甕はP10に据え置かれていたのではないかと推測される。堀方は中央が高く周辺部が低い。現住居より60cmほど内側に内周する旧住居址の存在が確認された。また５個の床下ピット、２個の土坑状の落ち込みが検出されている。

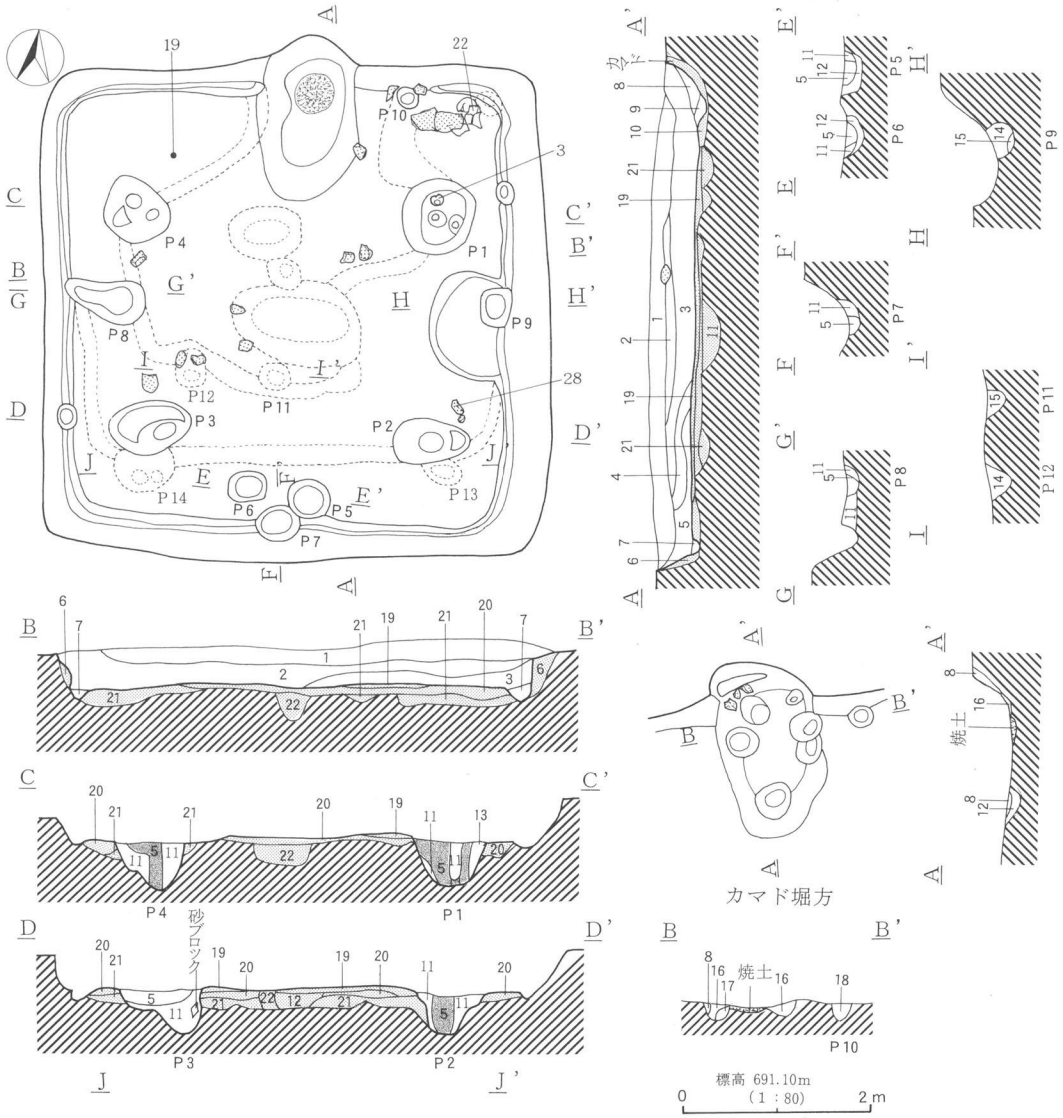
遺物は須恵器杯蓋・杯・高台付杯・長頸壺、土師器は内面黒色処理杯・武蔵甕、６個のスリ石がある。また重複している遺構からの混入品として、弥生末の甕、弥生中期の壺・甕・土版・砂岩製の砥石がある。実測個体の他に破片は平安時代５kg、古墳時代３kg、弥生時代5.8kg判別不明３kgと土器の総量は多い。

須恵器杯は軟質で、底部回転糸切りである。高台の付く深椀もある。土師器杯は内面黒色されているがミガキが暗文様になっているもの、墨書「井」？の施されるものがある。底部は手持ちヘラケズリされる。武蔵甕はいくらか「コ」の字形態の口縁部を持つ。これらより９C代中頃と推定される土器群である。

Ｈ２号住居址

Ｈ１の南東300cmほどのところにある。やや南北に長い長方形の住居址である。カマドは北にあり、火床面と西の煙道付近は残っていた。主軸はほぼ北にある。住居址の北側には40個の大小礫が入り込んでいた。カマドの袖芯に扁平な石を組んでおり、一部残ったカマドの構築材の石質も混入した礫と同様で、安山岩・鉄平石・軽石・溶結凝灰岩がみられた。もし構築材だとするとかなりの構造のものとなる。住居の使用状況として、北東の床面に鉄平石が敷かれ、隅には甕が底部を埋め込まれた状態で立っていた。床面の西側は貼り床がなく砂地で締まらない。主柱穴は北寄りのP１・２・３が明確であるが、他ははっきりしない。主柱穴P２・３は長径92cmのピット堀方の中にさらに柱痕・堀方を持っている。南中央の床下からは長径120cmの土坑が検出された。

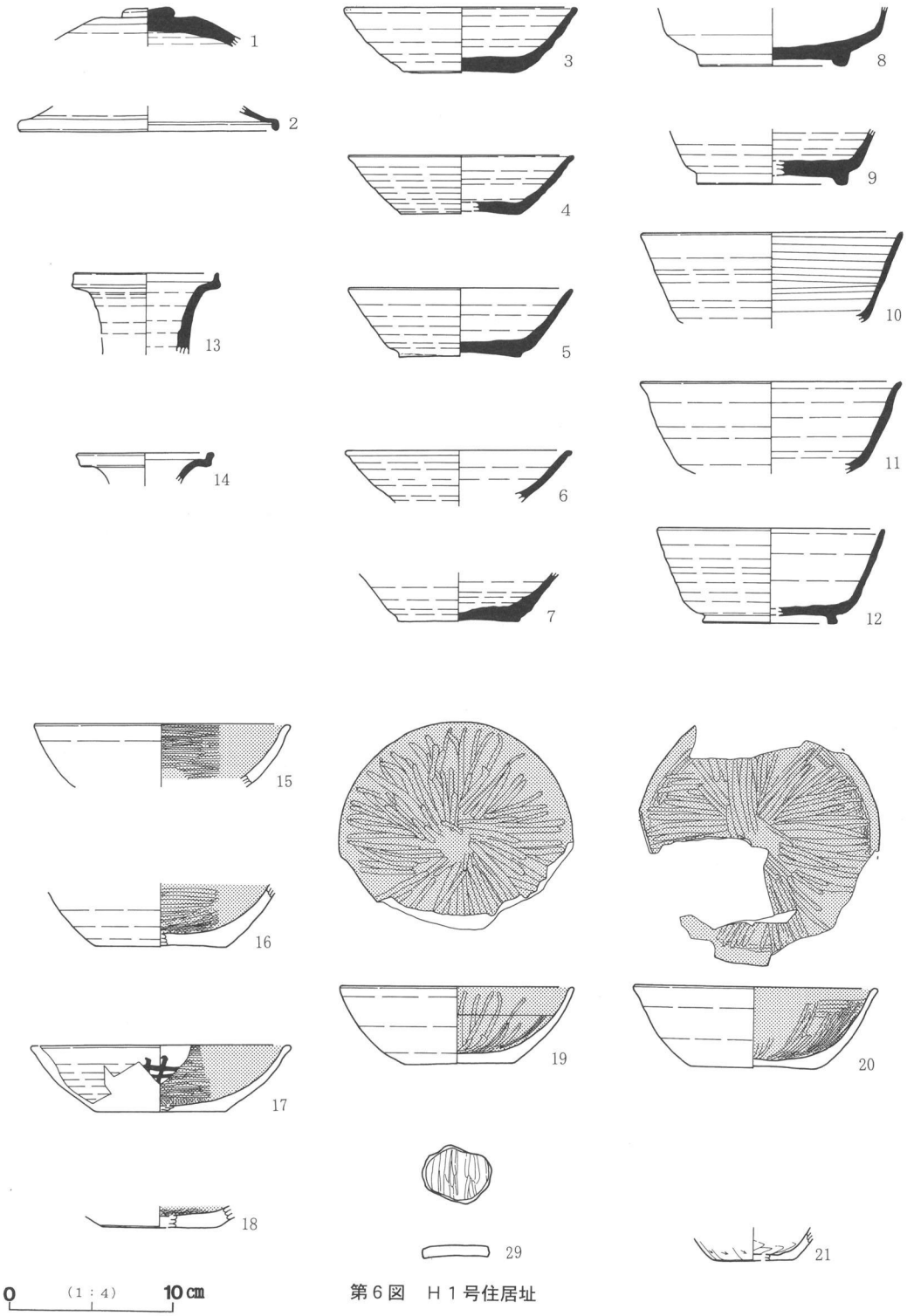
出土遺物には須恵器杯蓋・杯・浅い高台付杯・甕、土師器武蔵甕が出土している。須恵器杯は底部回転糸切りで軟質である。武蔵甕はやや「コ」字の形態を示すが前段階の方に近い。これらより９C中頃と推定される土器群である。しかし須恵器杯の口径と底径の比はＨ２の方が底径が小さくなっており、いくらか後出であろうか。土師器黒色処理杯がなく須恵器の杯が多いのは住居址の性格か時代によるものか注目される。実測個体の他に古墳・弥生時代の破片も多くある。



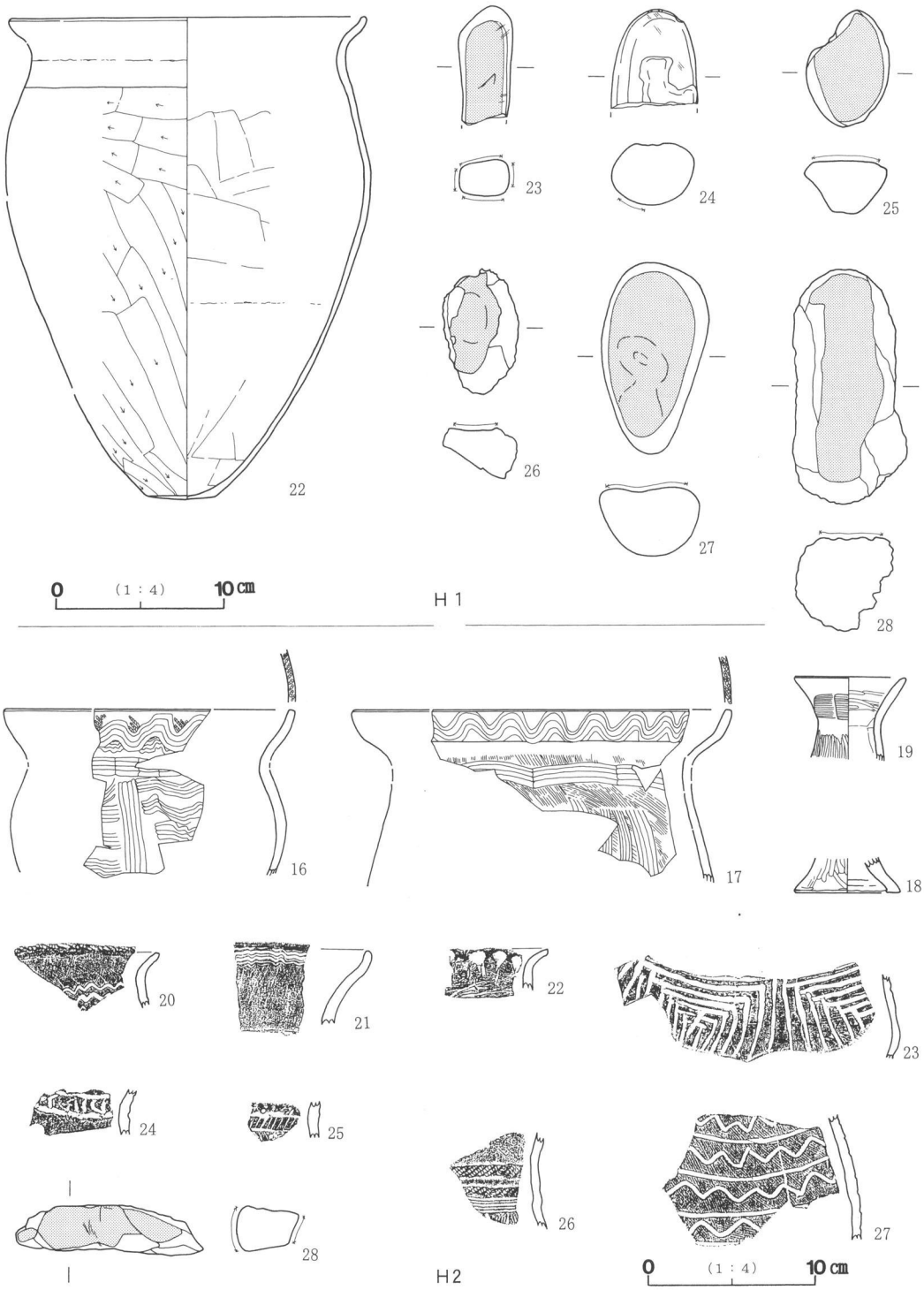
H１土層説明

1.黒褐色土層（10YR2/3）地山砂・５mm大小石含む。
2.黒褐色土層（10YR3/1）地山砂・小石含む。
3.黒褐色土層（10YR3/2）　砂・小石多く含む.
4.黒褐色土層（10YR2/2）炭化物粒子多く、～５mm大小石含む。
5.黒褐色土層（10YR2/3）地山砂多く含む。
6.暗褐色土層（10YR3/3）黄褐色地山砂ブロック含む。
7.暗褐色土層（10YR3/4）地山砂多く含む。
8.黒褐色土層（7.5YR3/2）粘質土含み少し焼ける。
9.黒褐色土層（7.5YR3/2）灰・焼土含む。
10.黒褐色土層（10YR2/3）炭化物粒子含む。
11.黒褐色土層（10YR3/2）地山砂多量含む。（ピット堀方埋土）
12.暗褐色土層（10YR3/4）地山砂主体。
13.黒褐色土層（10YR3/2）地山砂含む（旧柱痕）。
14.黒褐色土層（10YR2/3）地山砂含む。（床下ピット）
15.黒褐色土層（10YR3/2）地山砂多く含む。
16.黒褐色土層（7.5YR3/2）地山砂多く含む。
17.暗褐色土層（7.5YR3/4）地山砂多く含み焼ける。
18.暗褐色土層（7.5YR3/3）粘質土・灰含む。
19.褐色土層（10YR4/4）砂ブロック主体の貼り床。よく締まる。
20.黒褐色土層（10YR3/2）黒褐色土の間に19層を挟む貼り床。
21.黒褐色土層（10YR2/2）と褐色土層（10YR4/4）の混在土。
22.黒褐色土層（10YR3/2）地山砂多量に含む。

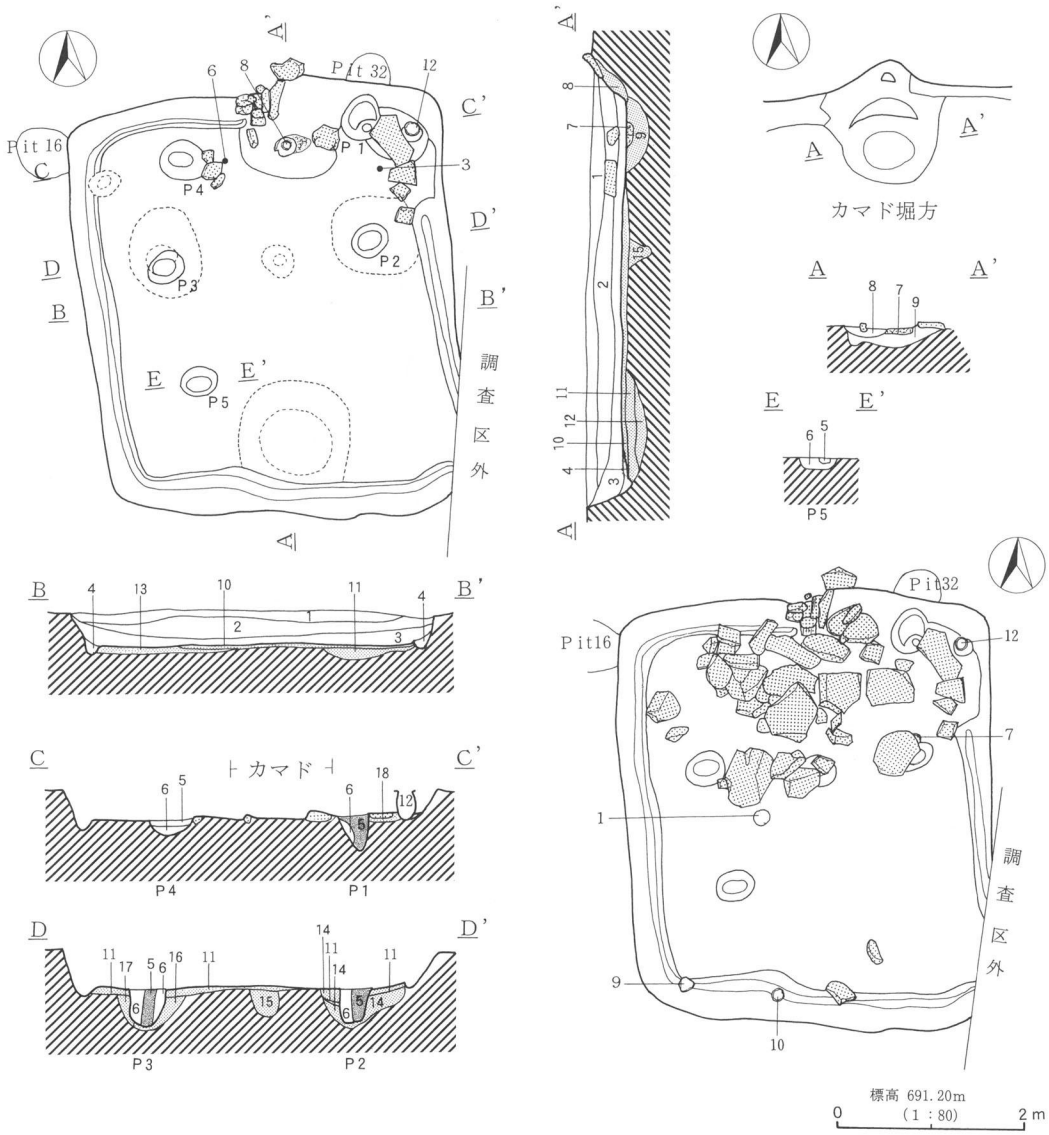
第５図　Ｈ１号住居址



第６図　Ｈ１号住居址


22
23
24
25
26
27
28
0 (1：4) 10cm
H1
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
H2
0 (1：4) 10cm

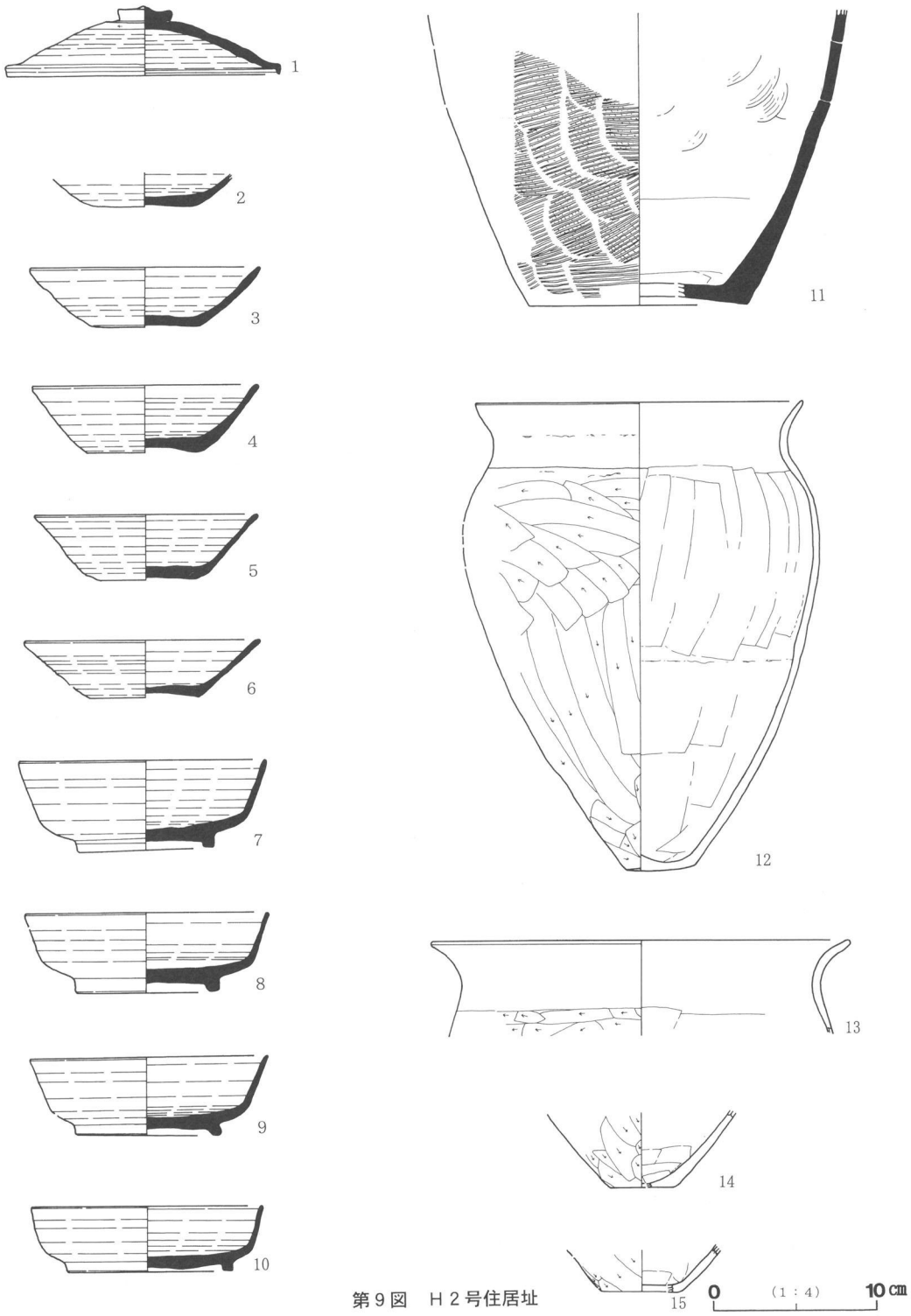
第７図　Ｈ１・２号住居址



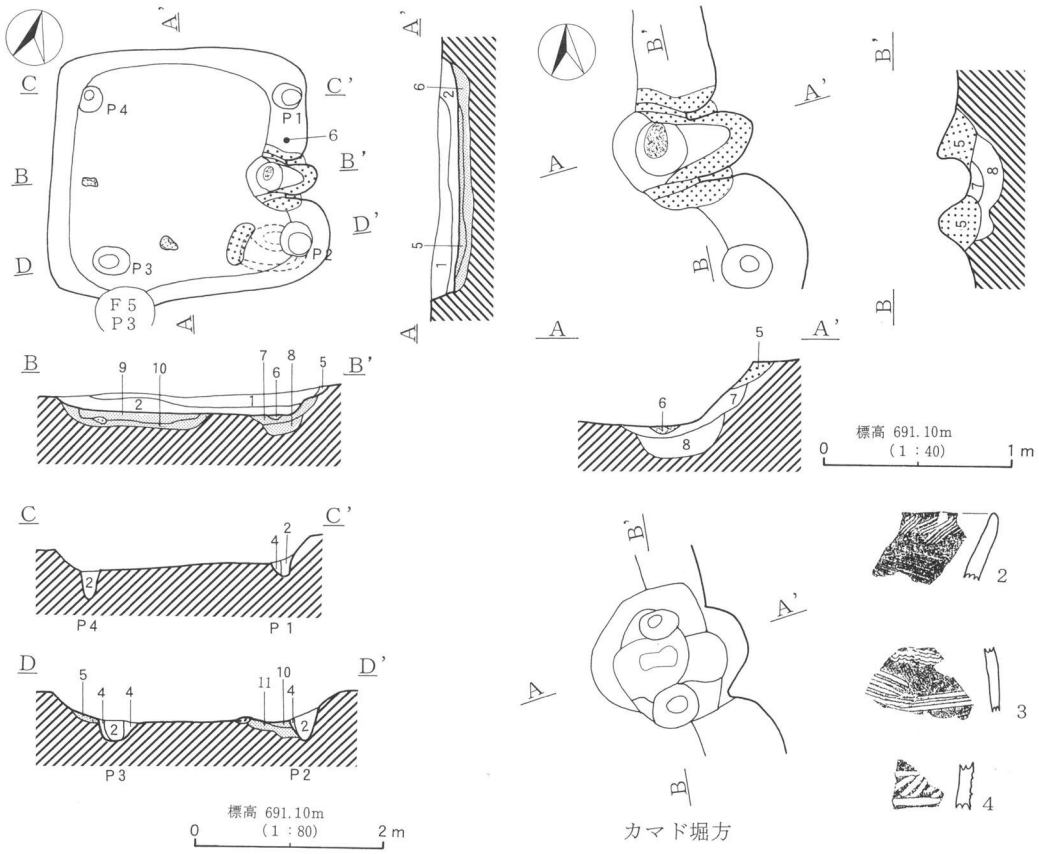
H２土層説明

1．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂・５㎜大小石含む。
3．黒褐色土層（10YR2/2）地山砂含む。
4．黒褐色土層（10YR3/2）地山砂多く含む。
5．黒褐色土層（10YR3/2）柱痕。
6．褐色土層（10YR4/4）砂ブロック多く含む。（ピット埋土）
7．明赤褐色土層（５YR5/8）焼土層。
8．暗褐色土層（7.5YR3/3）地山砂多く含む。
9．黒褐色土層（7.5YR3/2）地山砂多く含む。
10．黒褐色土層（10YR3/2）貼り床。所々締まるが、西側は締まらない。
11．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂ブロック混在。
12．暗褐色土層（10YR3/3）地山砂多く含む。
13．暗褐色土層（10YR3/4）地山砂主体。
14．黒褐色土層（10YR2/2）地山砂含む。
15．褐色土層（10YR4/6）ローム粒子含む。
16．褐色土層（10YR4/4）地山砂主体。
17．黒褐色土層（10YR3/2）黒褐色土（10YR3/2）と砂ブロック含む。

第８図　Ｈ２号住居址

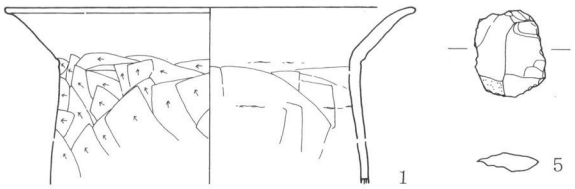


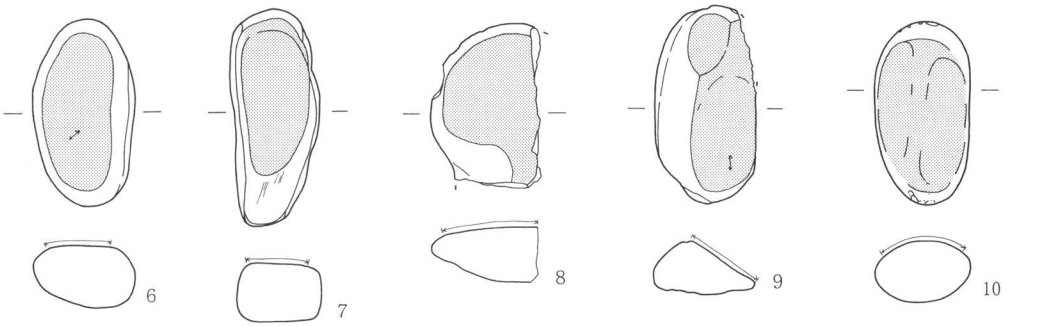
第９図　Ｈ２号住居址



H３土層説明

1．黒褐色土層（10YR2/3）地山Ｈ１号住居址生活面（南より）
2．黒褐色土層（10YR2/3）粘土ブロック含む。砂多く含む。
3．黒褐色土層（7.5YR2/3）粘土主体。焼土粒子含む。
4．暗褐色土層（10YR3/3）地山砂主体。
5．黒褐色土層（7.5YR3/2）粘土ブロックと焼けた粘土ブロック。（カマド袖）
6．褐色土層（5YR4/6）焼土。
7．黒褐色土層（7.5YR3/2）地山砂砂多く含む。
8．黒褐色土層（10YR3/2）地山砂多量に含む。
9．黒褐色土層（10YR3/2）砂層と黒褐色土との互層。
10．黒褐色土層（10YR2/2）黒褐色土に暗褐色土混じる。
11黒褐色土層（10YR3/2）地山砂多く含む。





第10図　Ｈ３号住居址

0　(1：4)　10cm

古墳時代

Ｈ３号住居址

調査区の南にあり、Ｍ１・Ｆ５を切っている。一辺230cm近い小規模な方形住居址で、カマドを東壁中央に持つ。カマドは地山を残し粘土を貼っている。床面は、溝と重複しているが貼り込みが締まり、わかりやすかった。主柱穴は東西壁寄っている。南東ピットの堀方は土坑状になり西端は粘土が貼られていた。

出土遺物には土師器甕、スリ石、チャート製剥片等がある。甕の口縁部形は「く」の字形で胴部外面はヘラケズリされる。他に同期の破片はなく、古墳後期と弥生時代の土器が1.7kg混入している。　本住居址は１点のみであるが、甕より古墳時代末のものであろうか。

Ｈ７号住居址

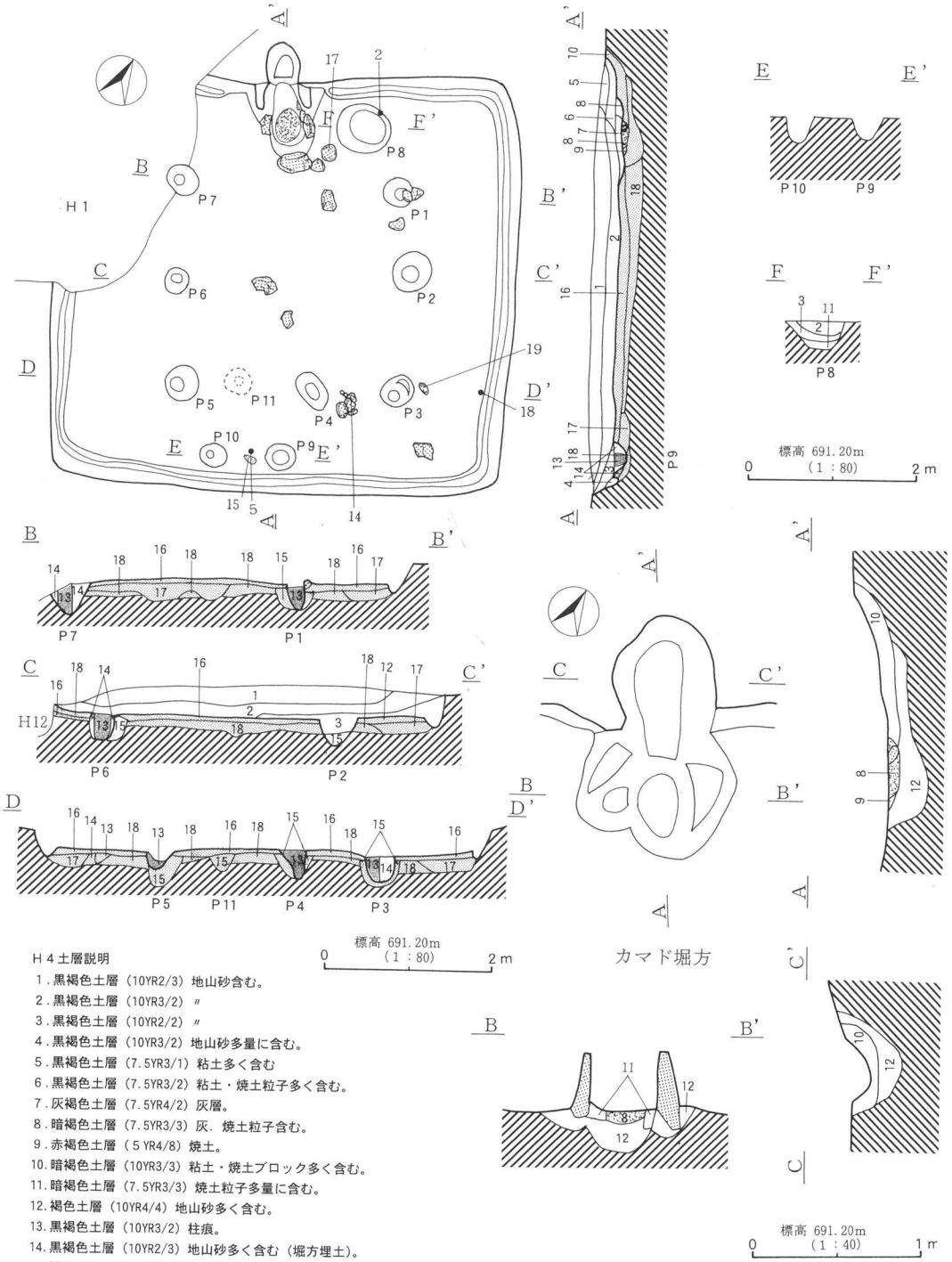
南西にあり、Ｈ８を切る。西は調査区域外であるが東西に長い長方形を呈す。カマドを北に持つ。主軸は28°西に持つ。カマドは粘土で構築され、崩壊していた。主柱穴は東西２個で床面は貼り床され締まっていた。

出土遺物は土師器杯・甕、土製円版、スリ面のある焼け石がある。２の杯外面は底部～口縁にかけてヘラケズリされ、丸底で口縁部はそのまま内湾する。口縁部にわずかにミガキが施され、内面はミガキ調整される。甕は外面・底部ヘラケズリされる武蔵甕である。Ｈ３号住居址と近い時期で古墳時代末であろうか。

Ｈ４号住居址

Ｈ１・Ｍ２に切られる。一辺400cmを超え、東西にやや長い隅丸方形である。カマドは北壁中央にあり、袖先に礫を入れ粘土で覆ったようである。カマドの東脇に径32cmの穴があく。床面はあまり締まりがなく、主柱穴はＰ１～Ｐ７である。Ｐ１の東側には礫が置かれ柱を支えていたようである。

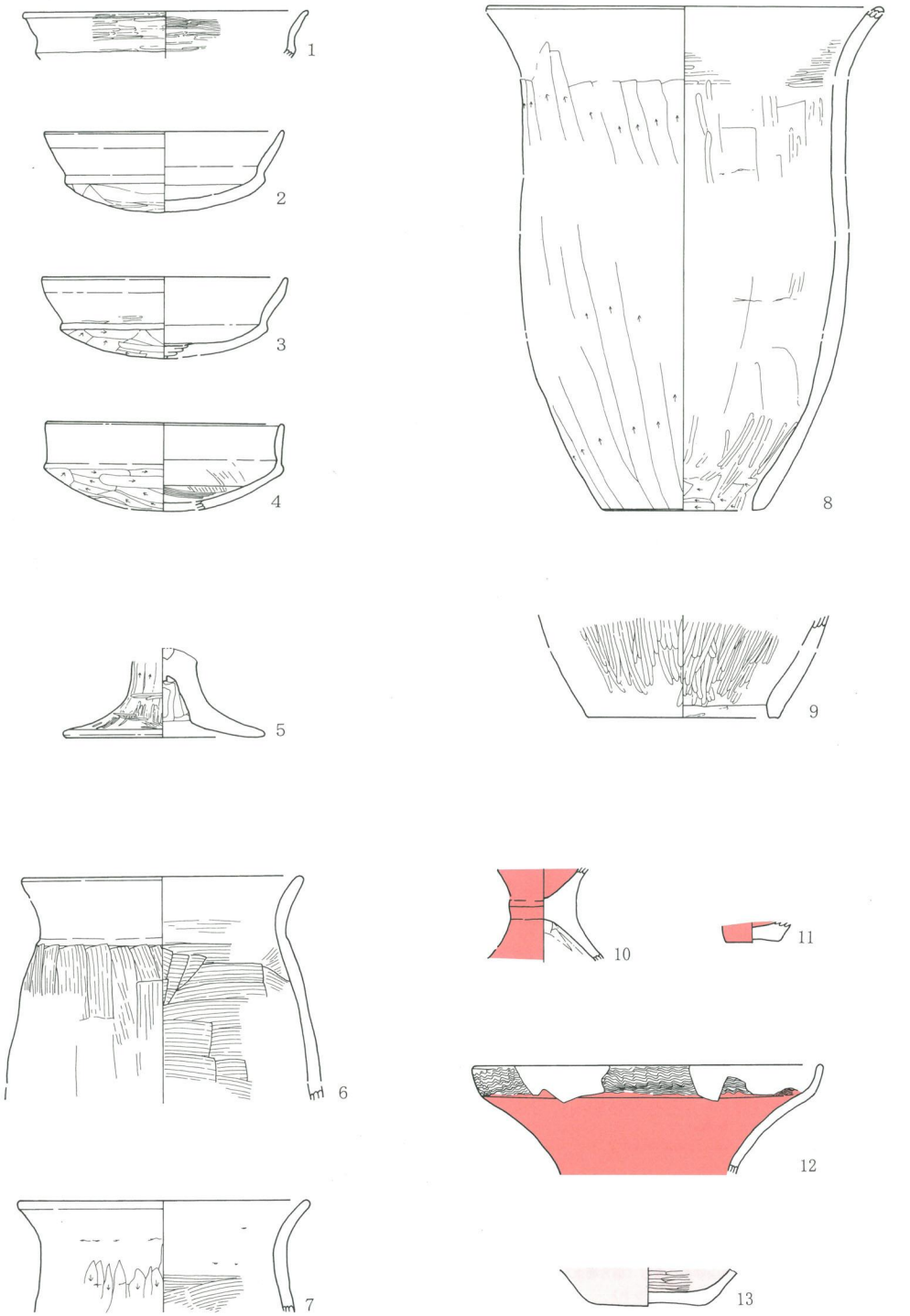
出土遺物には古墳時代の土師器杯・高杯・甑・甕、弥生時代末の壺・高杯がある。土師器杯は丸底で屈曲して口縁部に立ち上がるもので須恵器蓋の模倣杯である。高杯は脚部のみで柱状から裾部で広がるものである。長胴甕胴部は、６の外面ハケ、７のヘラケズリと二種ある。甑は２点あり、いずれも単口で８は長胴甕形態で外面ヘラケズリ、内面は雑なミガキが施される。９は内外面ともミガキが施される。堀方から出土した12の受け口の壺は弥生時代末のものでＭ１に同一個体があり接合している。土器群からは古墳時代後期７Ｃ代の時期があてられる。



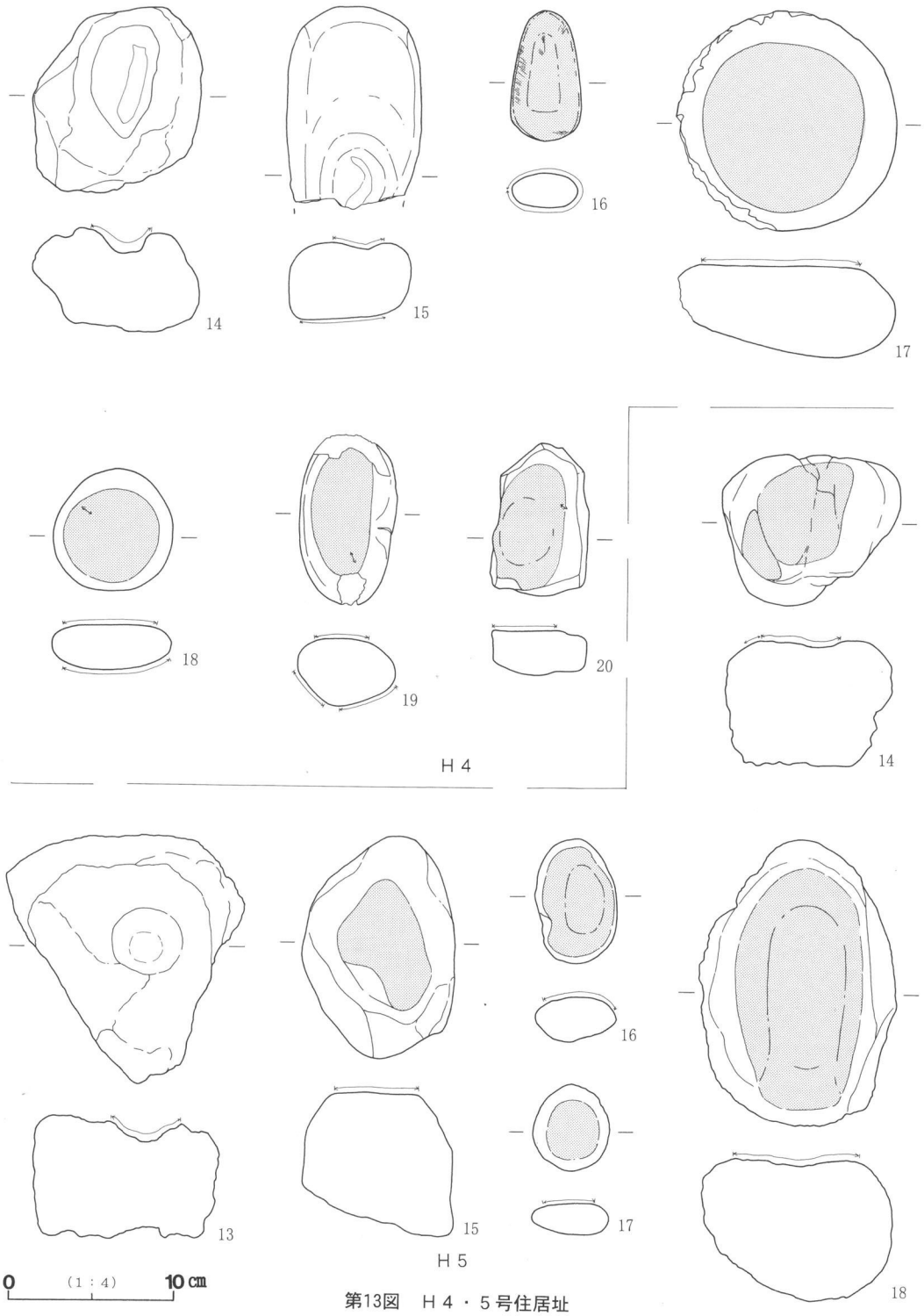
H４土層説明

1．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂含む。
2．黒褐色土層（10YR3/2）〃
3．黒褐色土層（10YR2/2）〃
4．黒褐色土層（10YR3/2）地山砂多量に含む。
5．黒褐色土層（7.5YR3/1）粘土多く含む
6．黒褐色土層（7.5YR3/2）粘土・焼土粒子多く含む。
7．灰褐色土層（7.5YR4/2）灰層。
8．暗褐色土層（7.5YR3/3）灰．焼土粒子含む。
9．赤褐色土層（5 YR4/8）焼土。
10．暗褐色土層（10YR3/3）粘土・焼土ブロック多く含む。
11．暗褐色土層（7.5YR3/3）焼土粒子多量に含む。
12．褐色土層（10YR4/4）地山砂多く含む。
13．黒褐色土層（10YR3/2）柱痕。
14．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂多く含む（堀方埋土）。
15．褐色土層（10YR4/3）地山砂主体。（ピット）
16．黒褐色土層（10YR2/3）貼り床。砂ブロック含む。締まりあまりなし。
17．暗褐色土層（10YR3/3）砂ブロック・黒褐色土ブロック混在。
18．褐色土層（10YR4/4）地山砂主体。所々に黒褐色土ブロック含む。

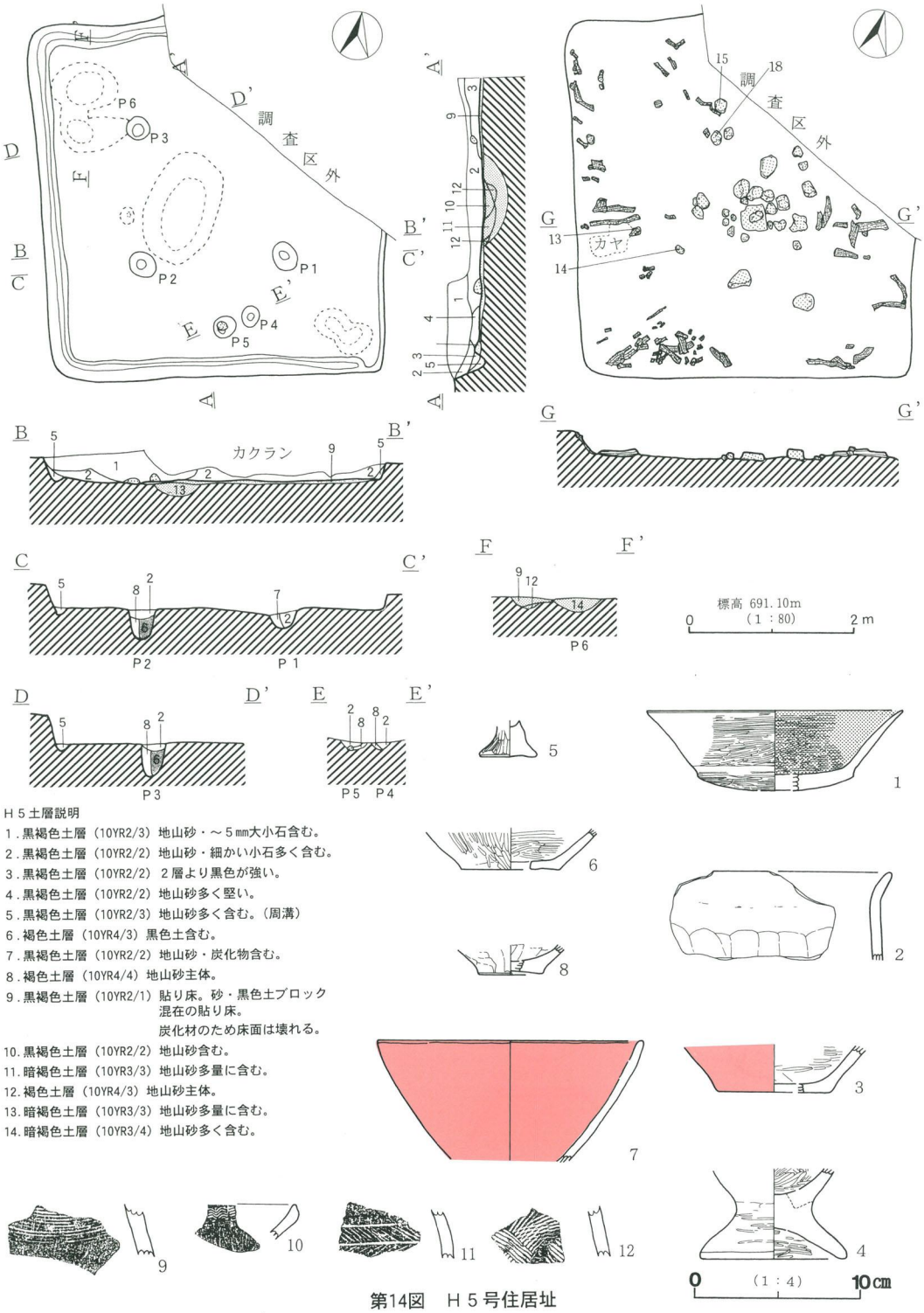
第11図　Ｈ４号住居址



第12図　Ｈ４号住居址



第13図　H 4 ・ 5 号住居址



H５土層説明

1．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂・～５mm大小石含む。
2．黒褐色土層（10YR2/2）地山砂・細かい小石多く含む。
3．黒褐色土層（10YR2/2）２層より黒色が強い。
4．黒褐色土層（10YR2/2）地山砂多く堅い。
5．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂多く含む。（周溝）
6．褐色土層（10YR4/3）黒色土含む。
7．黒褐色土層（10YR2/2）地山砂・炭化物含む。
8．褐色土層（10YR4/4）地山砂主体。
9．黒褐色土層（10YR2/1）貼り床。砂・黒色土ブロック混在の貼り床。炭化材のため床面は壊れる。
10．黒褐色土層（10YR2/2）地山砂含む。
11．暗褐色土層（10YR3/3）地山砂多量に含む。
12．褐色土層（10YR4/3）地山砂主体。
13．暗褐色土層（10YR3/3）地山砂多量に含む。
14．暗褐色土層（10YR3/4）地山砂多く含む。

第14図　Ｈ５号住居址

Ｈ５号住居址

北東隅にあり、北東は調査区外である。焼失家屋で炭化材・わずかの茅状炭化物が出土した。長辺380cmを測り、やや南北に長い方形の住居址である。カマドは北で調査区域外にあるものと推測される。床面は締まりがなく、炭化材により壊されている状態であった。上面には撹乱が深く入り込んでいた。柱穴は４本柱穴の内Ｐ１～３の３個があり、床下からは土坑状の落ち込みが３カ所みられた。

出土遺物は古墳・弥生時代の土器とスリ石であるが、土器はいずれも破片で、総量５kgほどであり、そのうち3.8kgは弥生時代の土器片である。土師器杯は浅い丸底で下から大きく口縁が外反する。甕は長胴甕で外面ヘラケズリされる。古墳時代の土器は７Ｃ代のものであろうが時期決定資料は乏しい。使用した土器は持ち去ったようである。

Ｈ６号住居址

調査区の南西にあたり、西側は西一本柳Ⅲ・Ⅳ地区H75としてすでに調査されている。H16を切り、Ｆ３・４に切られる。長辺470cmを測り、やや南北に長い方形を呈す。カマドは北側にあり、芯材に石を使い粘土で覆っている。本調査で４本主柱穴の内Ｐ１・Ｐ２の２個が検出され、深さ70cmを測る深いものであった。床面は貼り床され締まっていた。

出土遺物は土師器杯・高杯・鉢・甑・直口壺、須恵器杯、凝灰岩製砥石、スリ石、磨製石製品未製品がある。土師器杯は丸底、須恵器杯も丸底（蓋か？）である。高杯は柱状の脚部に内面ミガキ黒色処理された杯部が付く。甑は単口である。６は鉢ないし甑であろう。他に破片が２kgある。これらは古墳時代後期７Ｃ代に比定されるものである。また、弥生時代後・中期の土器片も多くみられる（2.5kg）。

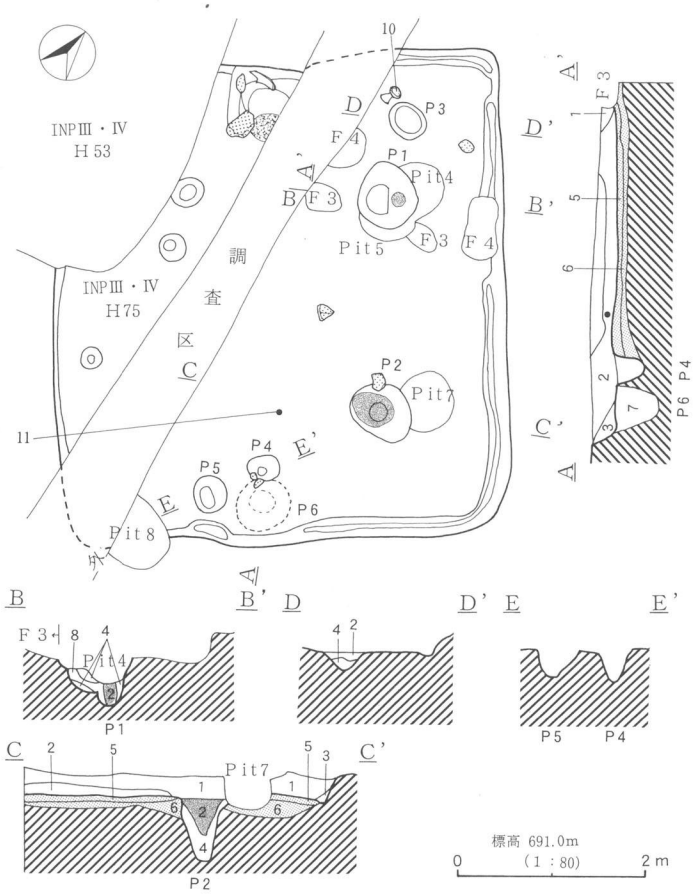
Ｈ８号住居址

Ｈ７に切られ、H17・18を切る。長辺380cmの南北に長い長方形で、カマドを東壁にもつ。南東には63個の安山岩や溶結凝灰岩の大小礫がみられた。カマドは煙道部と袖が残存し、カマド袖は先端に石を置いて粘土で構築している。床面は貼り床され締まる。主柱穴は４本であるが東側は堀方からもＰ５・Ｐ６が検出された。

出土遺物は土師器鉢・長胴甕を出土している。滑石製紡錘車・凹石・スリ石もある。土器の破片は古墳時代0.5kg、弥生時代1.6kgと少ない。１は内外面丁寧にミガキ調整される深鉢である。２は胴部外面がヘラケズリ調整される長胴甕である。３の紡錘車は滑石製である。土器は古墳時代後期７Ｃ代のものであろう。

Ｈ９号住居址

北東隅で南西のみ検出した。規模形態はわからない。出土遺物には古墳時代の土師器甕・甑・杯片、弥生時代の甕・壺・赤色塗彩片がある。古墳時代としたが、時期決定資料を欠く。



H 6 土層説明

1. 黒褐色土層（10YR2/3）
地山砂多量に含む。

2. 黒褐色土層（10YR2/2）
焼土・炭化物粒子・地山砂含む。

3. 黒色土層（10YR1.7/1）
砂ブロック含む。

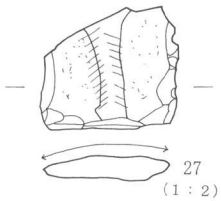
4. 暗褐色土層（10YR3/4）
地山砂主体。（ピット堀方埋土）

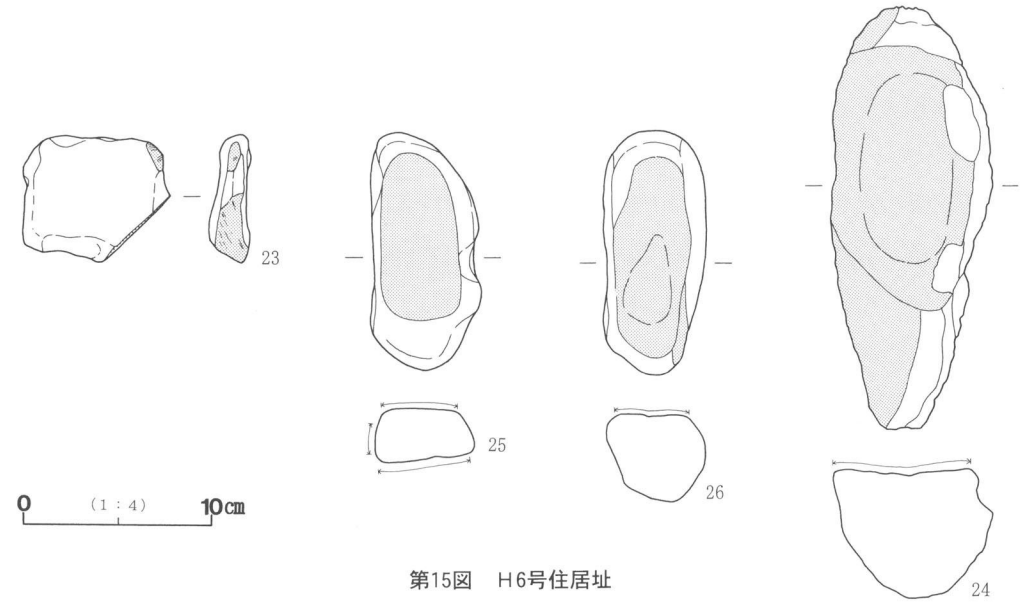
5. 黒褐色土層（10YR2/3）
貼り床。地山砂と黒褐色土ブロックの互層で締まる。

6. 褐色土層（10YR4/6）
地山砂に黒褐色土小ブロック含む。

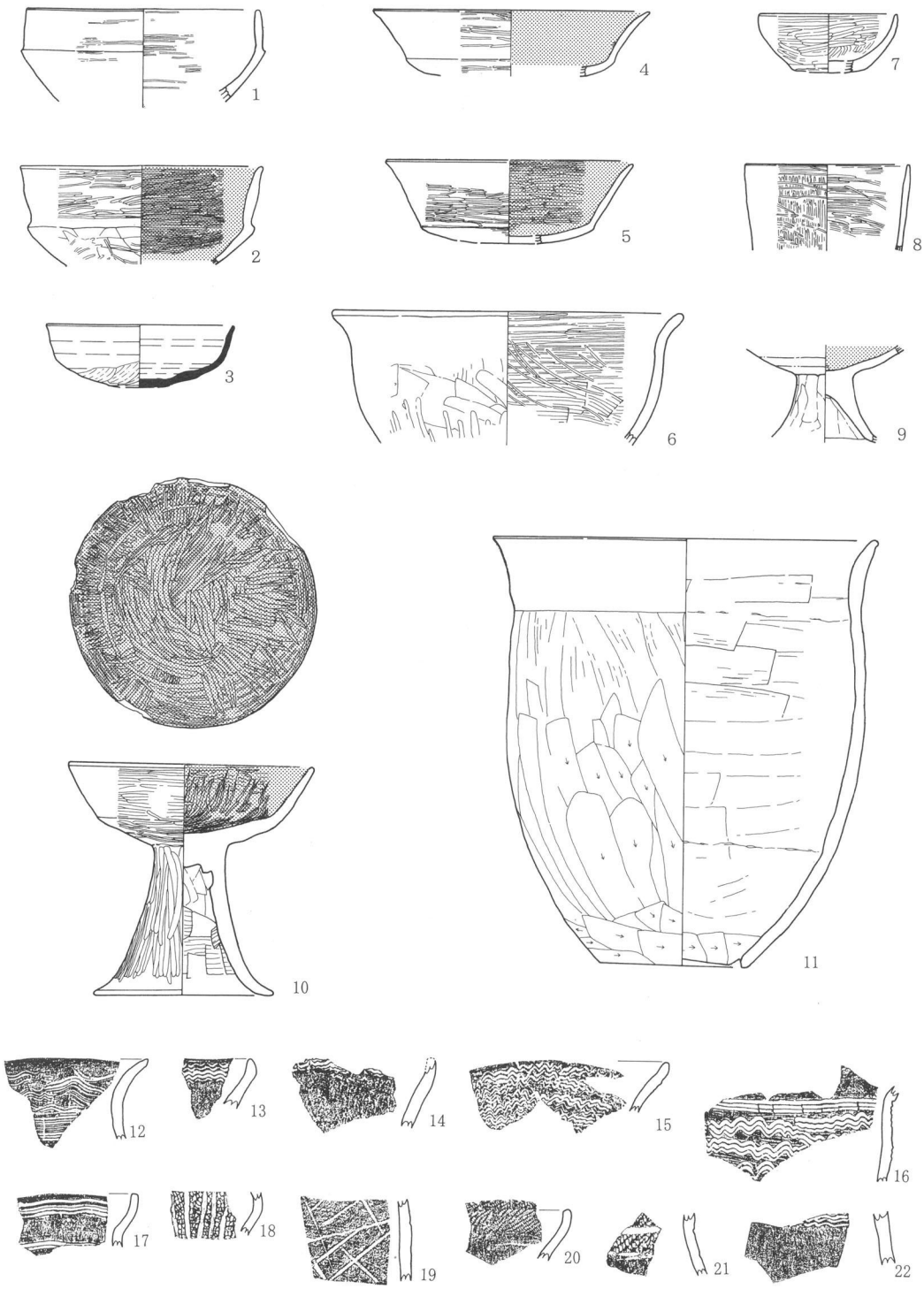
7. 黒褐色土層（10YR2/2）
地山砂含む。

8. 黒褐色土層（10YR2/3）
地山砂多量に含む。（P1）

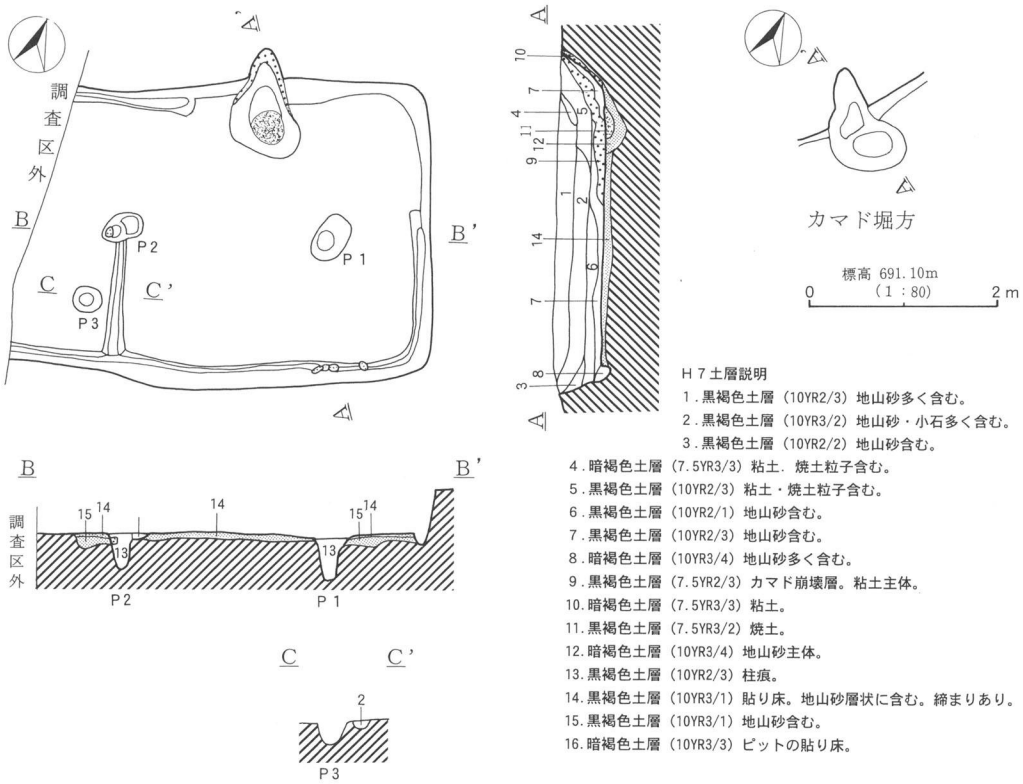




第15図　H6号住居址

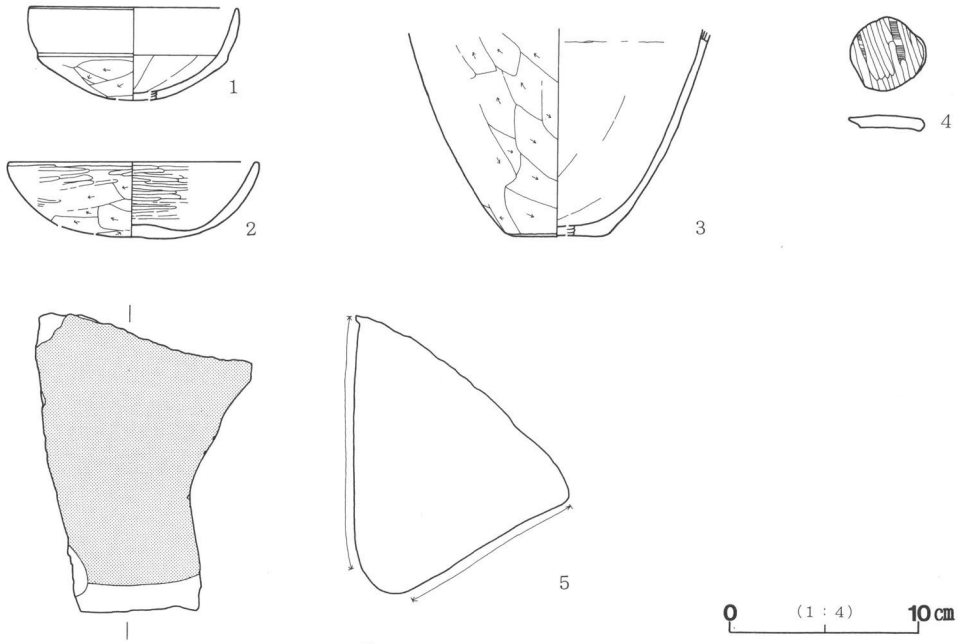


第16図　Ｈ６号住居址　　0　(1：4)　10cm

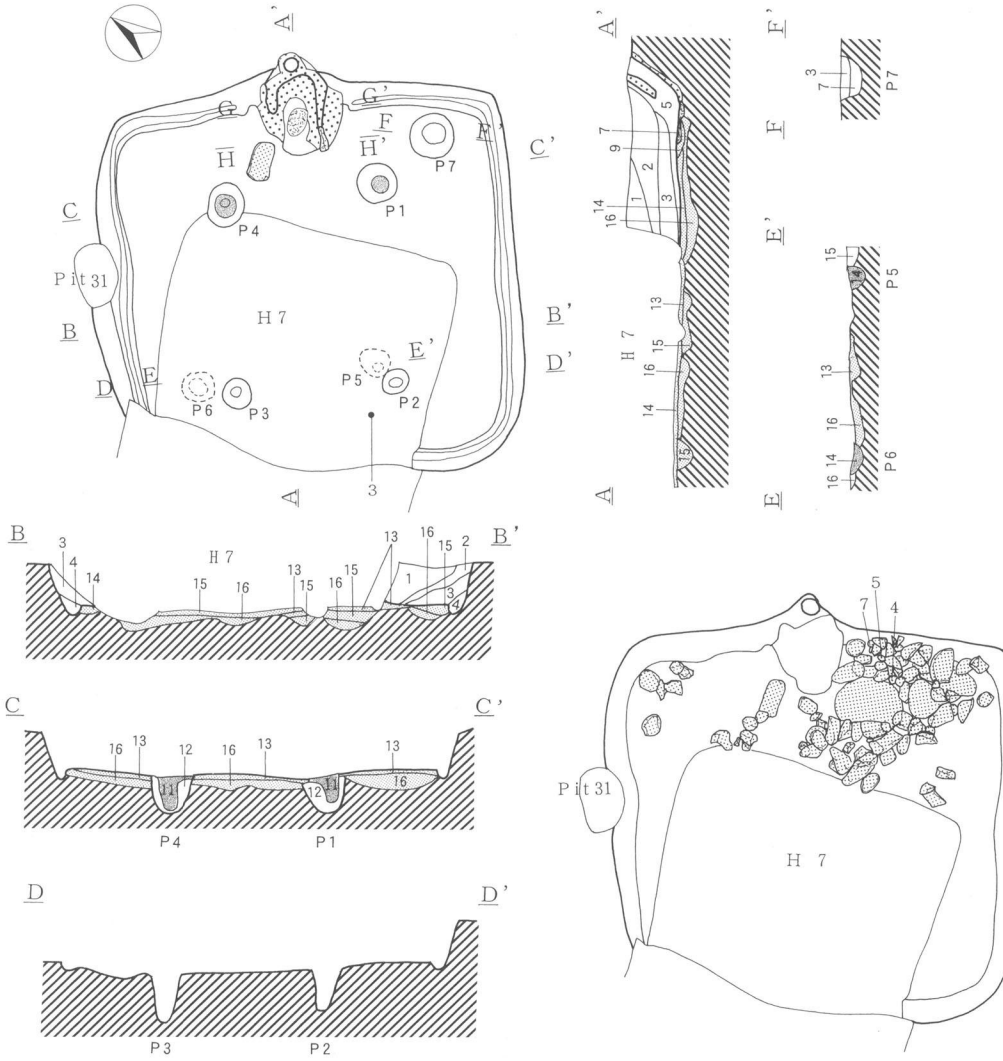


H７土層説明

1．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂多く含む。
2．黒褐色土層（10YR3/2）地山砂・小石多く含む。
3．黒褐色土層（10YR2/2）地山砂含む。
4．暗褐色土層（7.5YR3/3）粘土．焼土粒子含む。
5．黒褐色土層（10YR2/3）粘土・焼土粒子含む。
6．黒褐色土層（10YR2/1）地山砂含む。
7．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂含む。
8．暗褐色土層（10YR3/4）地山砂多く含む。
9．黒褐色土層（7.5YR2/3）カマド崩壊層。粘土主体。
10．暗褐色土層（7.5YR3/3）粘土。
11．黒褐色土層（7.5YR3/2）焼土。
12．暗褐色土層（10YR3/4）地山砂主体。
13．黒褐色土層（10YR2/3）柱痕。
14．黒褐色土層（10YR3/1）貼り床。地山砂層状に含む。締まりあり。
15．黒褐色土層（10YR3/1）地山砂含む。
16．暗褐色土層（10YR3/3）ピットの貼り床。



第17図　Ｈ７号住居址

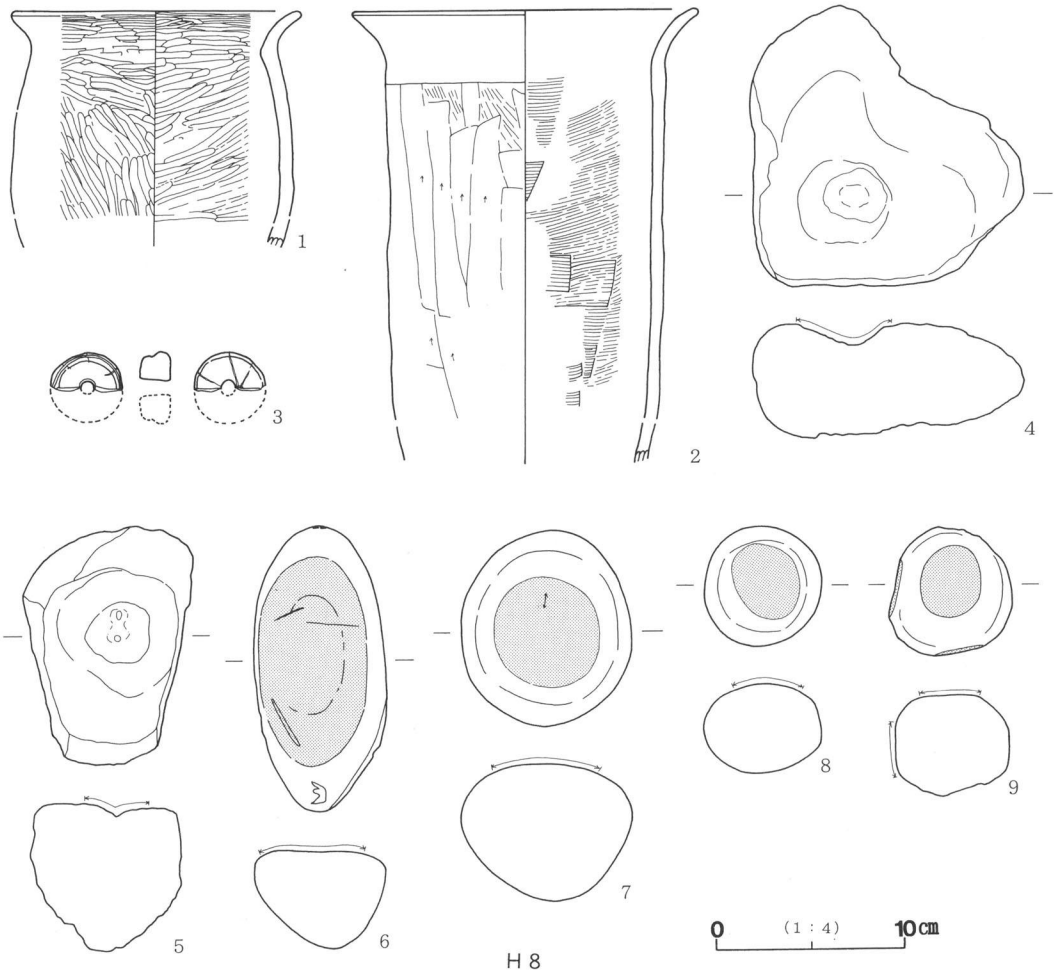


H８土層説明

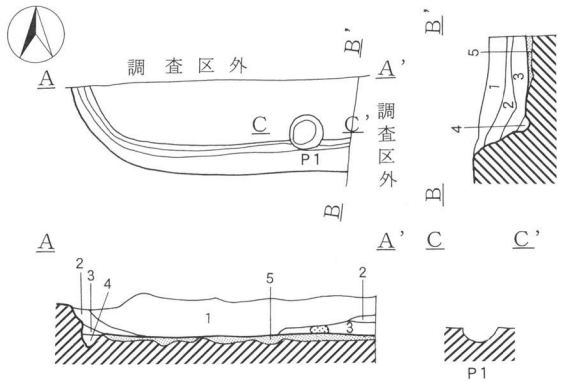
1．暗褐色土層（10YR3/4）地山砂多量に含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）茅状炭化物・焼土多く含む。
3．黒褐色土層（10YR3/2）地山砂多く含む。
4．暗褐色土層（10YR3/3）地山砂主体。
5．黒褐色土層（7.5YR3/2）焼土多く含む。
6．褐色土層（7.5YR4/4）粘土
7．明赤褐色土層（5YR5/8）焼土。
8．黒褐色土層（10YR3/2）地山砂含む。
9．暗褐色土層（7.5YR3/4）地山砂含む。
10．明赤褐色土層（5YR5/8）焼土多く含む。
11．黒褐色土層（10YR3/2）柱痕。
12．暗褐色土層（10YR3/4）地山砂主体。
13．黒褐色土層（10YR2/2）貼り床。カマドの南側粘土貼る。
14．黒褐色土層（10YR2/3）堀方柱痕。
15．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂含む。
16．褐色土層（10YR4/4）地山砂主体。

標高 691.10m
0 (1：80) 2 m

第18図　Ｈ８号住居址



H 8



H９土層説明

1．黒褐色土層（10YR2/2） 5mm大の小石含み、地山砂少し含む。
2．黒褐色土層（10YR2/2） 1層より黒色強い。
3．黒褐色土層（10YR3/2） 小石・地山砂含む。
4．黒褐色土層（10YR3/2） 地山砂多量に含む。
5．黒褐色土層（10YR2/2） 貼り床。地山砂多量に含む。

標高691.70m
0 (1：80) 2m

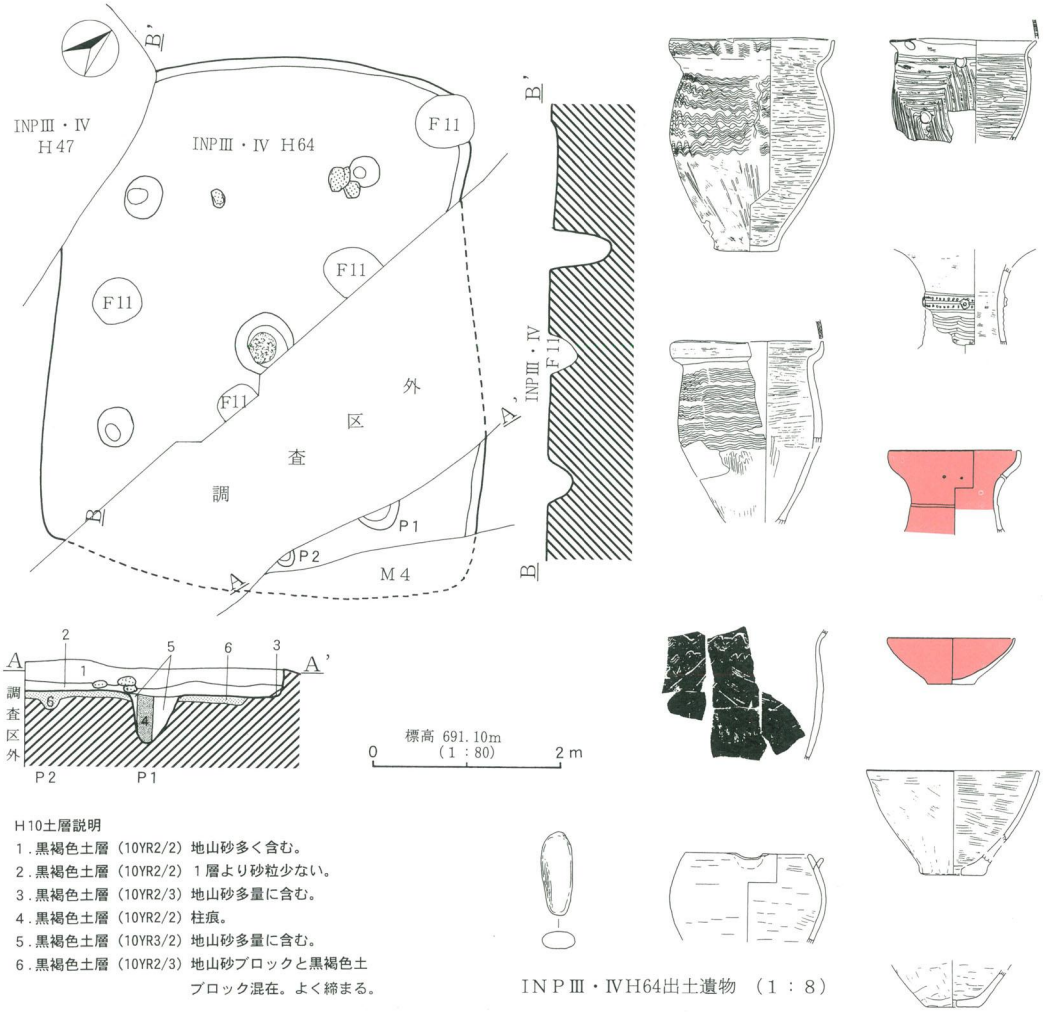
H 9

第19図　H８・９号住居址

弥生時代

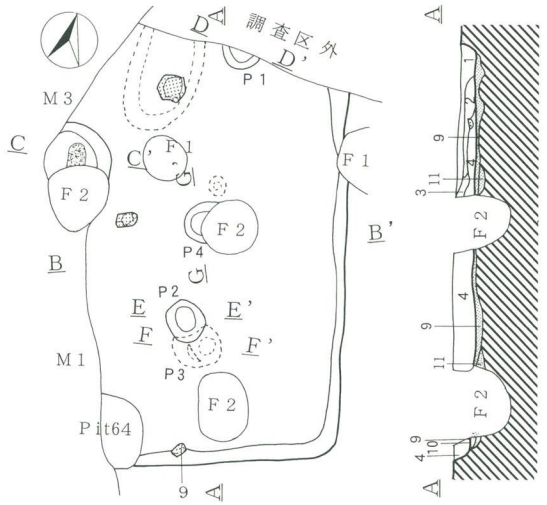
H10号住居址

北西で住居址の一部が検出され、西一本柳Ⅲ・Ⅳ地区H64と同一の住居址である。M4に切られ南側の形は不明である。中央に炉を持つ住居址である。長辺470cm測る隅丸長方形を呈す。P1は主柱穴である。床面はよく締まっていた。本調査区からは弥生時代中期の甕・壺・杯の破片6片のみである。従ってⅢ・Ⅳ地区の出土遺物を転載した。



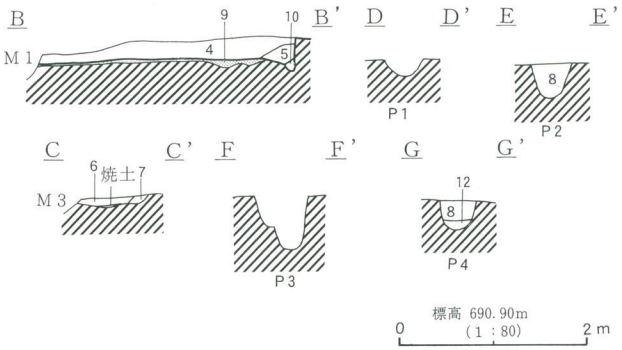
H10土層説明
1.黒褐色土層（10YR2/2）地山砂多く含む。
2.黒褐色土層（10YR2/2）1層より砂粒少ない。
3.黒褐色土層（10YR2/3）地山砂多量に含む。
4.黒褐色土層（10YR2/2）柱痕。
5.黒褐色土層（10YR3/2）地山砂多量に含む。
6.黒褐色土層（10YR2/3）地山砂ブロックと黒褐色土ブロック混在。よく締まる。

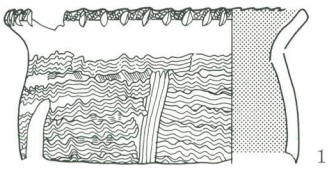
第20図　H10号住居址

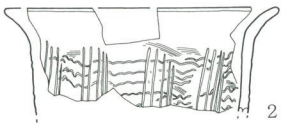


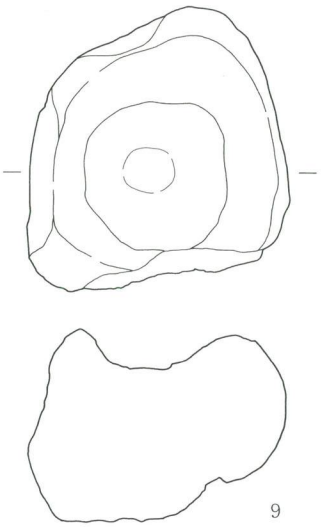
H11土層説明

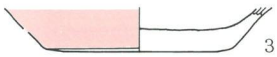
1. 黒褐色土層（10YR2/3）地山砂含む。
2. 黒褐色土層（10YR2/2）焼土粒子含む。
3. 暗褐色土層（10YR3/3）地山砂ブロック含む。
4. 黒褐色土層（10YR3/2）地山砂多く含む。
5. 暗褐色土層（10YR3/3）　〃
6. 黒褐色土層（10YR2/2）焼土・炭化物粒子含む。
7. 黒褐色土層（10YR3/2）地山砂含む。
8. 黒褐色土層（10YR2/2）地山砂含む。
9. 黒褐色土層（10YR3/2）貼り床。砂ブロック混じる。
10. 暗褐色土層（10YR3/3）地山砂多く含む。
11. 褐色土層（10YR4/3）地山砂主体層。
12. 黒褐色土層（10YR2/3）地山砂含む。

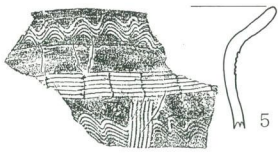


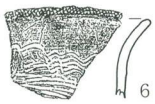


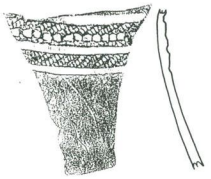


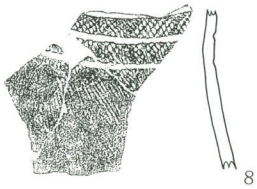












第21図　H11号住居址

0　(1：4)　10cm

H11号住居址

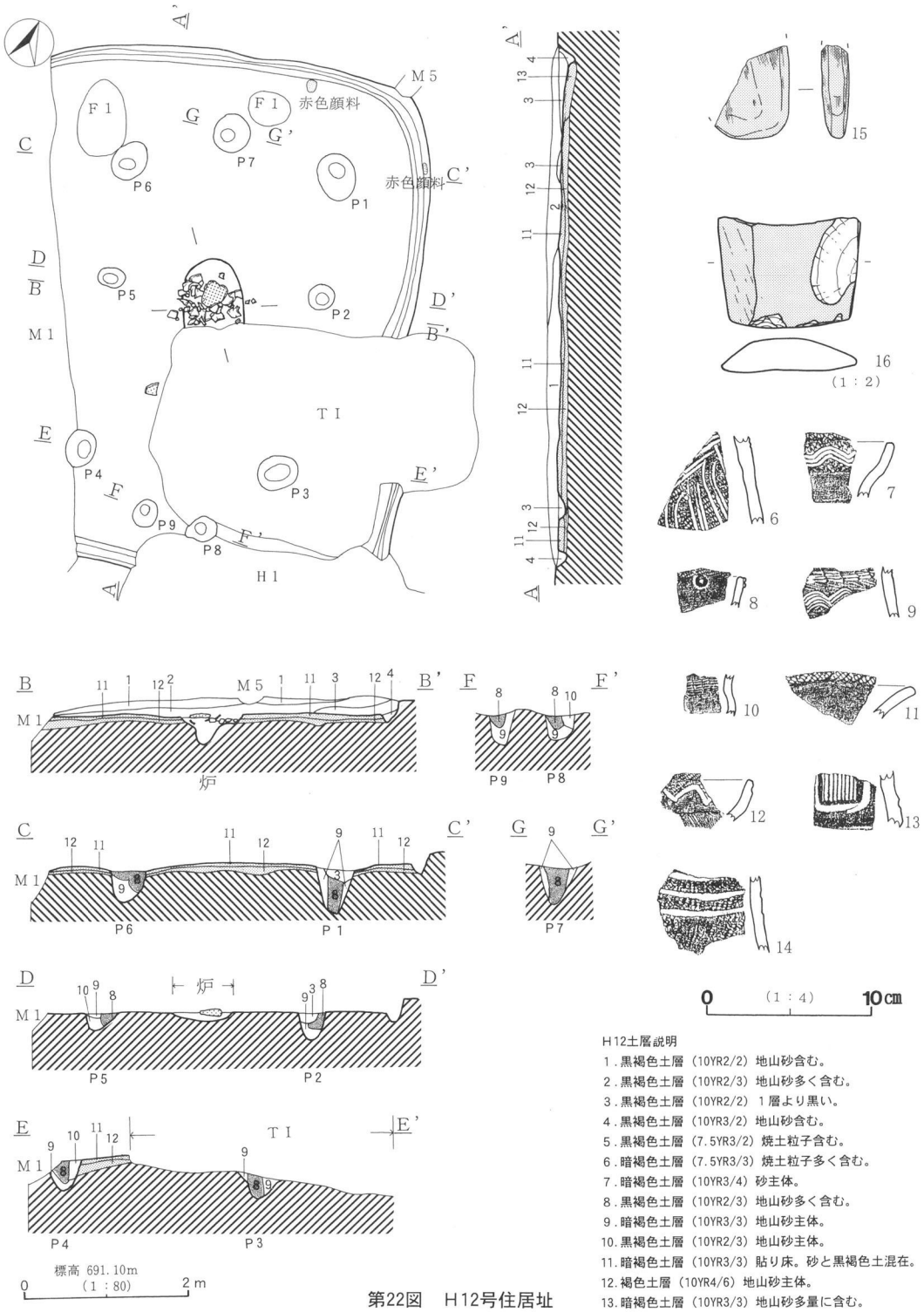
調査区北側にあり北は調査区域外、西はM１・３に切られ、住居址の南東部のみが残存している。さらにF１・６、単独ピットP64に切られる。床面はよく締まる。主柱穴はP１・P２・P４が床面から検出されたが、堀方で検出されたP3も該当するようである。炉は地床炉で焼土がみられた。炉が中央であるとすれば長軸640cm短軸560cmの隅丸長方形を呈すことになる。

遺物には弥生時代中期の甕・壺、土製方形版、凹石がある。１の甕は口唇部に縄文を転がし、さらに刻みを施し、胴上部は縦の櫛描直線文で区画し、横方向に櫛描波状文を充填している。２の甕は胴上半のみの施文で櫛描波状文を縦の直線の櫛で等間隔に切っている。実測個体は少ないが総量３kgの内２kgが無彩の壺の破片である。４の土版は壺の一部で２辺の端部はスリ面があり明らかに加工してある。２辺は打ち欠いたままである。

H12号住居址

北側にあり、H１・T１・F１・F６・M１・M５に切られる。重複は多いが残りは良好であった。南北552cm東西390cmを測る隅丸長方形を呈す。床面は締まって明確であった。主柱穴は６個で深い。炉は中央にあり、炉南側はT１に切られる。炉の上面に２・３・５の壺・甕がありその上に長さ30cmの扁平な石があった。炉は甕の胴部を環状に利用し、南側に礫を置いて炉を石で囲んでいる。

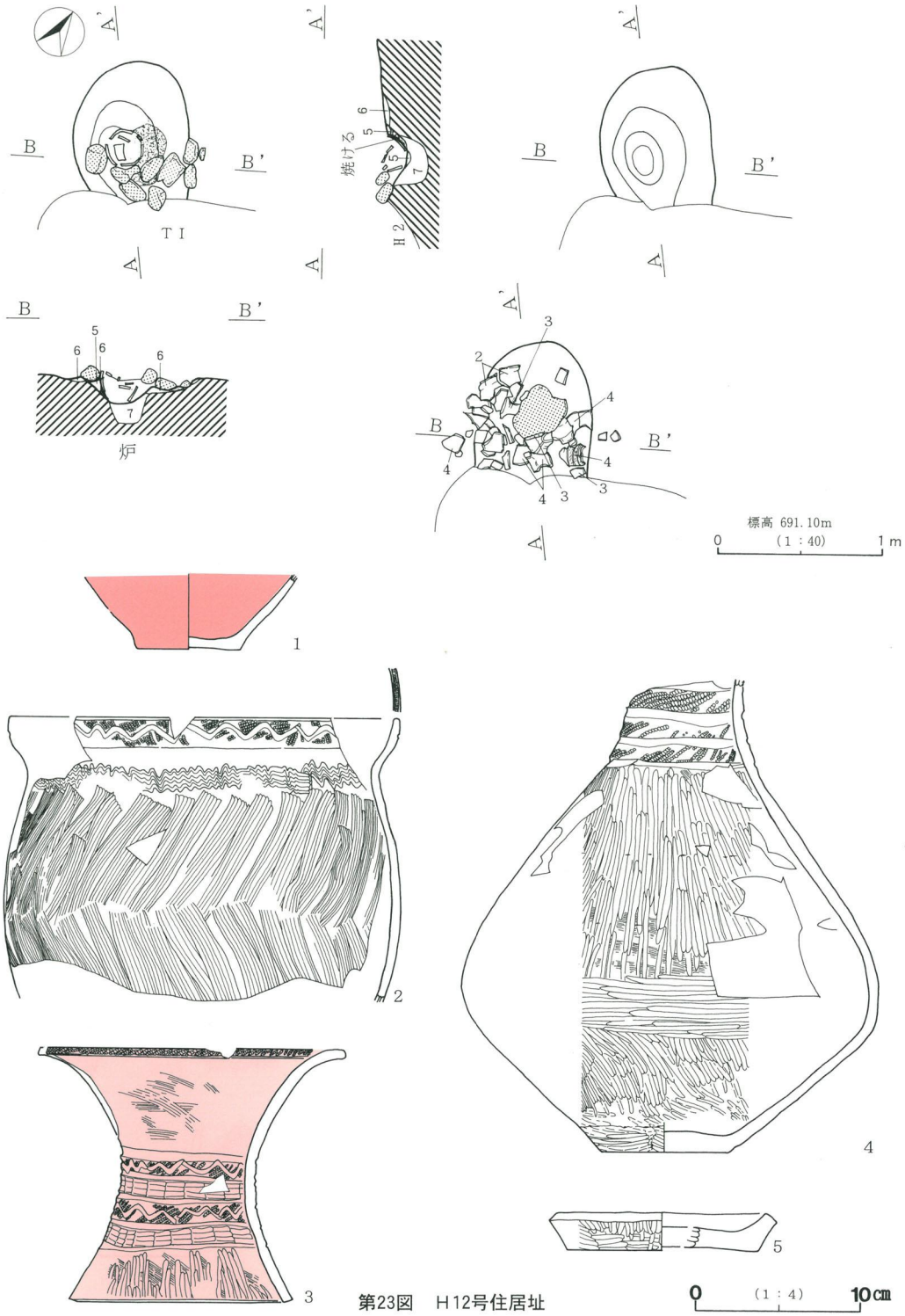
出土遺物は弥生時代中期の赤色塗彩杯、壺、甕、磨製片刃石斧がある。３の壺は頸部文様が多く赤色塗彩が文様の沈線の中までみられ、筆状のもので後から塗った状況を示している。胴部下部を欠損しており、ちょうど端部は粘土ひもの接合面と一致するが整えられ、器台として再利用されたようである。５の壺底部端部も整えられており、再利用された可能性がある。３は無彩の壺で頸部に縄文を転がし４本の沈線を横に施文している。２の甕は口縁が受け口で、胴上半に斜条痕を羽状に施した後、頸部に波状文を施す。



第22図　H12号住居址

H12土層説明

1. 黒褐色土層（10YR2/2）地山砂含む。
2. 黒褐色土層（10YR2/3）地山砂多く含む。
3. 黒褐色土層（10YR2/2）1層より黒い。
4. 黒褐色土層（10YR3/2）地山砂含む。
5. 黒褐色土層（7.5YR3/2）焼土粒子含む。
6. 暗褐色土層（7.5YR3/3）焼土粒子多く含む。
7. 暗褐色土層（10YR3/4）砂主体。
8. 黒褐色土層（10YR2/3）地山砂多く含む。
9. 暗褐色土層（10YR3/3）地山砂主体。
10. 黒褐色土層（10YR2/3）地山砂主体。
11. 暗褐色土層（10YR3/3）貼り床。砂と黒褐色土混在。
12. 褐色土層（10YR4/6）地山砂主体。
13. 暗褐色土層（10YR3/3）地山砂多量に含む。

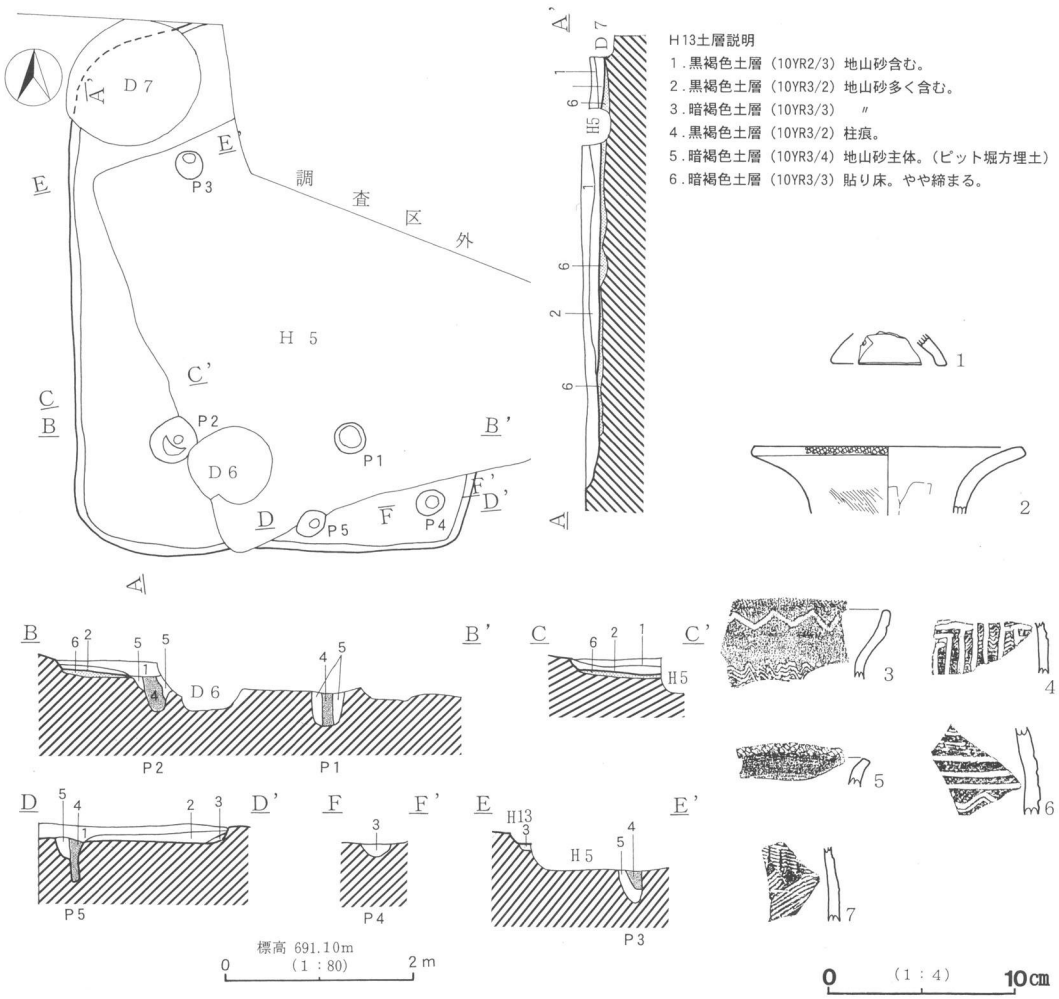


第23図　H12号住居址

H13号住居址

北東にあり、H５に大半を切られ、D６・D７にも切られ、わずかに西から南端が残っている。北東は調査区域外となっている。長辺540cmの隅丸長方形を呈すものと思われる。北東が未調査なので断定はできないが弥生時代中期の破片が出土していることから、炉はH５に破壊されたようである。主柱穴は４本で北東をのぞく３本を検出している。

出土遺物は全体で400ｇと少なく、いずれも破片である。１は器種ははっきりしないが小型品の脚で一部赤色塗彩がある。２の壺は口唇部に縄文を転がし、外反する口縁である。拓本には受け口の甕、「コ」の字重ね文の甕片などもある。これらより弥生時代中期と推測されるが、資料は乏しい。



第24図　H13号住居址

H14号住居址

調査区南東隅にあり、H2・D3・単独ピットに切られ、東は区域外であるため、西側がわずかに残っている。長辺430cmを測る隅丸長方形を呈するものと思われる。主柱穴は1個北西にあたるものが検出されている。

本址からは破片のみで、時代を決定する資料はない。しかしD3が弥生時代中期の遺物を出土し、本址を切っていることから、本住居址も弥生時代中期頃と推測される。掲載してないが片岩の磨製石鏃の剥片がある。

H15号住居址

本址はH1に北側、M1に西を切られ、F2・単独ピットとも重複し切られており、住居址南東部がわずかに残るのみである。柱穴は2個検出されるが床面が検出面と重なり、住居址に伴う柱穴かどうか確認できなかった。　規模形態ともに不明である。

出土遺物は弥生時代の高杯が実測され、波状文の甕や受け口状の壺などの破片である。無彩の壺の破片が2.8kgと多くみられるが実測資料はない。重複が激しいため資料がが混入し、古墳時代の土器片も2.5kgほどある。住居址の浅いことなどから、弥生時代に帰属するとは思うが決定資料は欠く。

H16号住居址

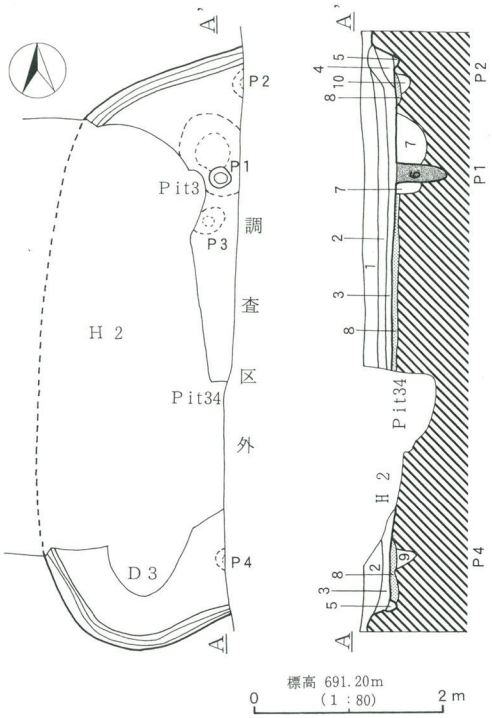
西は調査区域外、南はH6に切られ、F4・単独ピットにも切られている。残っている北東は隅丸長方形で長辺600cm近い住居址である。床面は締まっており明確であった。主柱穴は6本柱であろうと思われ、東の3本が検出された。炉はH6により、壊されたようである。

出土遺物には弥生時代中期の甕、黒曜石製石鏃、片岩の磨製石鏃の石材がある（14）。1の甕は口縁が短くおれる中期の小甕で外面は口唇部に刻み、頸部に櫛描横線文胴部に櫛描斜条痕を施す。2は短く外反する口縁の甕で、口唇部に縄文を転がし頸部に櫛描横線を施している。遺物少なく破片は1kgのみである。

H17号住居址

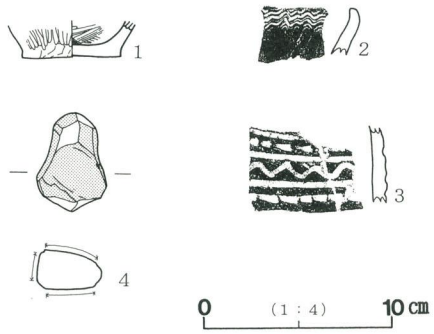
北西でH6南西でH8に切られ、単独ピットに切られる。長辺512cm短辺424cmの隅丸長方形ではあるが方形に近いものである。主柱穴は4本で東側2本が残った。主柱穴の柱痕の上に石が置かれた状態であった。炉は中央にあり、西側はH8に壊されている。地床炉であるが、火床の南に小土器片を立て、小礫を置いている。

出土遺物には弥生時代中期の壺・甕、磨製石鏃がある。1の甕は受け口の甕で口唇部に縄文、口縁部外面に縄文を転がし2本歯の櫛を波状に横走させ、頸部は櫛描廉状文、胴部は櫛描波状文を横に施す。2は赤色塗彩された壺の口縁部。3は無彩の壺で底と胴のに2箇所に粘土帯が貼り付いている。底の帯は割れ目に沿っていることから焼成前にひびが入り補修したようである。

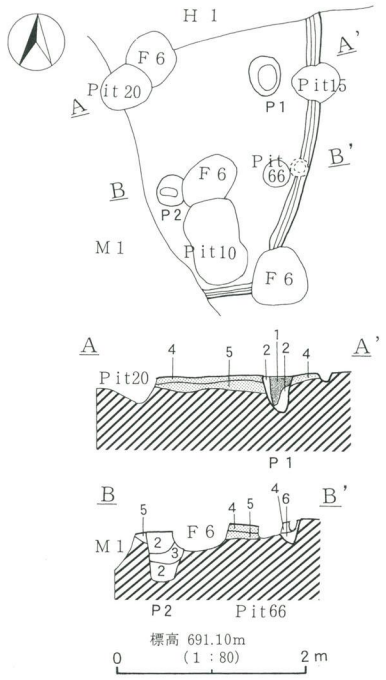


H14土層説明

1．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）1層より黒い。
3．黒褐色土層（10YR2/2）
4．黒褐色土層（10YR2/3）
5．暗褐色土層（10YR3/3）地山砂多く含む。
6．暗褐色土層（10YR3/3）柱痕。
7．黒褐色土層（10YR2/2）黒色強い。
8．暗褐色土層（10YR3/4）貼り床。ロームブロック多量に含む。
9．褐色土層（10YR4/3）ロームブロック多量に含む。
10．暗褐色土層（10YR3/3）地山砂多く含む。

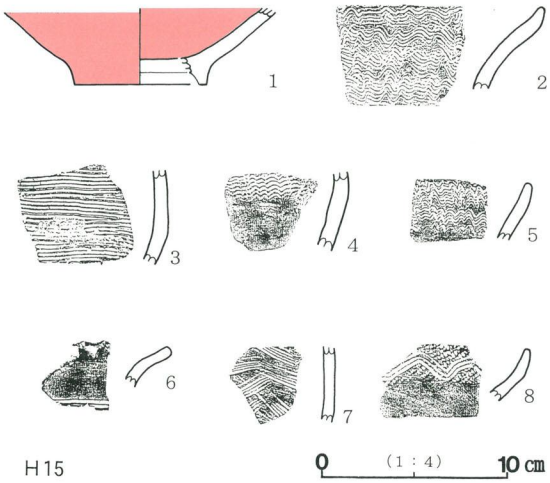


H14



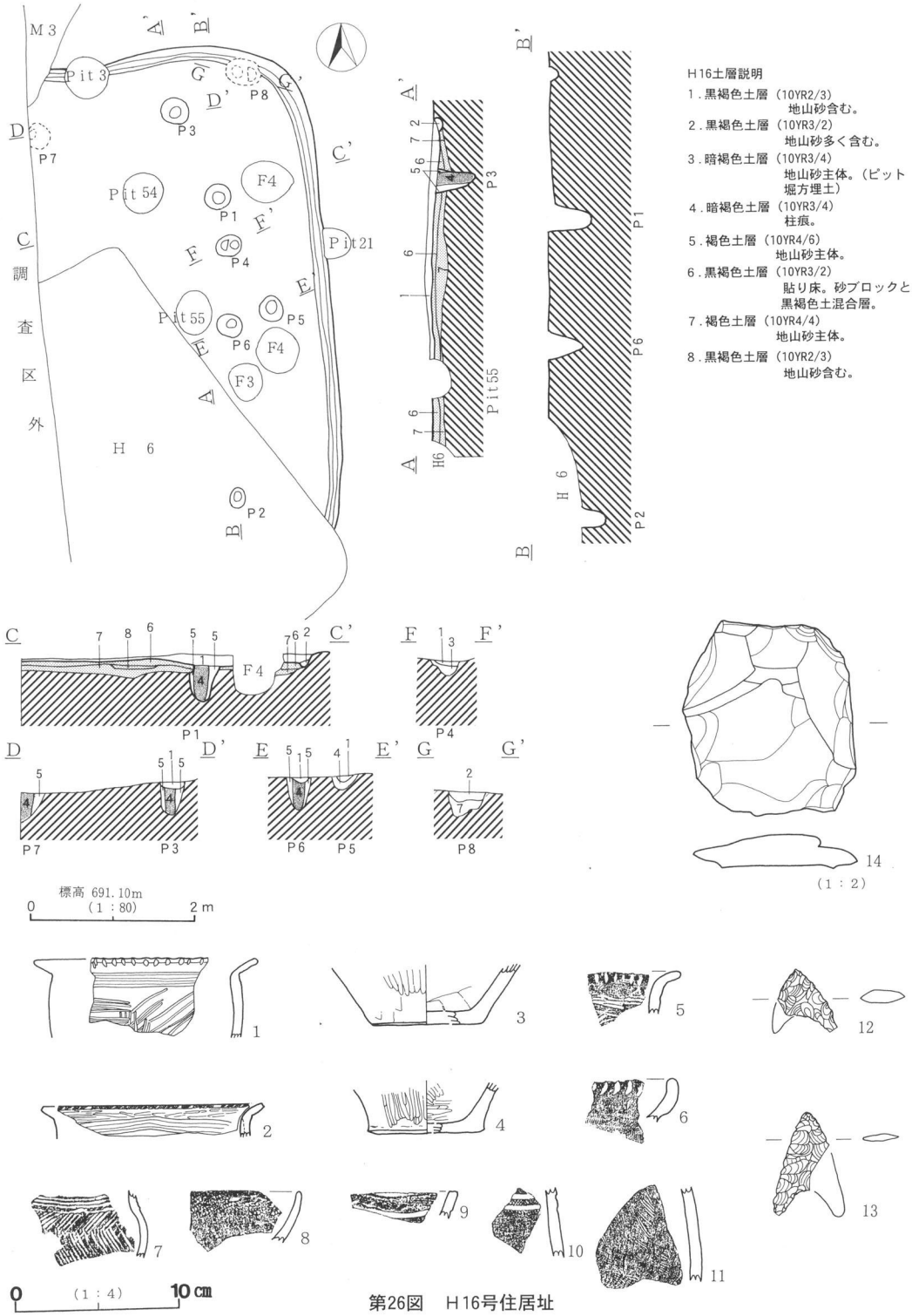
H15土層説明

1．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂含む。
2．暗褐色土層（10YR3/4）地山砂主体。
3．暗褐色土層（10YR3/3）
4．黒褐色土層（10YR3/2）貼り床。地山砂ブロック含む。あまり締まりなし。
5．褐色土層（10YR4/6）地山砂主体。
6．暗褐色土層（10YR3/4）

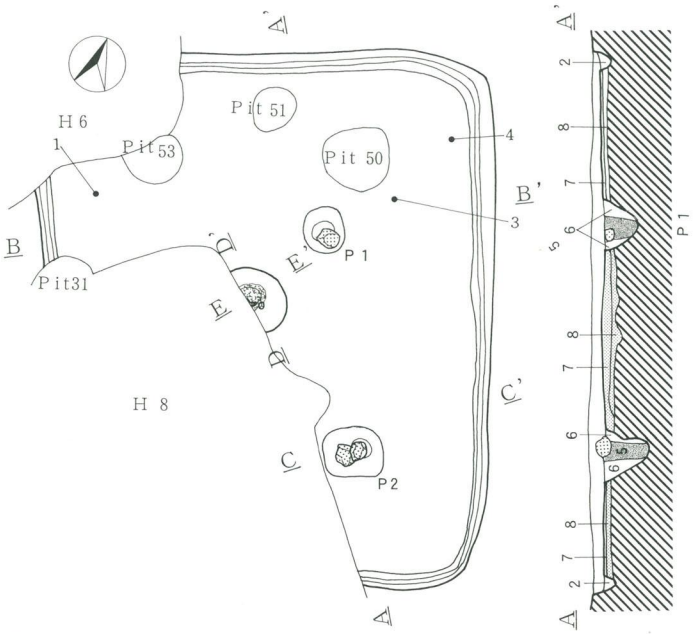


H15

第25図　H14・H15号住居址

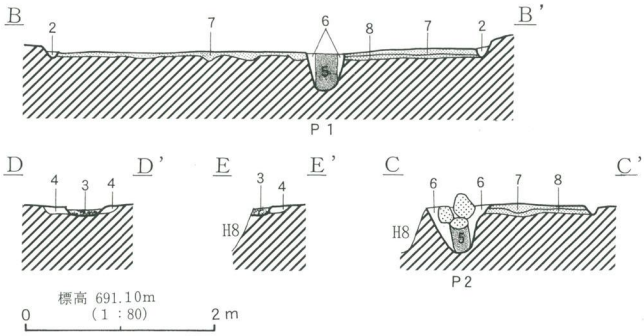


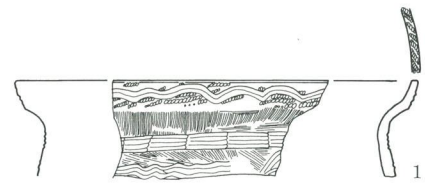
第26図　H16号住居址

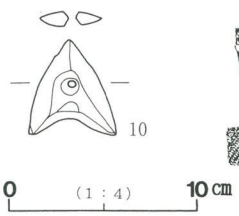


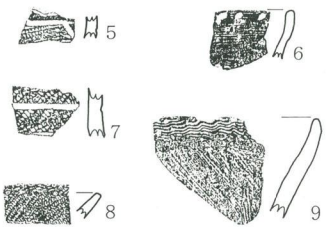
H17土層説明

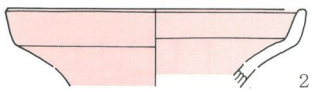
1．暗褐色土層（10YR3/3）
　　ローム粒子・5mm大小石含む。
2．褐色土層（10YR4/6）
　　地山砂主体。
3．明赤褐色土層（5YR5/8）
　　焼土。
4．にぶい褐色（7.5YR5/3）
　　地山砂多く含む。
5．黒褐色土層（10YR3/2）
　　柱痕。
6．暗褐色土層（10YR3/3）
　　地山砂含む。
7．黒褐色土層（10YR3/2）
　　貼り床。ロームブロック含む。
　　締まりあり。
8．褐色土層（10YR4/6）　地山砂主体。

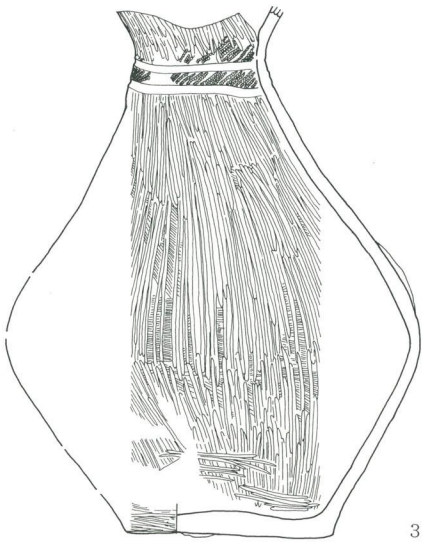


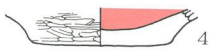




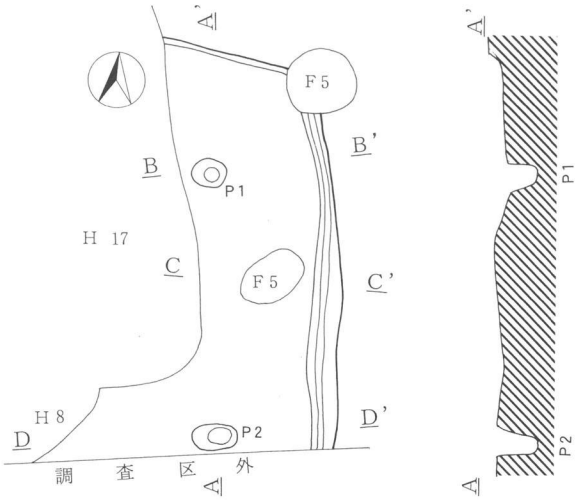






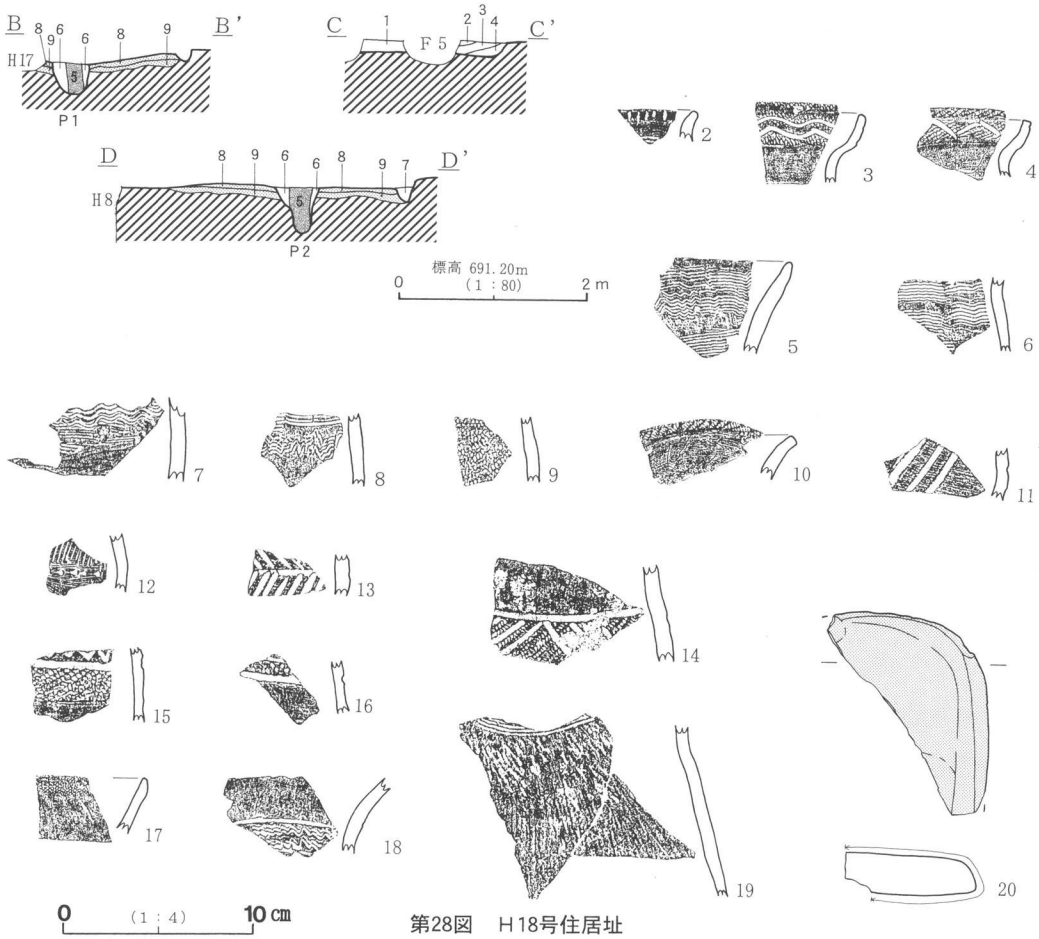


第27図　H17号住居址



H18土層説明

1．黒褐色土層（10YR3/2）地山砂含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）
3．暗褐色土層（10YR3/3）地山砂多く含む。
4．褐色土層（10YR4/4）地山砂主体。
5．黒褐色土層（10YR3/2）柱痕。
6．暗褐色土層（10YR3/3）地山砂多量に含む。（ピット埋土）
7．暗褐色土層（10YR3/4）地山砂多量に含む。
8．黒褐色土層（10YR3/2）貼り床。ローム多量に含む。
9．褐色土層（10YR4/4）ローム多量に含む。



第28図　H18号住居址

H18号住居址

調査区南西にあり、H17・H８に西側を切られ、南は区域外である。北東の一部調査し、規模は不明であるがプラン確認から推測して南北540cmの方形に近い住居址である。

弥生時代中期の土器破片と砥石が出土している。

古墳時代

Ｔ１号竪穴状遺構

調査区中央にあり、Ｈ１に切られ、H12を切っている。一辺240cmの方形の竪穴の北東に長辺140cmの長方形が付属し、30cmほど深くなっている。西側の竪穴の壁下には小ピットが巡っている。

出土遺物には多くの礫があり、25個ある。12は磨製石斧の基部のみで、先端が欠損している。基部面がすり減り、打痕があり敲石・スリ石として再利用している。他は、わずかにくぼみ・スリ面を持つものである。使い込まれた様子はないが、使用面がある。土器は実測個体は弥生時代末から古墳時代の破片である。この他に古墳時代土器片500ｇ、不明800ｇ、弥生時代末の甕破片900ｇがあり、この遺構の重複関係の帰属する年代は弥生中期よりは新しく、平安時代より旧いのであって、まとまった土器からは弥生末から古墳時代初頭が該期かと思われる。いずれにしても一般の竪穴住居址とは性格を異にしている。

掘立柱建物址

掘立柱建物址は６棟検出された。いずれも弥生時代の竪穴住居址を切っている。Ｆ３・Ｆ４は古墳時代後期の住居址を切る。

Ｆ１号掘立柱建物址

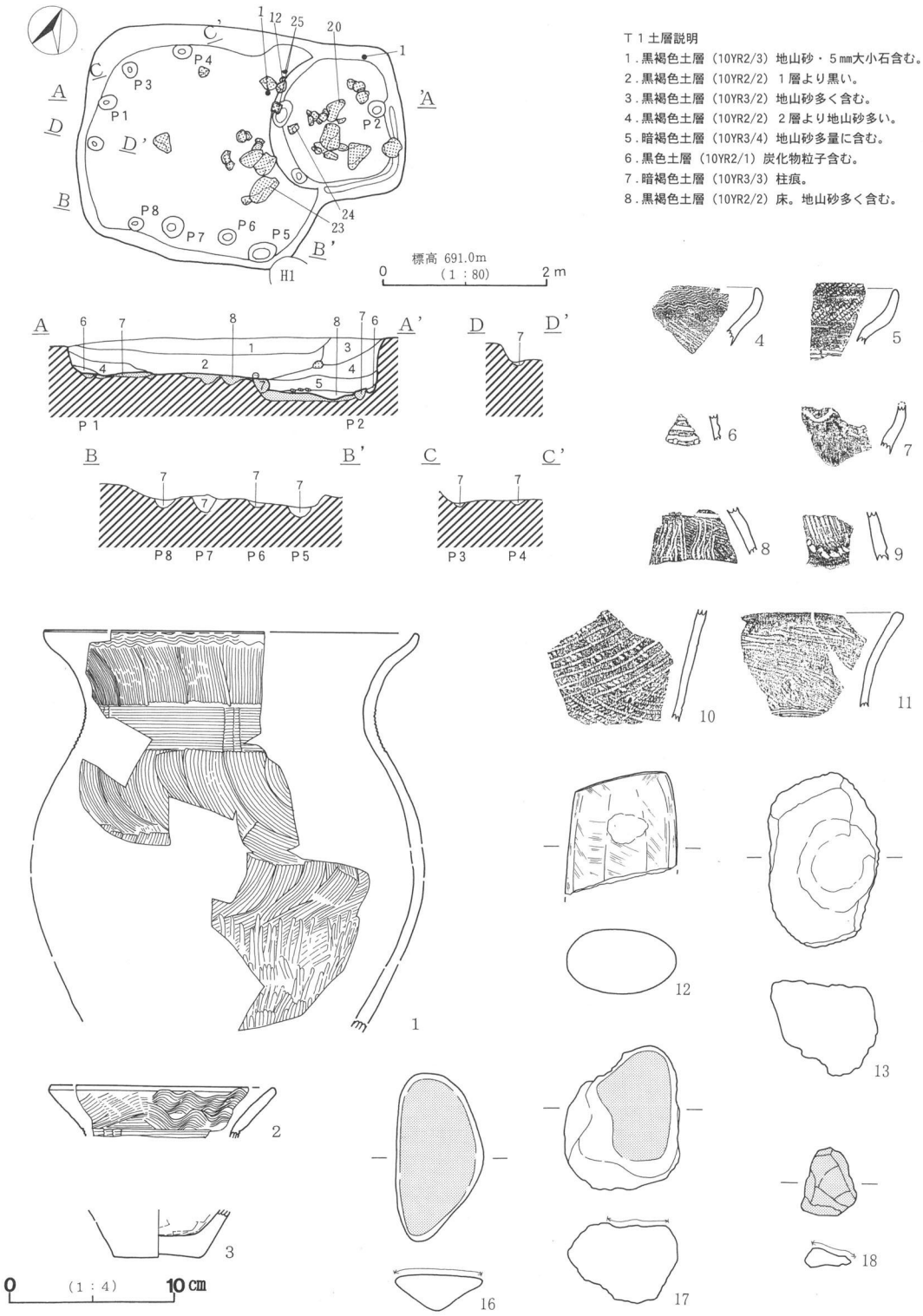
Ｍ１に切られ、Ｆ６を切る。東西棟と推測され２間×２間が残る。梁間428cm柱間200～228cm、棟行きはわからないが柱間160～200cmを測る。出土遺物は弥生時代の土器破片である。

Ｆ２号掘立柱建物址

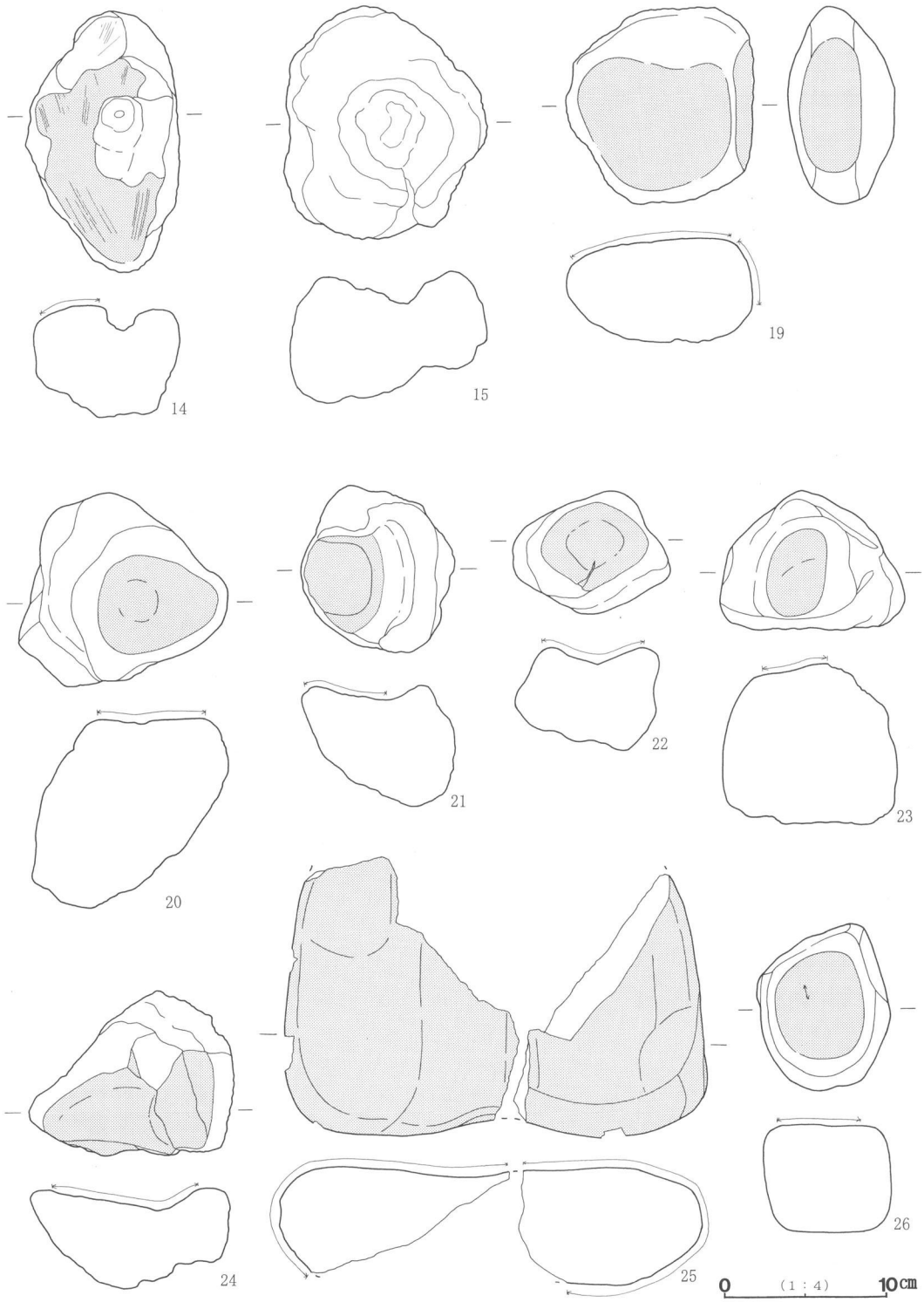
Ｈ１・Ｈ２、単独ピットに切られ、北側は不明である。おそらくは南北棟であろう。桁行き柱間120cm、梁間264cm柱間132cmを測る。古墳時代中期と、弥生時代の土器破片が出土している。

Ｆ６号掘立柱建物址

Ｍ１・Ｆ１に切られる。東西は不明。柱間180cm。南北360cm柱間は200cm、出土遺物には弥生と古墳時代後期の土器破片がある。

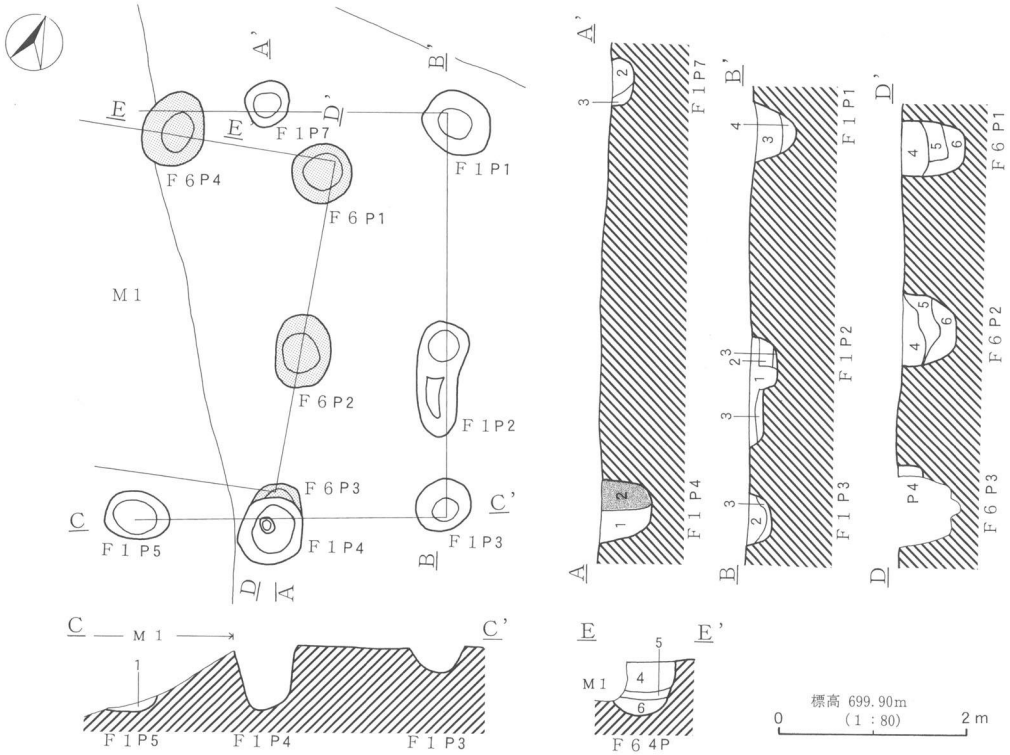


第29図　Ｔ１号竪穴状遺構



第30図　Ｔ１号竪穴状遺構

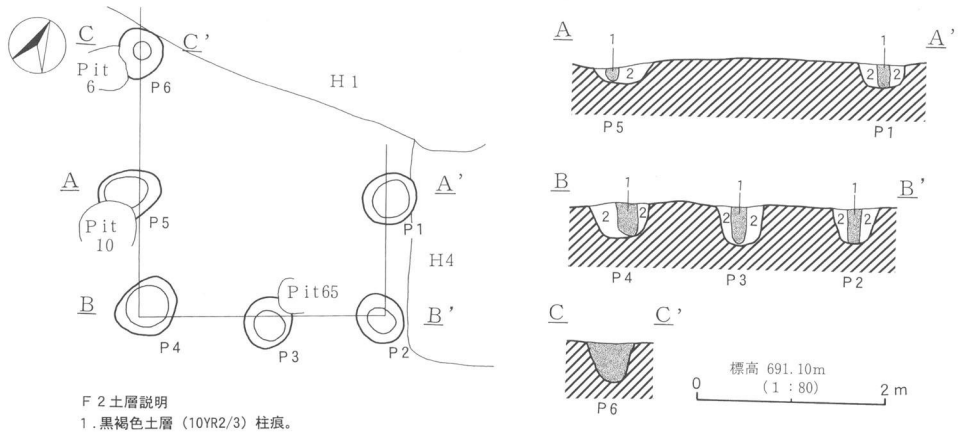
F1・F6



F1・6土層説明

1.黒褐色土層（10YR2/3）地山砂含む。
2.黒褐色土層（10YR2/2）　〃
3.暗褐色土層（10YR3/3）地山砂ブロック混じる。
4.黒褐色土層（10YR2/2）地山砂含む。
5.黒褐色土層（10YR2/3）地山砂多く含む。
6.黒褐色土層（10YR2/2）地山砂含む。

F2

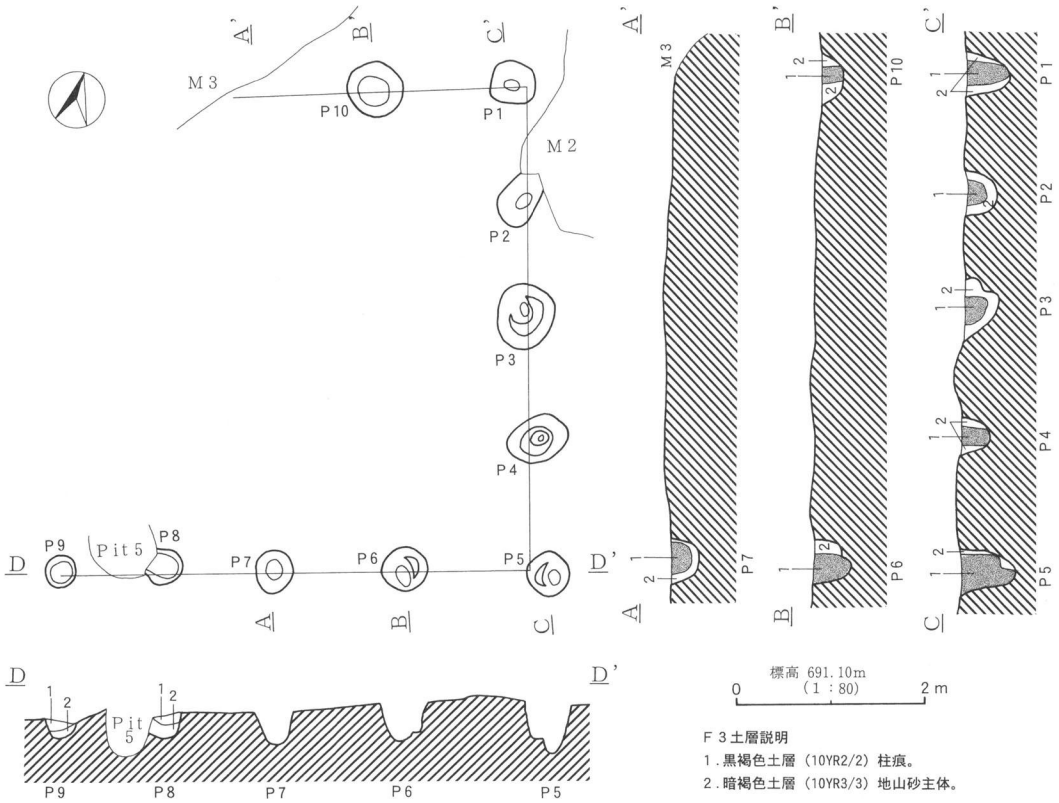


F2土層説明

1.黒褐色土層（10YR2/3）柱痕。
2.黒褐色土層（10YR3/2）地山砂多く含む。

第31図　F1・F6・F2号掘立柱建物址

F３

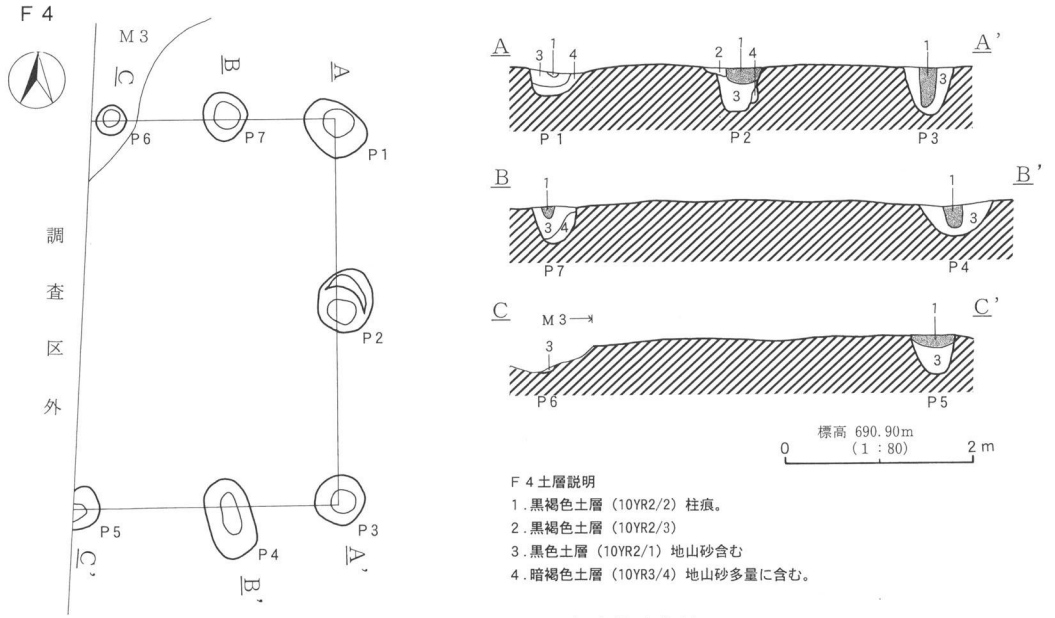


F３土層説明

１.黒褐色土層（10YR2/2）柱痕。

２.暗褐色土層（10YR3/3）地山砂主体。

F４



F４土層説明

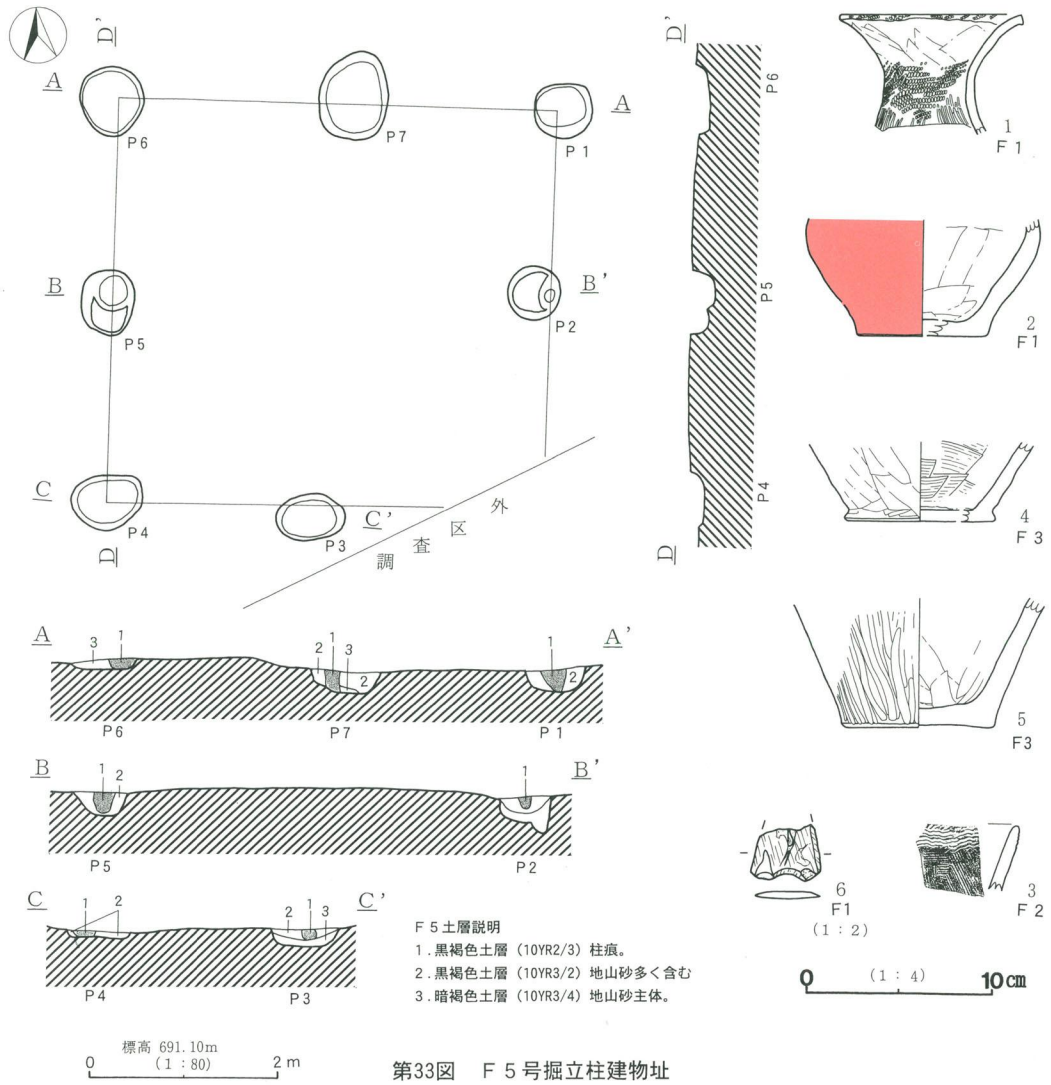
１.黒褐色土層（10YR2/2）柱痕。

２.黒褐色土層（10YR2/3）

３.黒色土層（10YR2/1）地山砂含む

４.暗褐色土層（10YR3/4）地山砂多量に含む。

第32図　F３・F４号掘立柱建物址



第33図　Ｆ５号掘立柱建物址

Ｆ３号掘立柱建物址

西は調査区域外、Ｍ３に切られ古墳・弥生時代のＨ６・H16を切る。４間×４間で柱間100～140cm、一辺500cmを測る。出土する土器破片は弥生時代と古墳時代後期である。

Ｆ４号掘立柱建物址

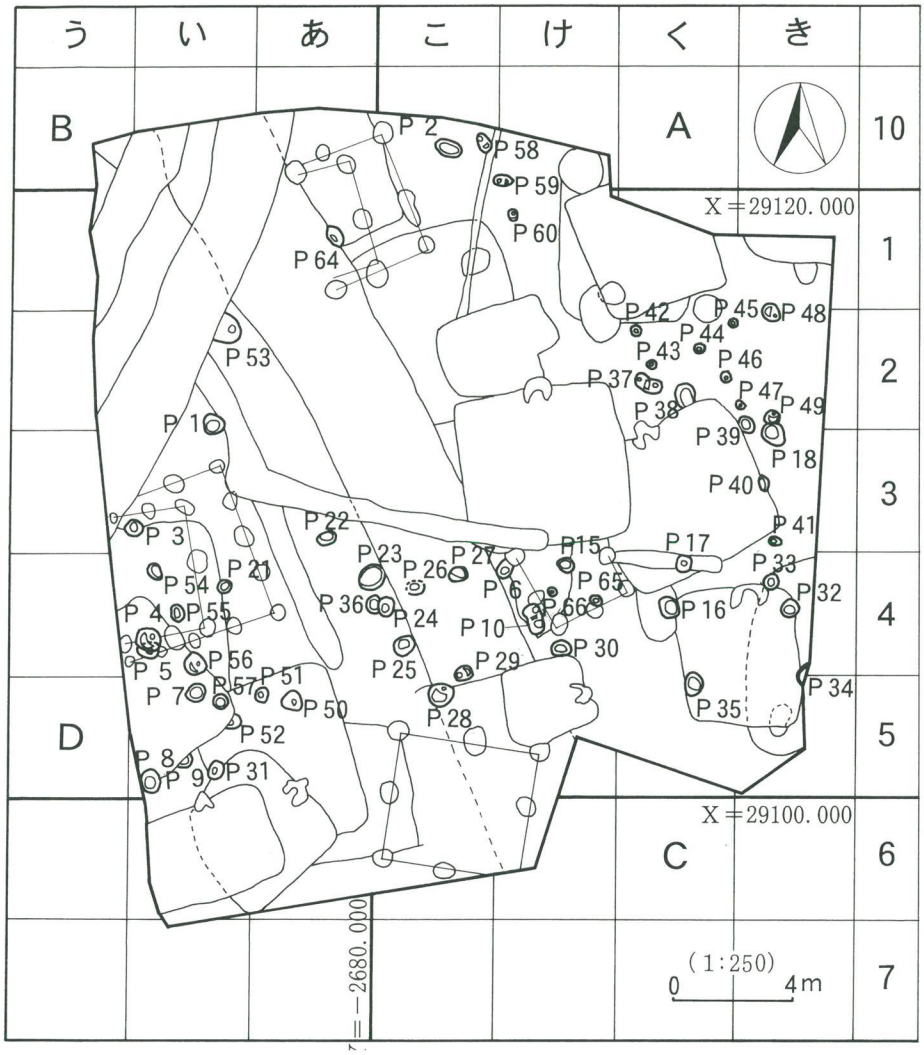
西は調査区域外、H6.H16を切る。桁行きは柱間120・160cm、梁間408cmで柱間204cmを測る。弥生時代と古墳時代後期の土器片を出土する。

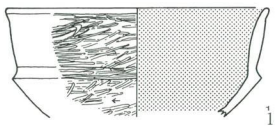
Ｆ５号掘立柱建物址

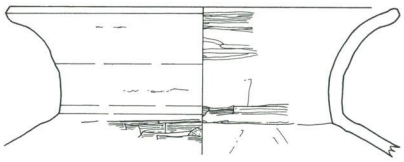
南東の柱穴は区域外。２間×２間、桁行き464cm柱間240・264cm、梁間432cm柱間200・232cmを測る。古墳時代後期の土器片が出土する。

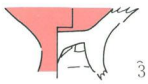
単独ピット

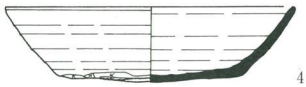
遺構の重複が多いので、柱穴はわかるが掘立柱建物址として組めないものが多かった。

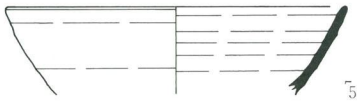



1 (P4)


2 (P4)


3 (P30)


4 (P43)


5 (P63)

0 (1：4) 10cm

第34図　単独ピット

土坑

Ｄ１号土坑

調査区の北東、Ｈ５に一部壊される。長径196cm短径120cm深さ13cmの長楕円形を呈する。出土遺物は弥生時代中期から後期、２の底部回転糸切りの土師甕は検出時の遺物であるため混入品だろう。覆土からは３～５、10～13の弥生中～後期の破片である。従って弥生時代後期の土坑と思われる。

Ｄ２号土坑

調査区北東にあり、北側はＨ９に壊される。長楕円形を呈し、残長76cm短径60cm深さ10～20cmを測る。検出時に14の中型の甕が出土している。弥生時代後期の所産であろう。

Ｄ３号土坑

調査区の南東にあり、Ｈ２に北側を壊され、H14を切っている。長楕円形の浅い土抗に深いピットを伴うものである。残長124cm、短径80cm深さ24cm、ピットは円形で径66cm深さ82cmを測る。多量の土器を出土しており、15～21の甕・壺の他に、1.65kgの土器を出土している。土器は弥生時代中期である。

Ｄ４号土坑

調査区北東にあり、重複関係はない。円形で径90cm深さ81cmを測る。出土遺物には弥生時代後期の櫛描き横線文を頸部に巡らす塗彩された壺や途切れる波状文を施す甕などから、弥生時代後期頃の土坑と思われる。

Ｄ５号土坑

調査区北にあり、Ｍ６が切る。一辺44cmの隅丸方形で深さは６cmと浅い土坑である。弥生時代の壺・甕片と赤色塗彩の杯片が数片あるだけで時代は不明。

Ｄ６号土坑

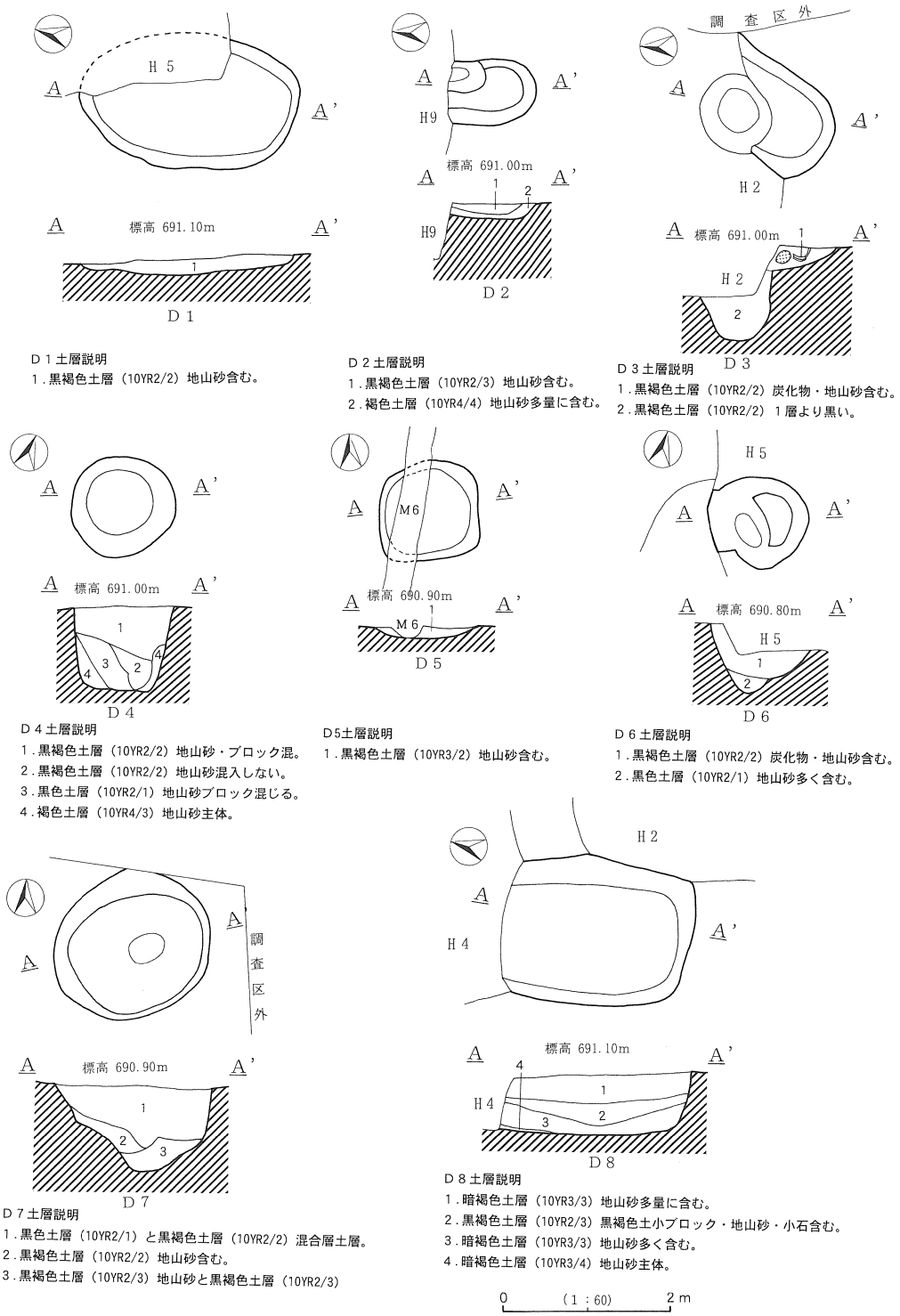
調査区北にあり、Ｈ５・Ｄ１に一部壊される。円形を呈す90cm×80cm、深さ62cmを測る。弥生時代の土器片を出土する。

Ｄ７号土坑

調査区北にあり、H13を切る。長径142cm短径104cmのやや楕円形を呈し、深さ80cmを測る。出土遺物は弥生時代の無彩の壺、赤色塗彩の壺・杯などである。時期を決定する資料を欠く。

Ｄ８号土坑

調査区南東にあり、Ｈ４に北側を壊され、長径はわからないが残長170cm短径130cm深さ58cmの隅丸長方形の土坑で、底面は平坦であるが貼り床はなかった。赤色塗彩の杯が実測され、土器片には弥生時代中期の壺・甕がある。Ｈ４が切るので古墳時代後期より旧いことは確実である。



D１土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）地山砂含む。

D２土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂含む。
2．褐色土層（10YR4/4）地山砂多量に含む。

D３土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）炭化物・地山砂含む。
2．黒褐色土層（10YR2/2）１層より黒い。

D４土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）地山砂・ブロック混。
2．黒褐色土層（10YR2/2）地山砂混入しない。
3．黒色土層（10YR2/1）地山砂ブロック混じる。
4．褐色土層（10YR4/3）地山砂主体。

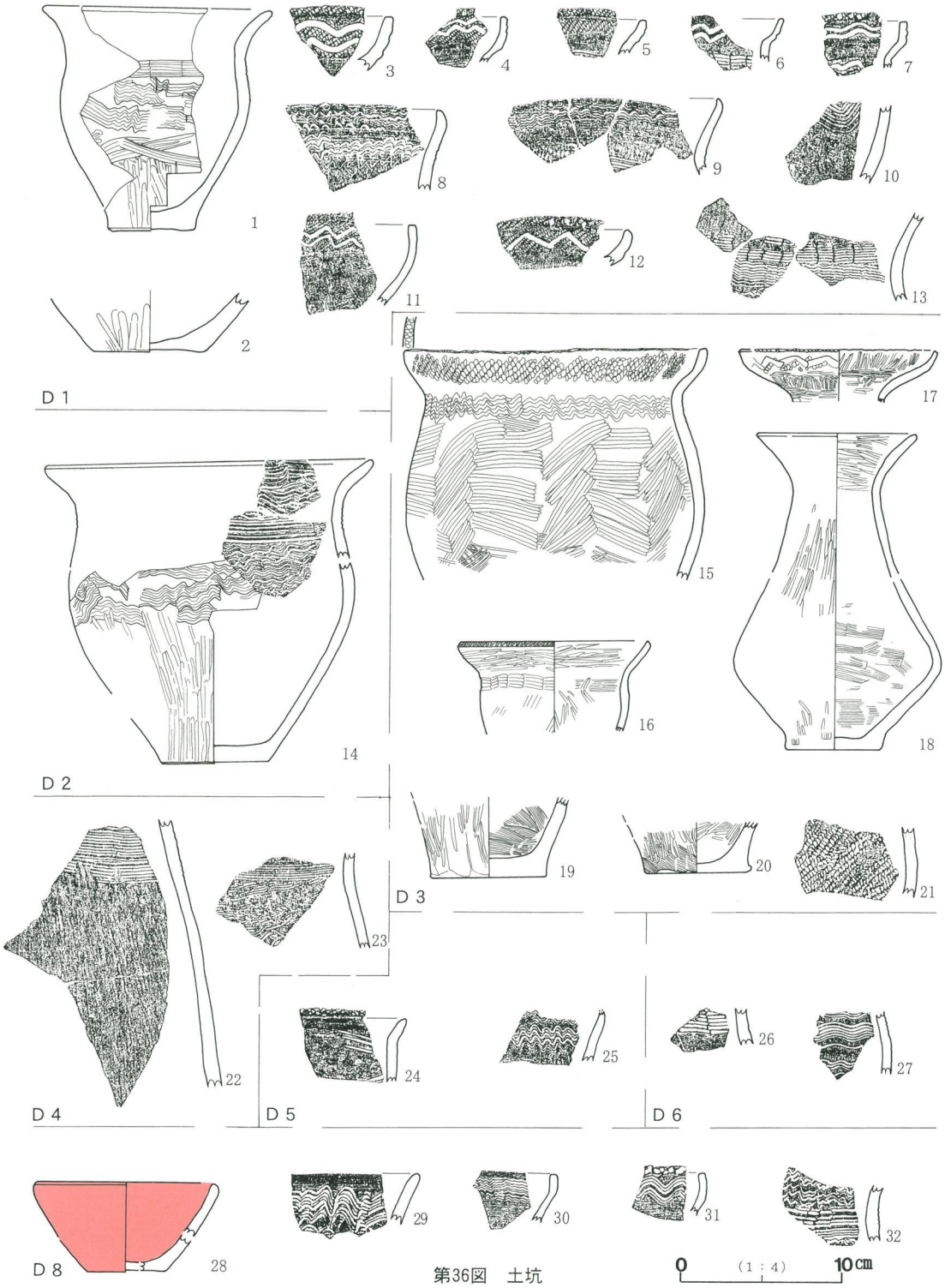
D5土層説明
1．黒褐色土層（10YR3/2）地山砂含む。

D６土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）炭化物・地山砂含む。
2．黒色土層（10YR2/1）地山砂多く含む。

D７土層説明
1．黒色土層（10YR2/1）と黒褐色土層（10YR2/2）混合層土層。
2．黒褐色土層（10YR2/2）地山砂含む。
3．黒褐色土層（10YR2/3）地山砂と黒褐色土層（10YR2/3）

D８土層説明
1．暗褐色土層（10YR3/3）地山砂多量に含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）黒褐色土小ブロック・地山砂・小石含む。
3．暗褐色土層（10YR3/3）地山砂多く含む。
4．暗褐色土層（10YR3/4）地山砂主体。

第35図　土坑



第36図　土坑

溝状遺構

Ｍ１号溝

調査区を北西から南東に貫いており、幅350～370cm深さ183～203cmを測り、調査区内では底面はほぼ平坦である。地山は南に高くなっているので溝はやや深くなるが20cm程で、大きな変化はない。西一本柳Ⅲ・Ⅳでは南に低くなっている。Ｍ１は弥生時代の住居址H11・12を破壊しており、古墳末～平安時代のＨ１・３には切られている。小砂利層が底面にみられ、北の調査区(INPⅤ）では水もたまったので、水と関係は認められる。しかし自然の流路ではなく人工的な溝である。古墳時代後期の住居址との重複はなく、溝上層覆土には古墳時代後期の遺物が含んでいることから、古墳時代後期までこの溝が集落内で機能していたようである。上限は古墳時代の後期とすると下限はいつかということになる。第37図はＭ１号溝から出土し実測できた土器のうち、分層で捉えられたものを、層ごとに分類したものである。他の層との接合があるので明確な線引きはできないが、第１～３層までは古墳時代中・後期と弥生末の土器混在するが、第４・５層になると、弥生時代中期もあるものの大半が弥生時代末の土器群で構成される。また第４・５層の底面ではプランは伴わないがほぼ完形に近い土器と礫群が存在している。この下の第６～９層の砂利層になると遺物はほとんどない。

Ｍ１を掘り下げると、地山が砂なので直ぐに壁の崩壊が始まり埋もれ出したことから、下層の３つの層が、容易に埋もれてしまったことは推察できる。砂利堆積後に弥生時代末の包含層があることで、この時期にはＭ１が存在していたようである。

Ｍ２号溝

調査区の中程で東西方向にきて途中北西に方向を変えている。平安時代のＨ１上面を壊しており、Ｍ３・４に壊されている。幅77～105cm深さ10～50cmを測る。東に行くと浅くプランが消滅してしまう。実測個体の他に古墳・弥生時代の土器片を出土する。

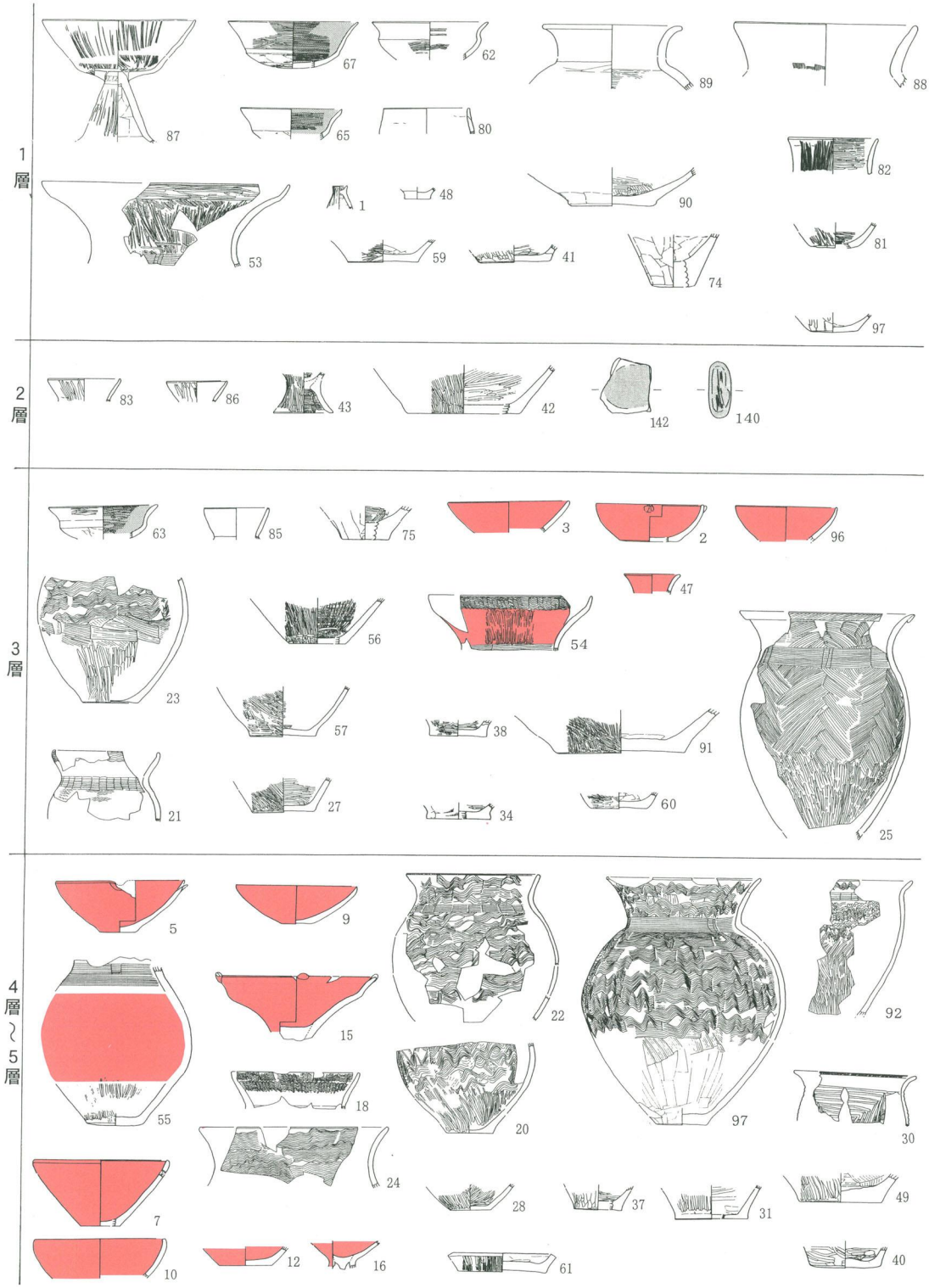
Ｍ３号溝・Ｍ４号溝

Ｍ３は調査区の北西にあり、幅230～240cm深さ50cm内外を測る。調査区内では底面はほぼ平坦である。第２層が非常に締まっており、この幅で連続していた。この調査区ではもっとも新しい遺構であり、現状の馬入れと一致する事から道の跡であるらしい。

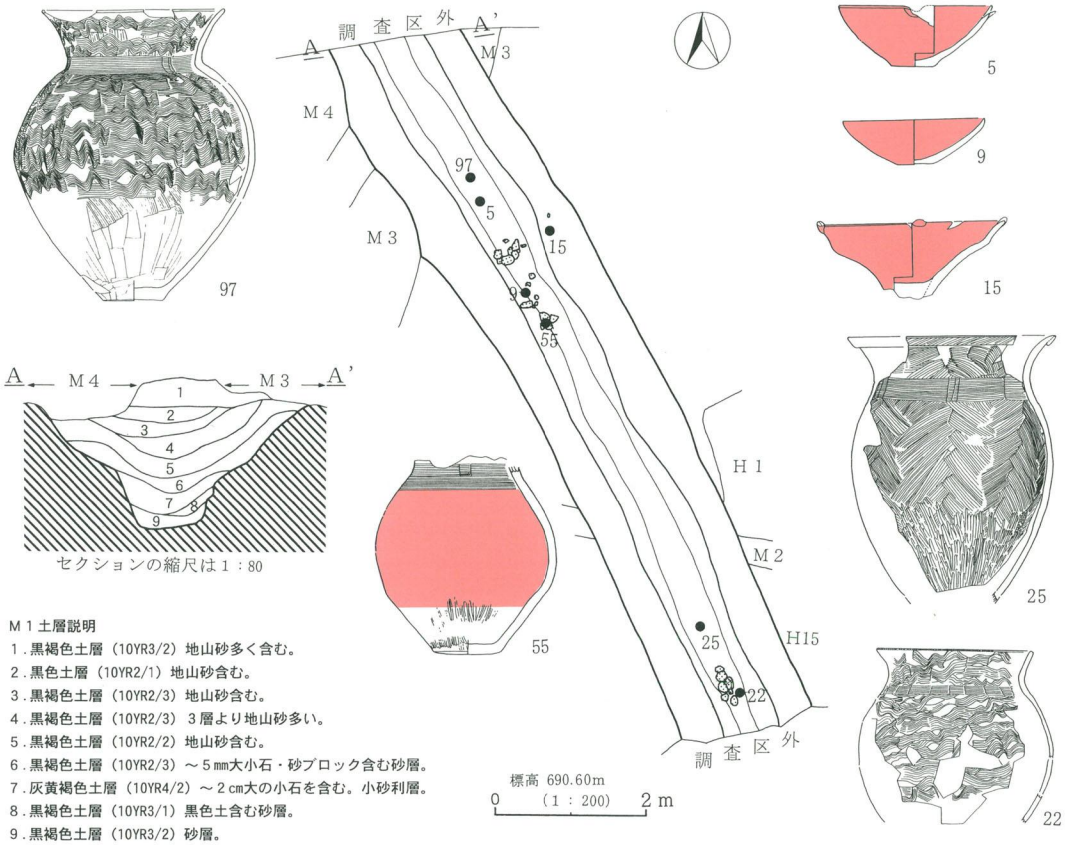
Ｍ４は調査区北東でわずかに検出された。弥生時代中期のH10を壊している。幅184cm深さ50cm内外で断面形もＭ３と似ている。同様な性格が考えられる。

Ｍ５号溝

調査区北にあり、Ｄ５と弥生時代のH12を壊し、Ｔ１に切られている。幅25cm深さ７cm前後の浅い溝である。溝底面は北に向かって低くなっている。弥生時代の土器片が出土している。

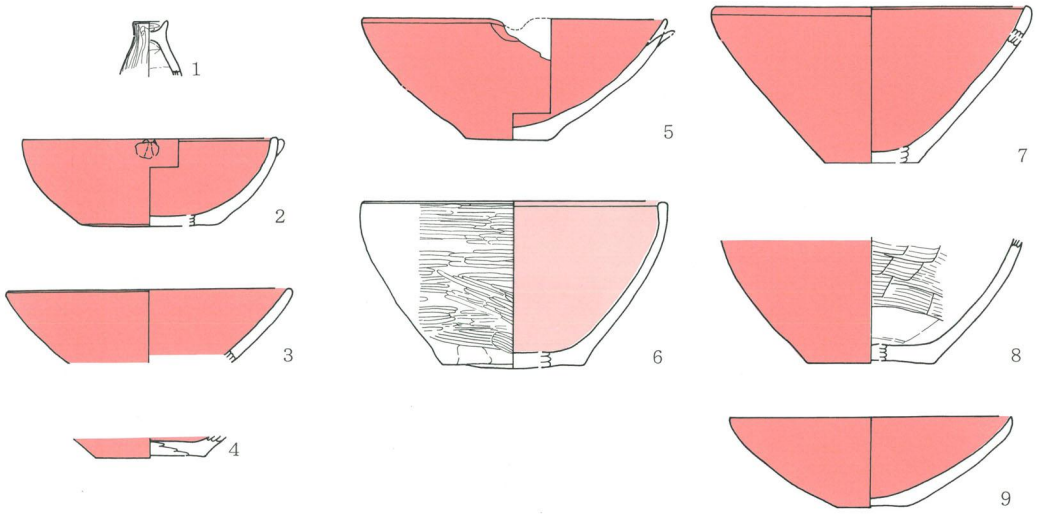


第37図　Ｍ１号溝土層別出土遺物図（1：8）

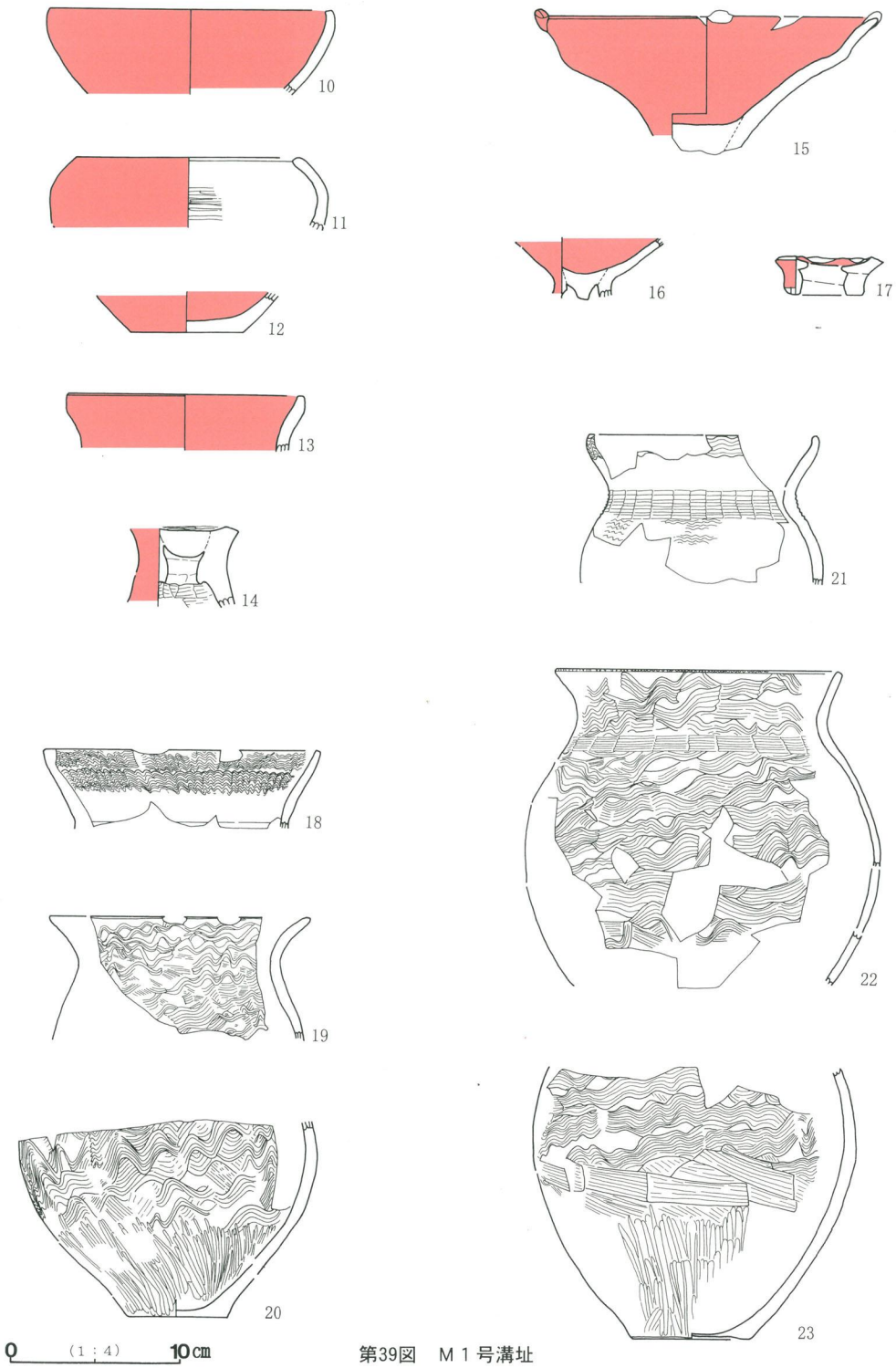


M1土層説明

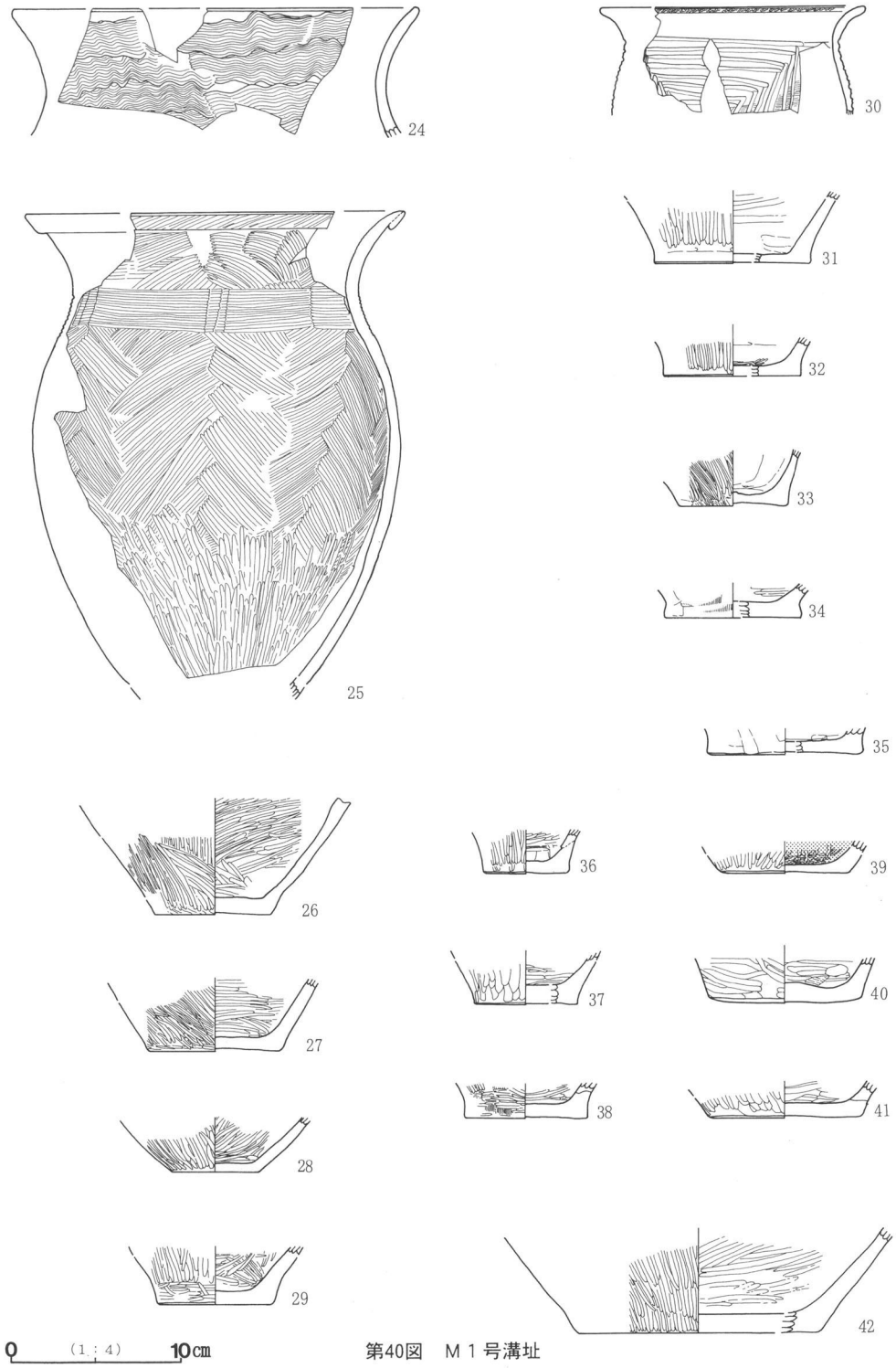
1.黒褐色土層（10YR3/2）地山砂多く含む。
2.黒色土層（10YR2/1）地山砂含む。
3.黒褐色土層（10YR2/3）地山砂含む。
4.黒褐色土層（10YR2/3）3層より地山砂多い。
5.黒褐色土層（10YR2/2）地山砂含む。
6.黒褐色土層（10YR2/3）～5mm大小石・砂ブロック含む砂層。
7.灰黄褐色土層（10YR4/2）～2cm大の小石を含む。小砂利層。
8.黒褐色土層（10YR3/1）黒色土含む砂層。
9.黒褐色土層（10YR3/2）砂層。



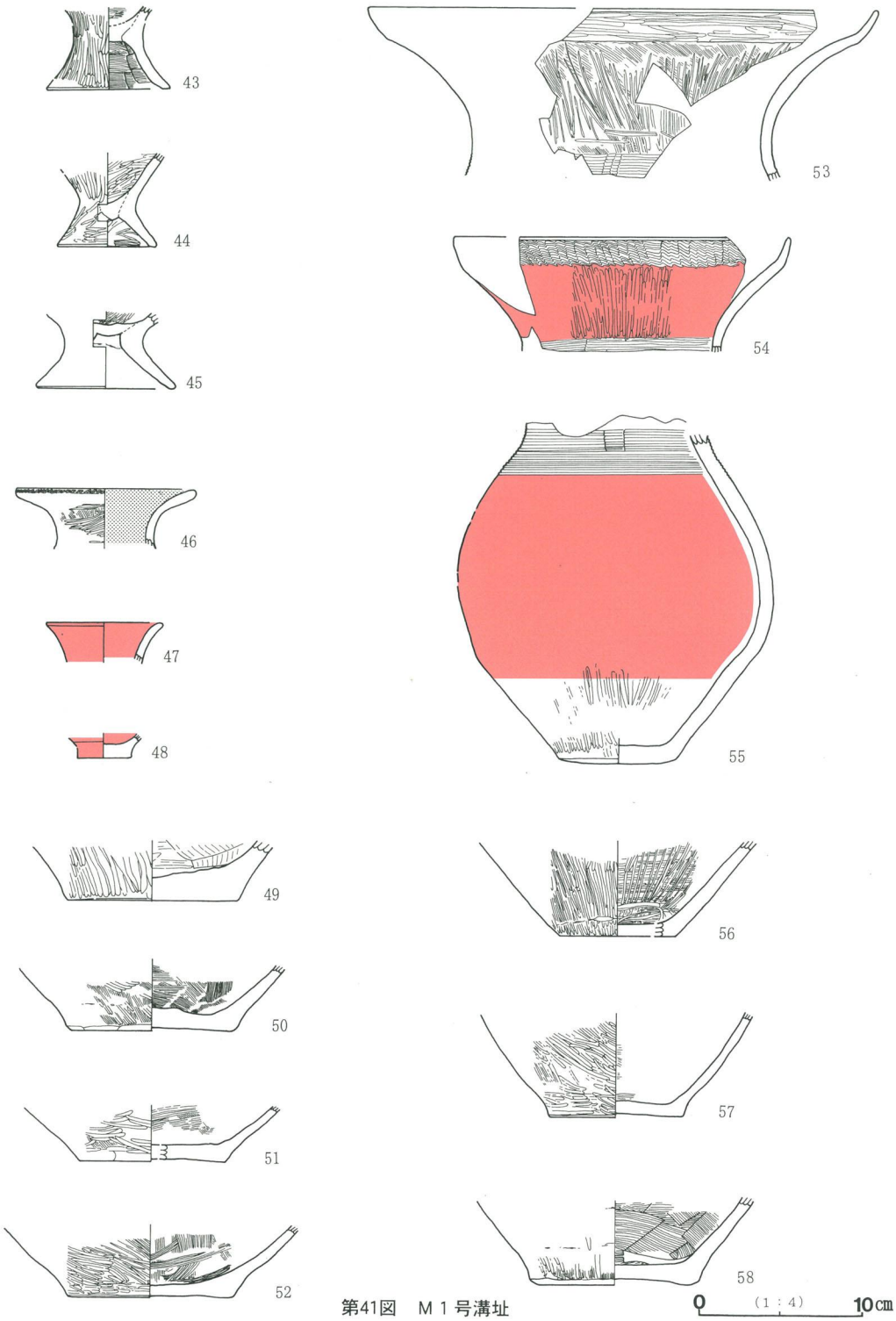
第38図　M1号溝址



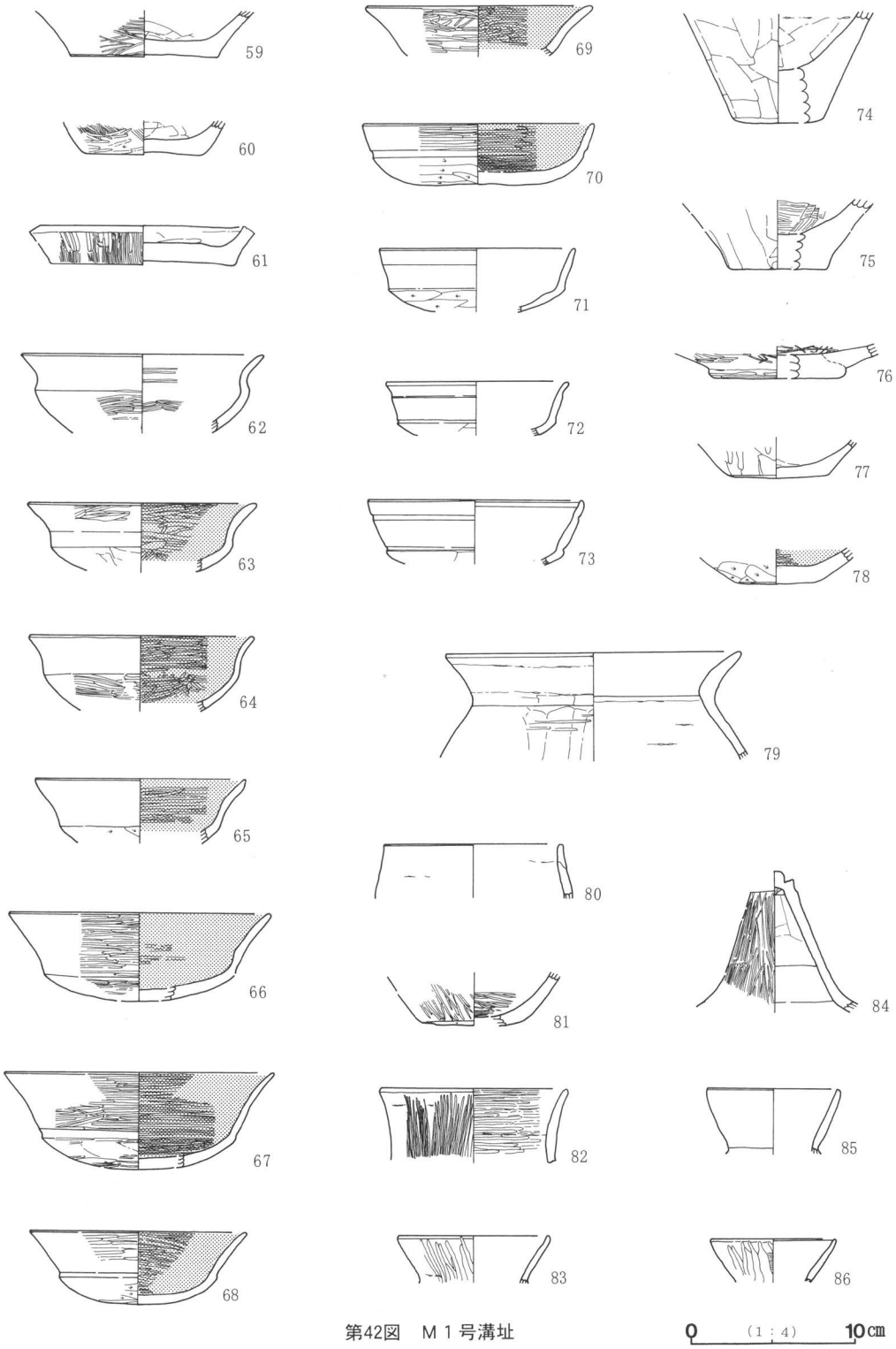
第39図　Ｍ１号溝址



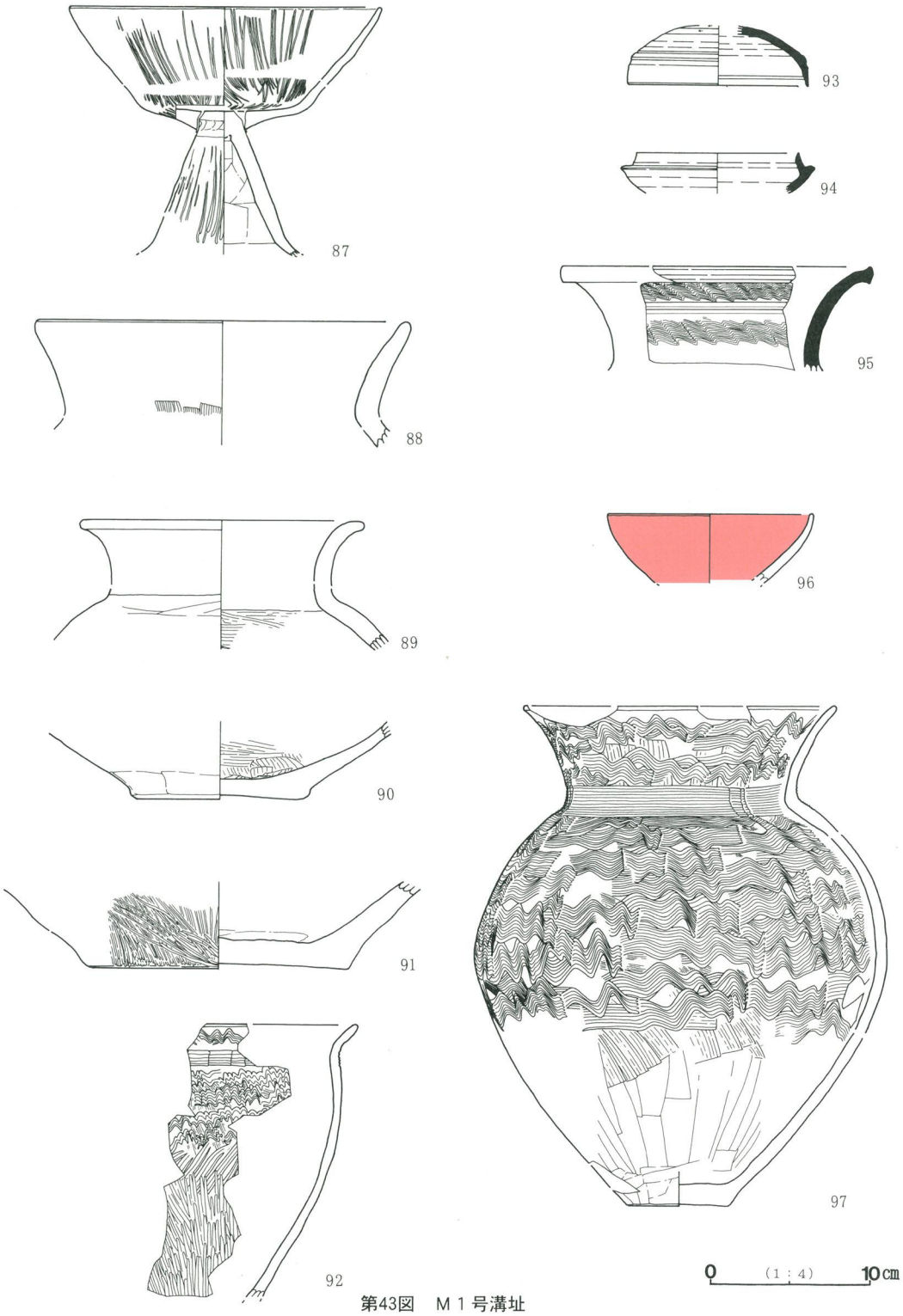
第40図　Ｍ１号溝址



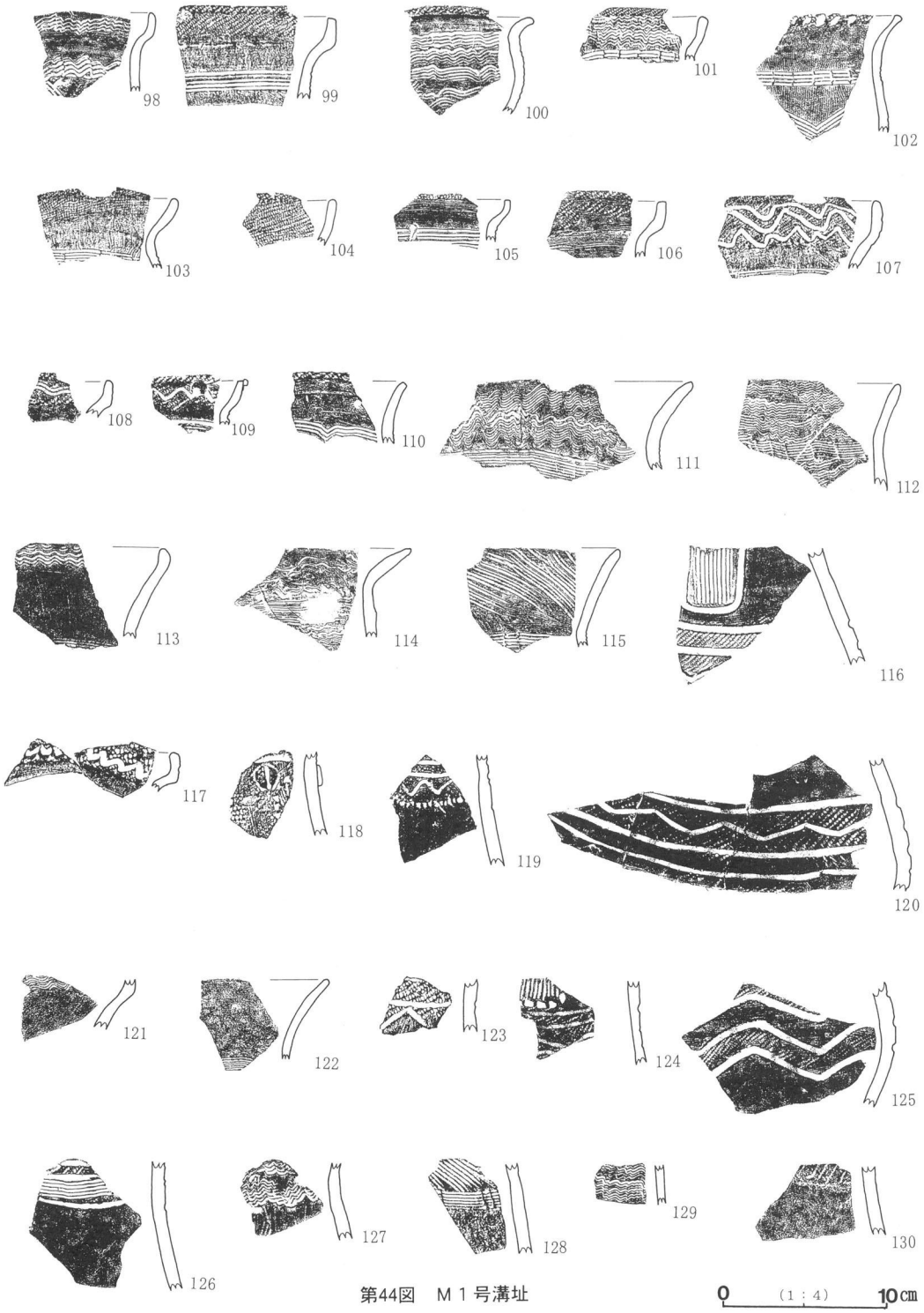
第41図　Ｍ１号溝址


59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
0 (1:4) 10cm

第42図　Ｍ１号溝址

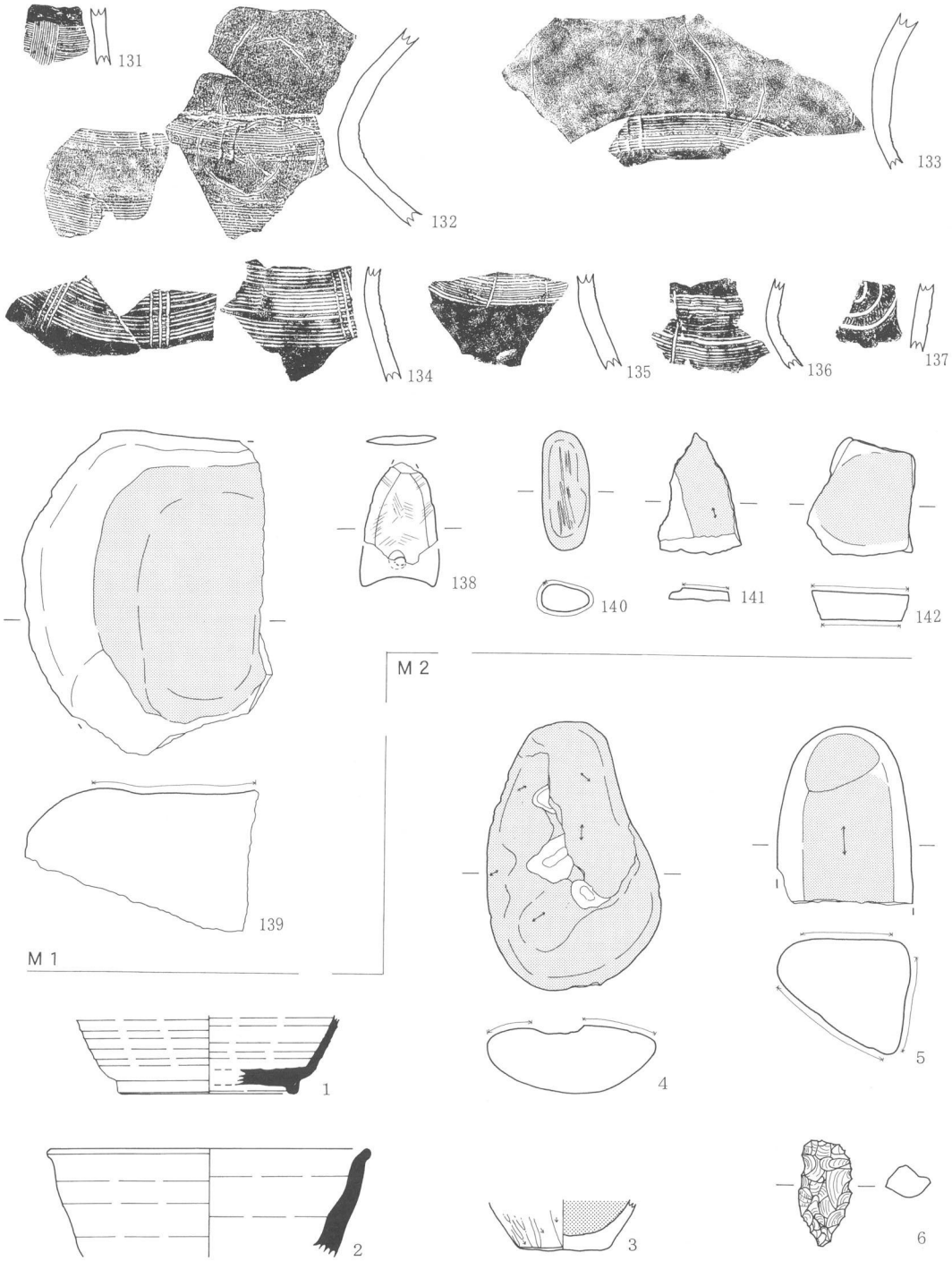


第43図　Ｍ１号溝址



第44図　Ｍ１号溝址

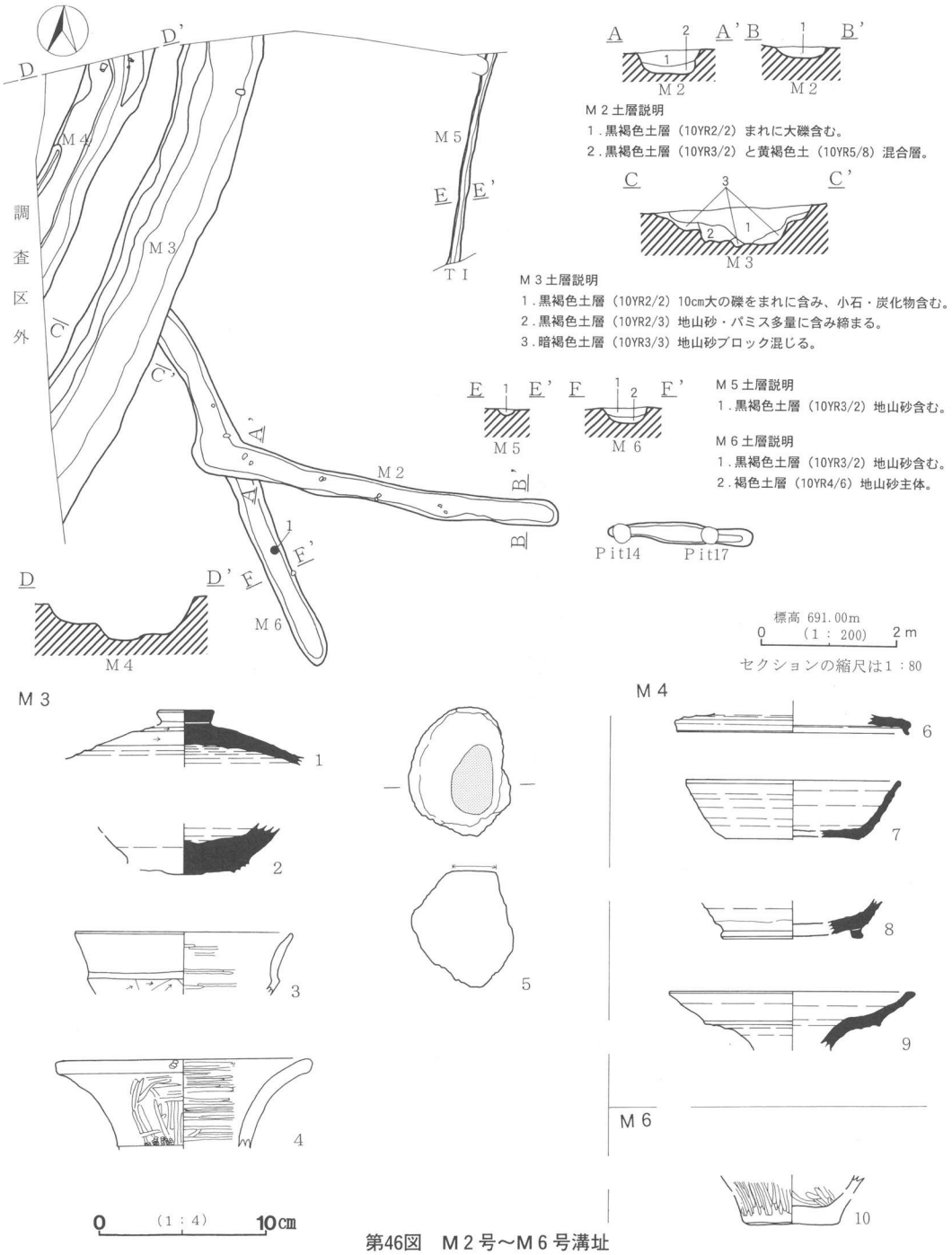
0　(1：4)　10cm



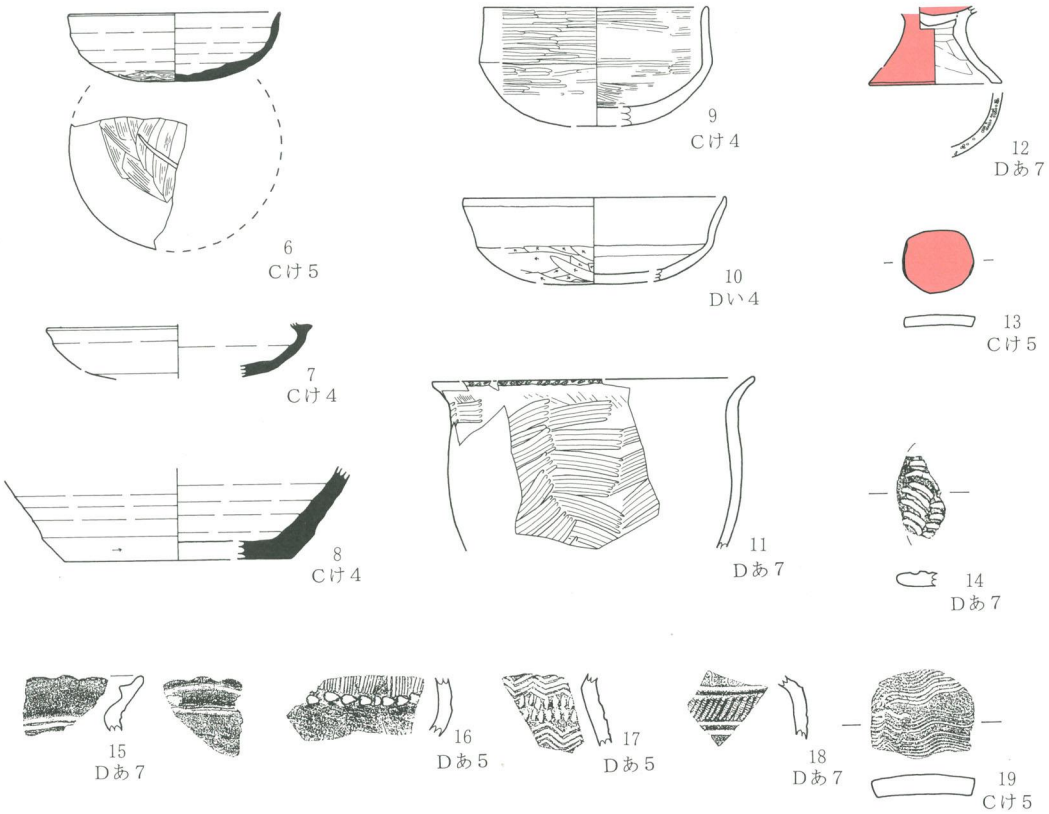
第45図　M１・M２号溝址

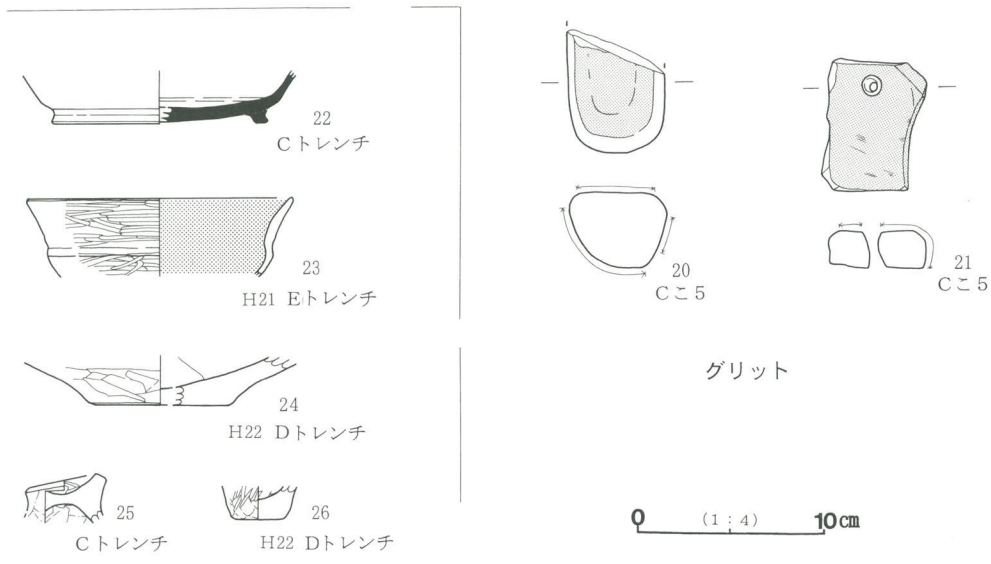
6号溝

Ｍ２に北で壊される。幅74cm、深さ18～25cm、北に低くなる。実測個体は弥生時代の甕底部であるが須恵器タタキの甕片も出土する。



第46図　Ｍ２号～Ｍ６号溝址


6
Cけ5
9
Cけ4
12
Dあ7
10
Dい4
13
Cけ5
7
Cけ4
11
Dあ7
8
Cけ4
14
Dあ7
15
Dあ7
16
Dあ5
17
Dあ5
18
Dあ7
19
Cけ5


22
Cトレンチ
23
H21 Eトレンチ
24
H22 Dトレンチ
25
Cトレンチ
26
H22 Dトレンチ
試掘
20
Cこ5
21
Cこ5
グリット
0 (1：4) 10cm

第47図　グリット・試掘

西一本柳遺跡Ⅶ遺構一覧表

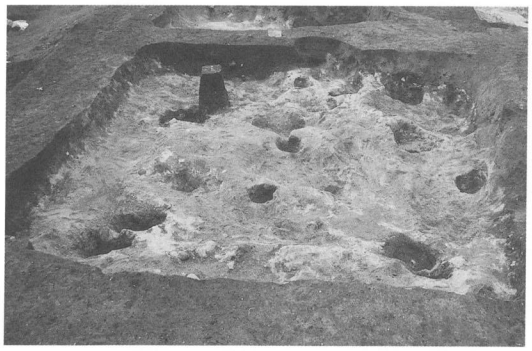
竪穴住居址

遺構名	検出位置	平面形	南北長(cm)	東西長(cm)	壁高(cm)	長軸方位	炉・カマド	柱穴	備考
H 1	Cけ 2	方形	480	472	42～48	N－9°－W	北カマド	主柱穴 4	T 1・H 12・H 15・H 4を切る
H 2	Cき 4	方形	356	328	33～41	N－7°－W	北カマド	主柱穴 3	H 14・D 3・8を切る
H 3	Cけ 4	方形	224	228	13～31	N－85°－E	東カマド	主柱穴 4	M 1・F 5を切る
H 4	C＜ 2	方形	440	480	24～37	N－28°－W	北カマド	主柱穴 6	H 1に切られる
H 5	C＜ 1	方形	380	368	26～38	N－16°－W	—	主柱穴 4	炭化材多量出土。H 13を切る
H 6	Dい 4	方形	468	436	21～23	N－38°－W	北カマド	主柱穴 4	H 16・17を切る。F 3・4に切られる
H 7	Dい 6	長方形	268	(400)	10～39	N－25°－W	北カマド	主柱穴 2	西側調査区域外
H 8	Dあ 5	長方形	340	380	33～45	N－47°－E	東カマド	主柱穴 4	H7に切られ、H 17・18を切る
H 9	Cき 1	—	〈0〉	〈260〉	25～36	N－4°－E	—	—	大半が区域外
H 10	Bう 10	隅丸長方形	432	468	5～12	N－36°－E	中央地床炉	主柱穴 4	M4に切られる
H 11	Bあ 10	隅丸長方形	〈420〉	〈260〉	18～19	N－17°－W	地床炉	主柱穴 6？	M 1・3・4 F 1・6に切られる
H 12	Cこ 1	隅丸長方形	552	〈388〉	0～16	N－23°－W	中央埋甕炉	主柱穴6棟持柱1	H 1・T 1・M 1に切られる
H 13	Cけ 1	隅丸長方形	(540)	392	9～19	N－5°－W	—	主柱穴 4	H 5・D 1・6・7に切られる
H 14	Cき 4	隅丸長方形	432	〈128〉	7～9	N－0°	—	主柱穴 1	H2に切られ大半調査区域外
H 15	Cけ 4	—	〈292〉	〈172〉	2～35	N－9°－E	—	—	H 1・M 1・F 2に切られる
H 16	Cい 4	隅丸長方形	〈560〉	〈328〉	1～9	N－7°－W	—	主柱穴6棟持柱1	H 6・F 3・4に切られる
H 17	Cあ 5	隅丸長方形	512	424	12～16	N－16°－W	中央地床炉	主柱穴 4	H6～7に切られる
H 18	Cこ 5	隅丸長方形	〈440〉	〈280〉	4～9	N－9°－W	—	主柱穴 4	H 8・H 17・F 5に切られる
T 1	Cこ 2	隅丸長方形	240	240	16～39	N－15°－W	なし	壁柱穴	H 1に切られ、H 12を切る

掘立柱建物址

遺構名	検出位置	桁行×梁間	桁行柱間	梁間柱間	長軸方位	柱穴規模
F 1	Aこ10	—×2 —×428cm	110～200cm	200・228cm	N－28°－W	長さ46～120cm 深さ30～86cm
F 2	Cけ4	—×2 —×264	140cm	132cm	N－30°－W	長さ44～68cm 深さ20～42cm
F 3	Dい3	4×4 500×508cm	100～140cm	120・140cm	N－23°－W	長さ30～66cm 深さ26～60cm
F 4	Dい3	—×2 —×408cm	120・160cm	204cm	N－10°－W	長さ30～80cm 深さ36～50cm
F 5	Cけ5	2×2 464×432cm	240・264cm	200・232cm	N－7°－E	長さ56～96cm 深さ 8～28cm
F 6	Aこ10	—×2 —×360cm	180cm	160・200cm	N－15°－W	長さ70～80cm 深さ56～60cm

Ｈ１号住居址完掘（南より）



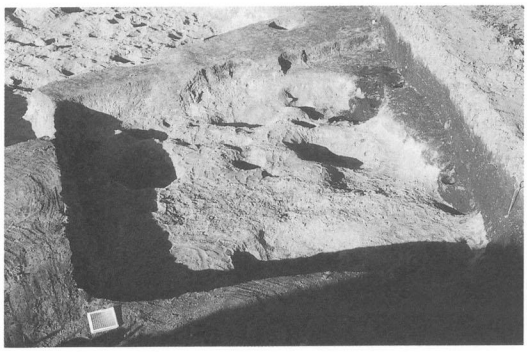
Ｈ１号住居址堀方（南より）

Ｈ１号住居址遺物出土状況（東より）

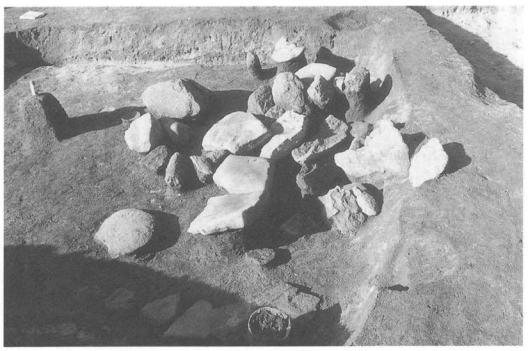
Ｈ１号住居址カマド（南より）

Ｈ１号住居址カマド堀方（南より）

H２号住居址（南より）



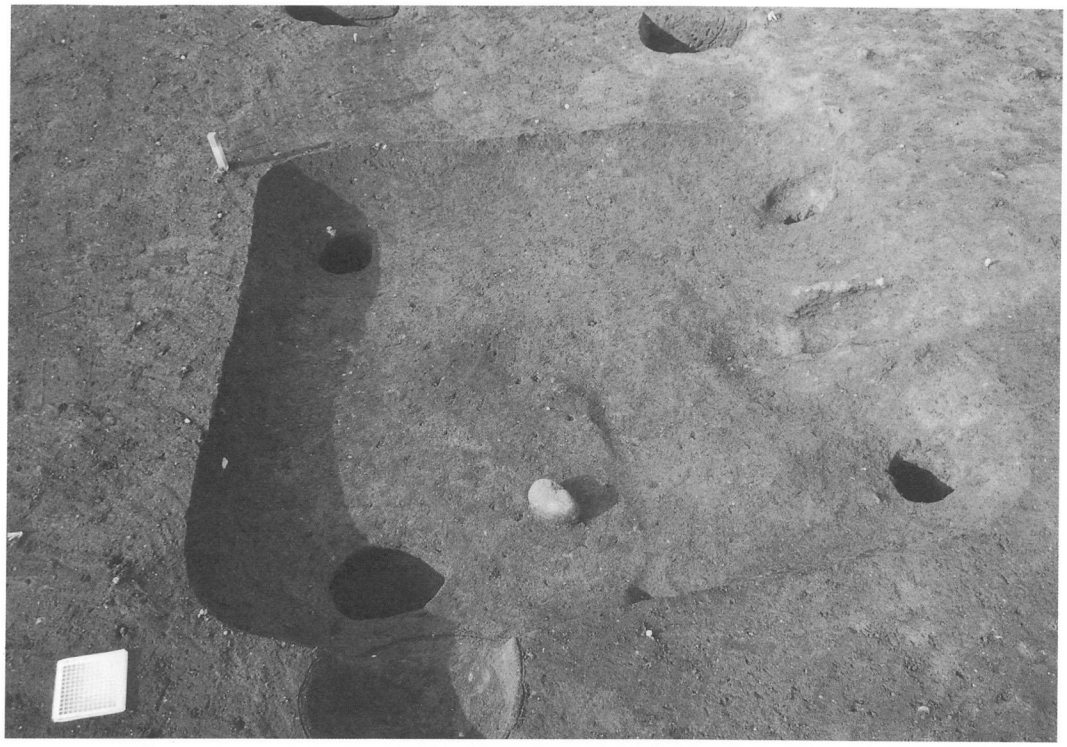
H２号住居址堀方（南より）



H２号住居址石・遺物出土状況（東より）

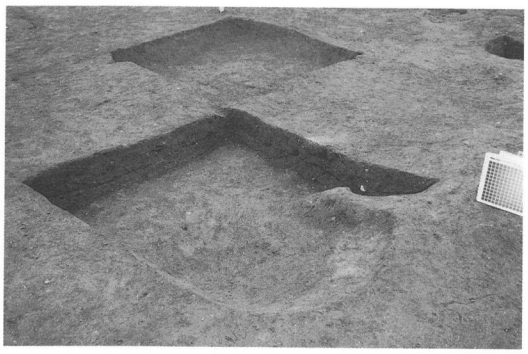
H２号住居址カマド（東より）

H２号住居址カマド（北より）



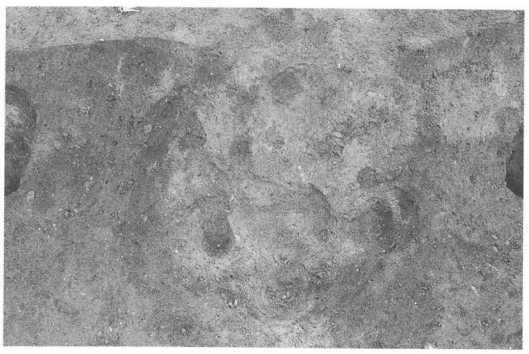
H３号住居址完掘（南より）

H３号住居址堀方（南より）



H３号住居址Ⅲ区セクション（南より）

H３号住居址カマド（西より）



H３号住居址カマド堀方（西より）

図版四　H4

H４号住居址完掘（南より）

H４号住居址堀方（南より）

H４号住居址出土遺物（北より）

H４号住居址カマド（南より）

H４号住居址カマド堀方（東より）

H５号住居址完掘（南より）

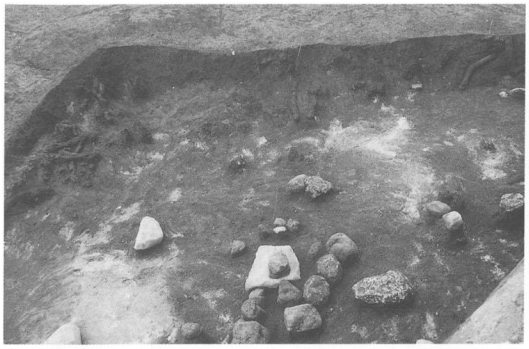
H５号住居址炭化物出土状況（南より）

H５号住居址炭化物出土状況（南より）

H５号住居址炭化物出土状況

H５号住居址炭化物出土状況

図版六　H5・H6



H５号住居址炭化物出土状況（南より）

H５号住居址炭化物出土状況（南より）

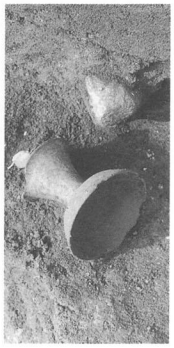
H５号住居址炭化物出土状況（北より）

H５号住居址堀方（南より）

H６号住居址完掘（南より）

H６号住居址遺物出土状況（東より）

H６号住居址遺物出土状況（東より）



H６号住居址出土遺物（東より）

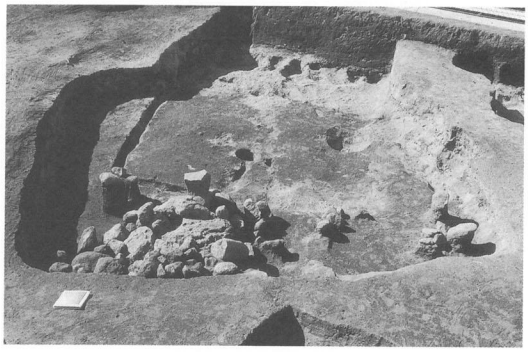
H７号住居址（南より）

H７号住居址セクション（東より）

H７号住居址堀方（東より）

H７号住居址カマド堀方（南より）

H８号住居址石出土状況（西より）



H８号住居址石出土状況（東より）

H８号住居址石出土状況（東より）

H８号住居址カマド（西より）

図版八　H8・H9・H10

H８号住居址完掘（西より）

H８号住居址堀方（西より）

H９号住居址完掘（東より）

H９号住居址Ⅲ区セクション（南より）

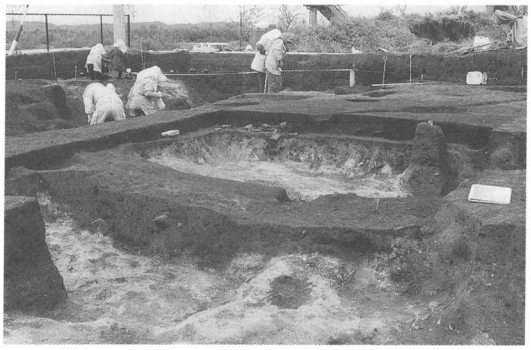
H10号住居址完掘（北より）

H11号住居址完掘（南より）

H11号住居址Ⅰ区セクション（南より）

H11号住居址堀方（東より）

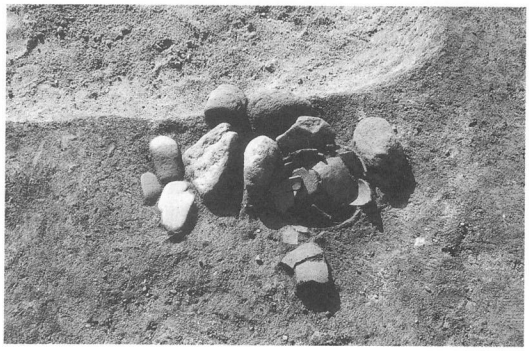
H11号住居址炉（南より）



H12号住居址Ⅰ区セクション（南より）

H12号住居址Ⅳ区セクション（西より）

H12号住居址炉（北より）

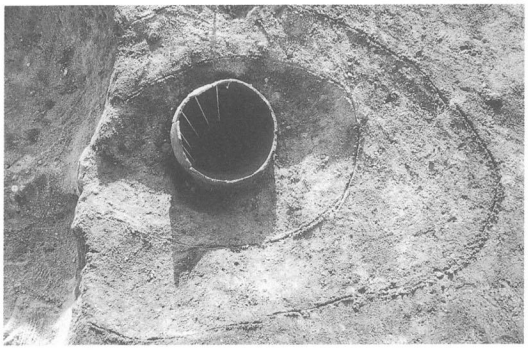


H12号住居址炉（北より）

H12号住居址完掘（南より）

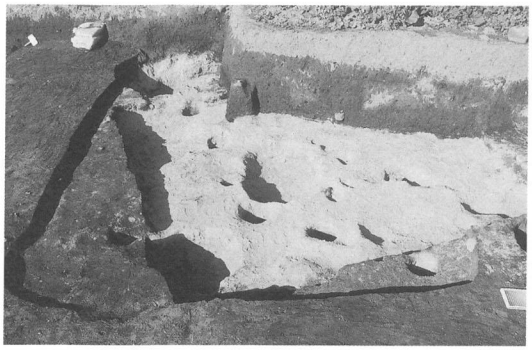
H12号住居址完掘（南より）

H12号住居址炉（南より）

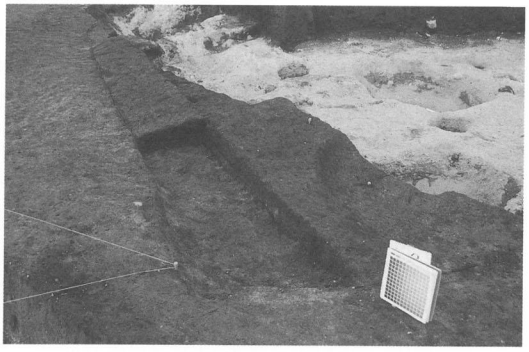


H12号住居址炉（東より）

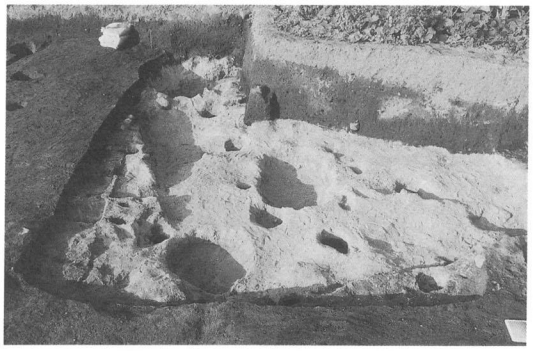
H12号住居址炉堀方（西より）



H13号住居址完掘（南より）

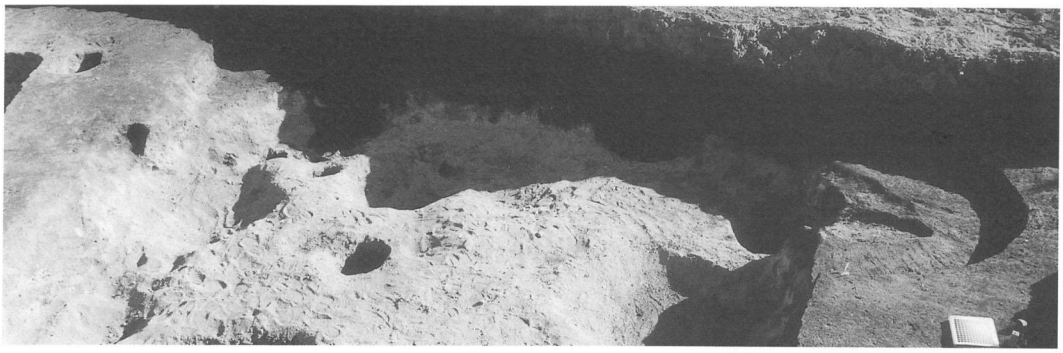


H13号住居址Ⅳ区セクション（南西より）

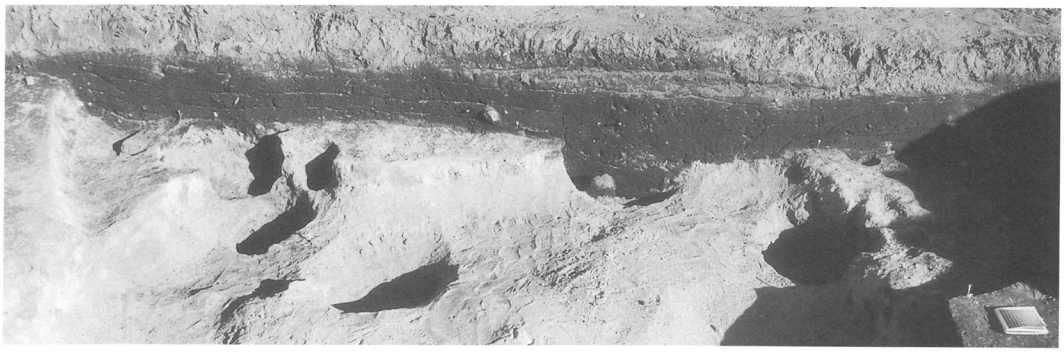


H13号住居址堀方（南より）

H13号住居址Ⅰ区セクション（東より）



H14号住居址完掘（西より）



H14号住居址堀方（西より）

図版十二　H15・H16・H17・H18

H15号住居址完掘（南より）

H15号住居址堀方（南より）

H16号住居址完掘（南より）

H16号住居址堀方（南より）

H17号住居址完掘（南より）

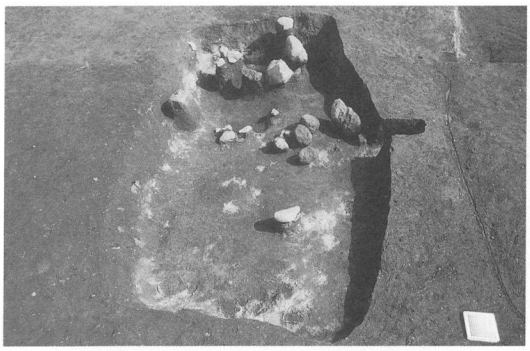
H17号住居址炉（東より）

H17号・H18号住居址完掘（南より）

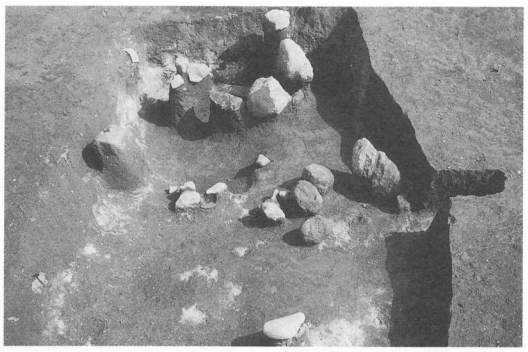
H18号住居址完掘（南より）

図版十三　T1

T１号完掘（西より）



T１号石出土状況（西より）

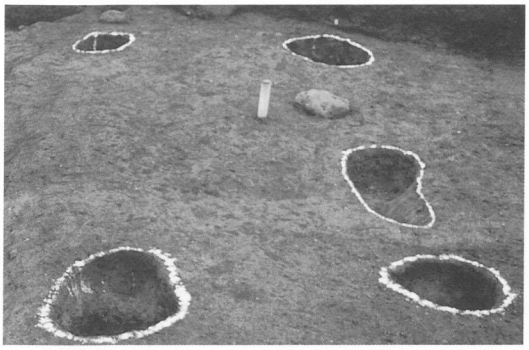


T１号石出土状況（西より）

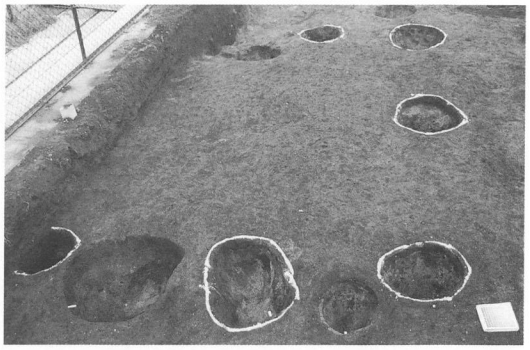
T１号堀方（西より）

T１号堀方石出土状況（北より）

図版十四　F1～F6



F１号掘立建物址完掘（南より）



F４号掘立建物址完掘（南より）

F５号掘立柱建物址（南より）

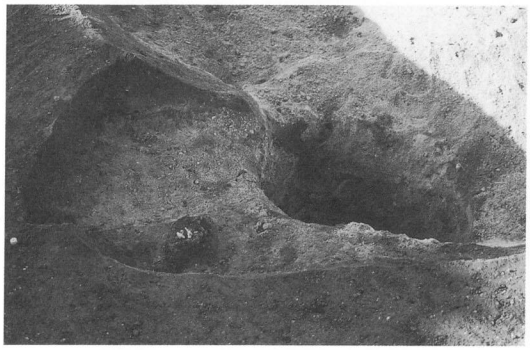
F２号掘立建物址完掘（南より）

F３号掘立建物址完掘（南より）

図版十五　D1～D8

D１号土坑完掘（東より）

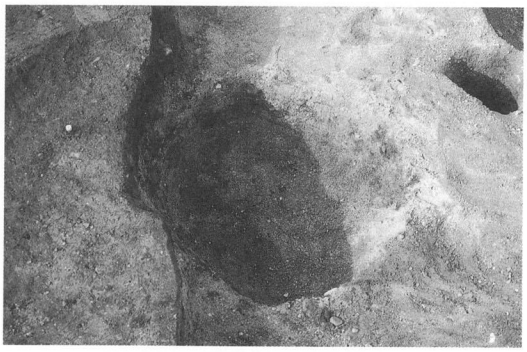
D２号土坑完掘（南より）



D３号土坑完掘（南より）

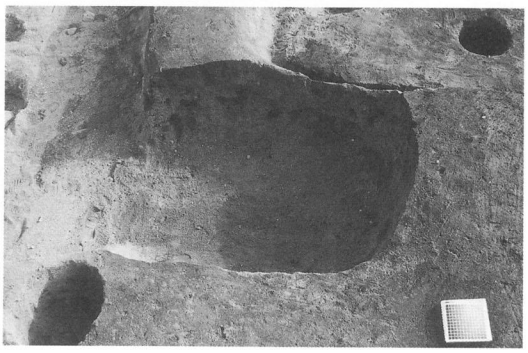
D４号土坑完掘（東より）

D５号土坑完掘（南より）



D６号土坑完掘（南より）

D７号土坑完掘（東より）

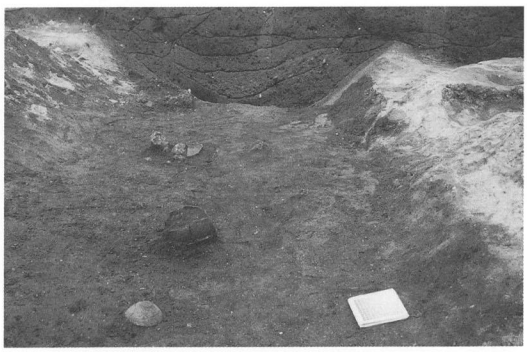


D８号土坑完掘（西より）

図版十六　M1

M１号溝状遺構完掘（北より）

M１号溝状遺構セクション（南より）



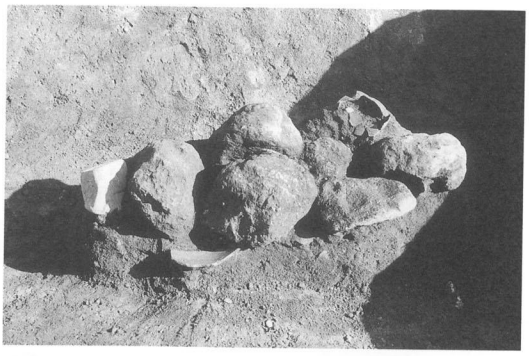
M１号溝状遺構出土遺物（東より）

M１号溝状遺構出土状況（南より）

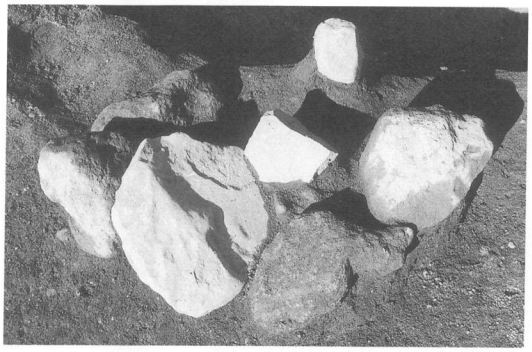
M１号溝状遺構完掘（南より）

図版十七　M1～M6

M１号溝状遺構出土遺物（西より）



M１号溝状遺構出土遺物（南西より）



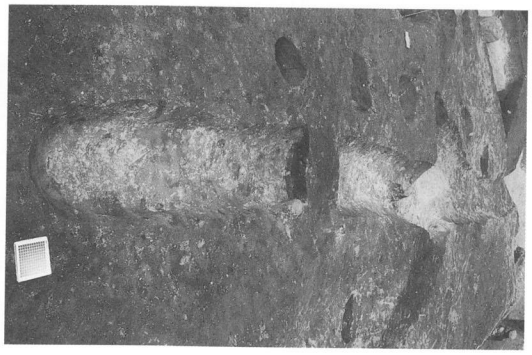
M１号溝状遺構石出土状況

M２号溝状遺構完掘（西より）

M３号溝状遺構完掘（北より）

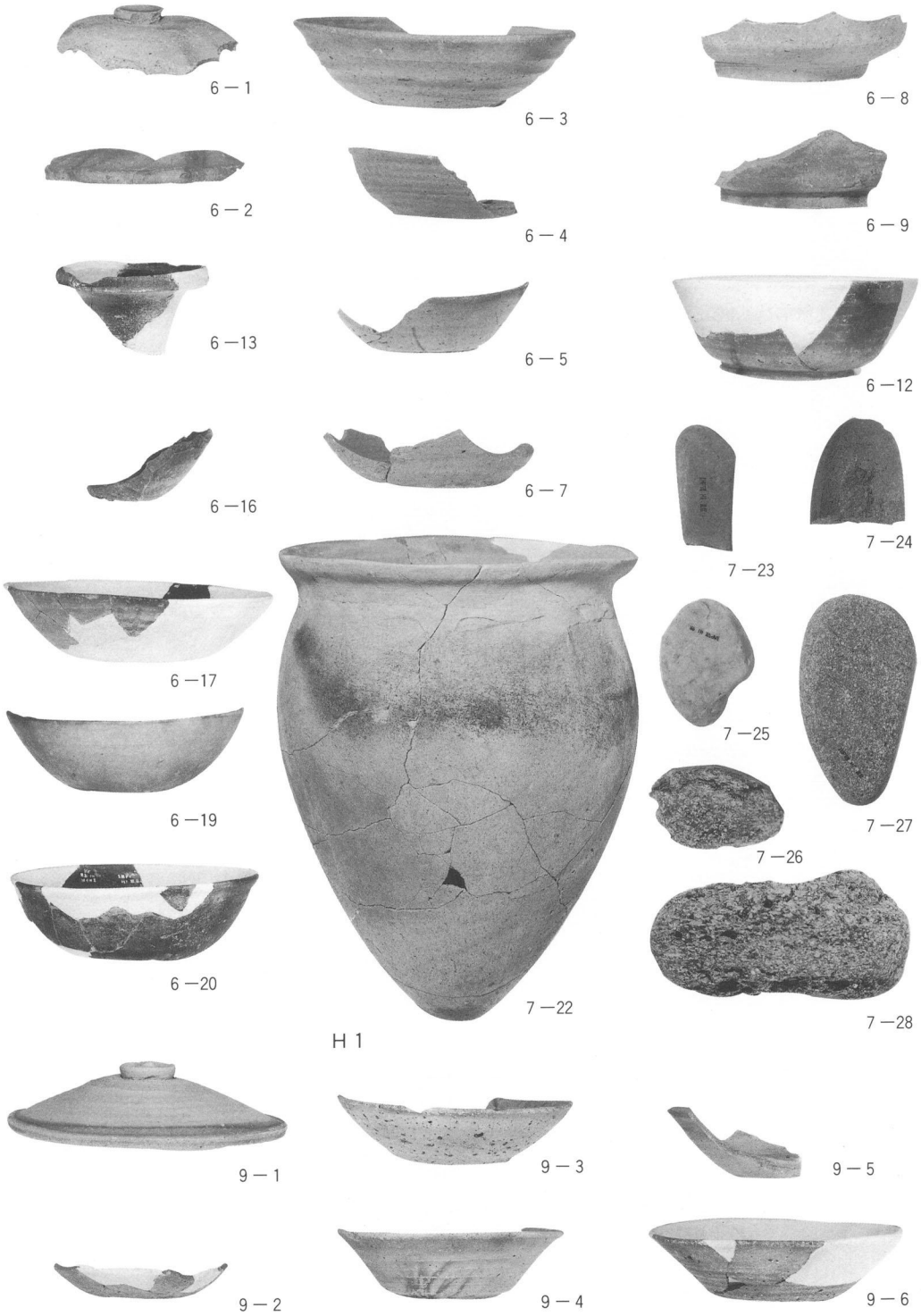
M４号溝状遺構完掘（北より）

M５号溝状遺構完掘（南より）

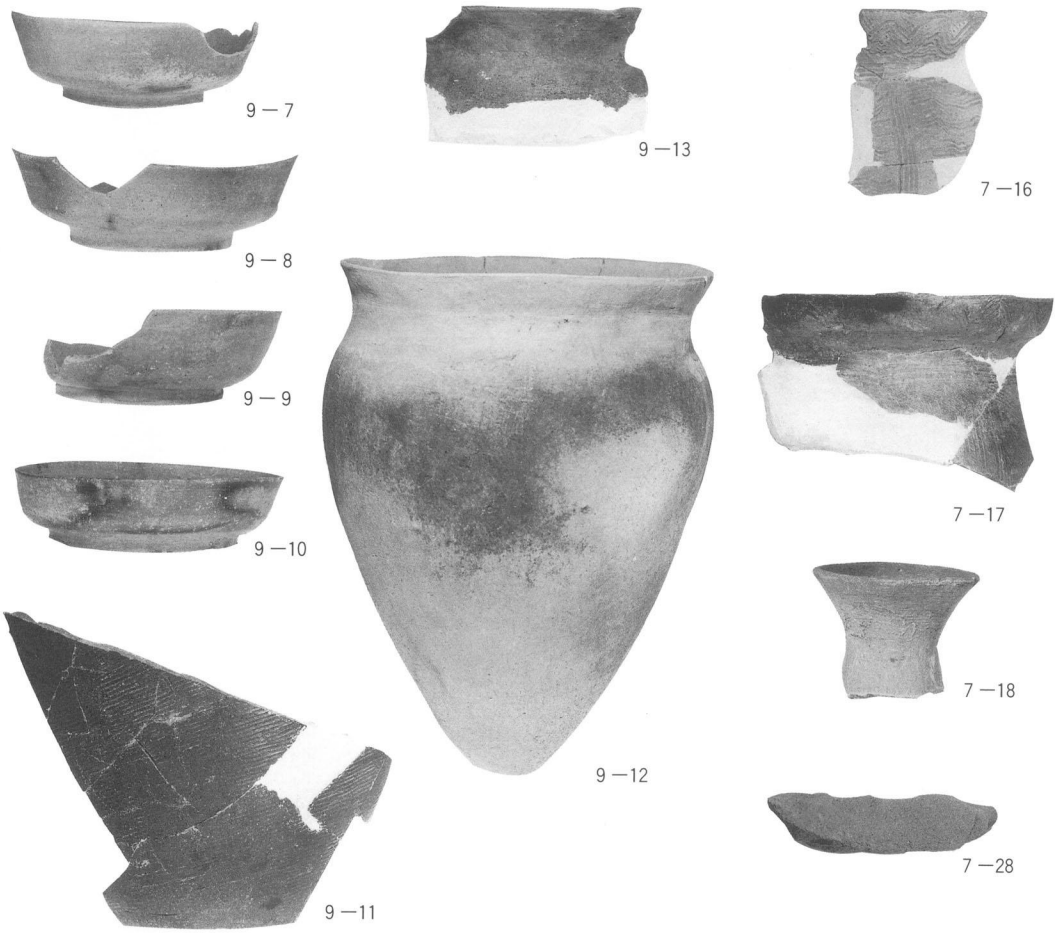


M６号溝状遺構完掘（南より）

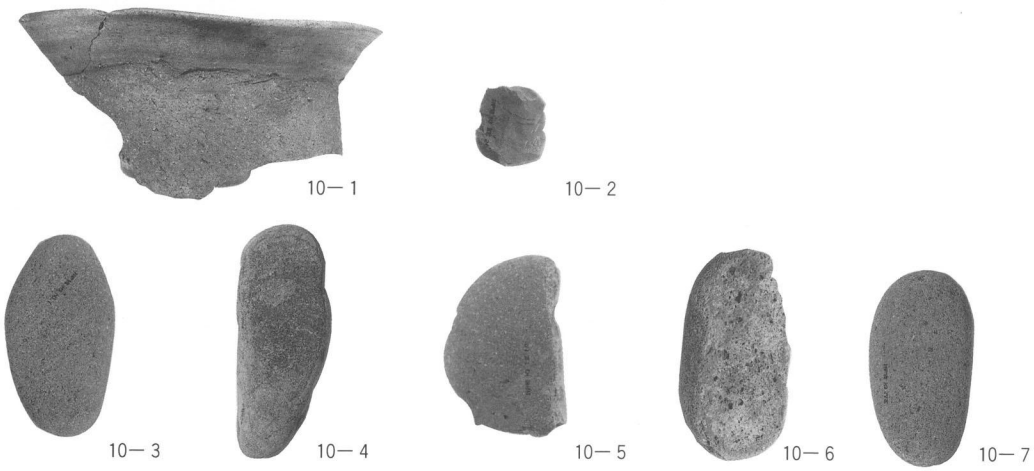
図版十八　H1・H2


6－1
6－3
6－8
6－2
6－4
6－9
6－13
6－5
6－12
6－16
6－7
7－23
7－24
6－17
7－25
6－19
7－27
7－26
6－20
7－22
7－28
H 1
9－1
9－3
9－5
9－2
9－4
9－6

図版十九　H2・H3

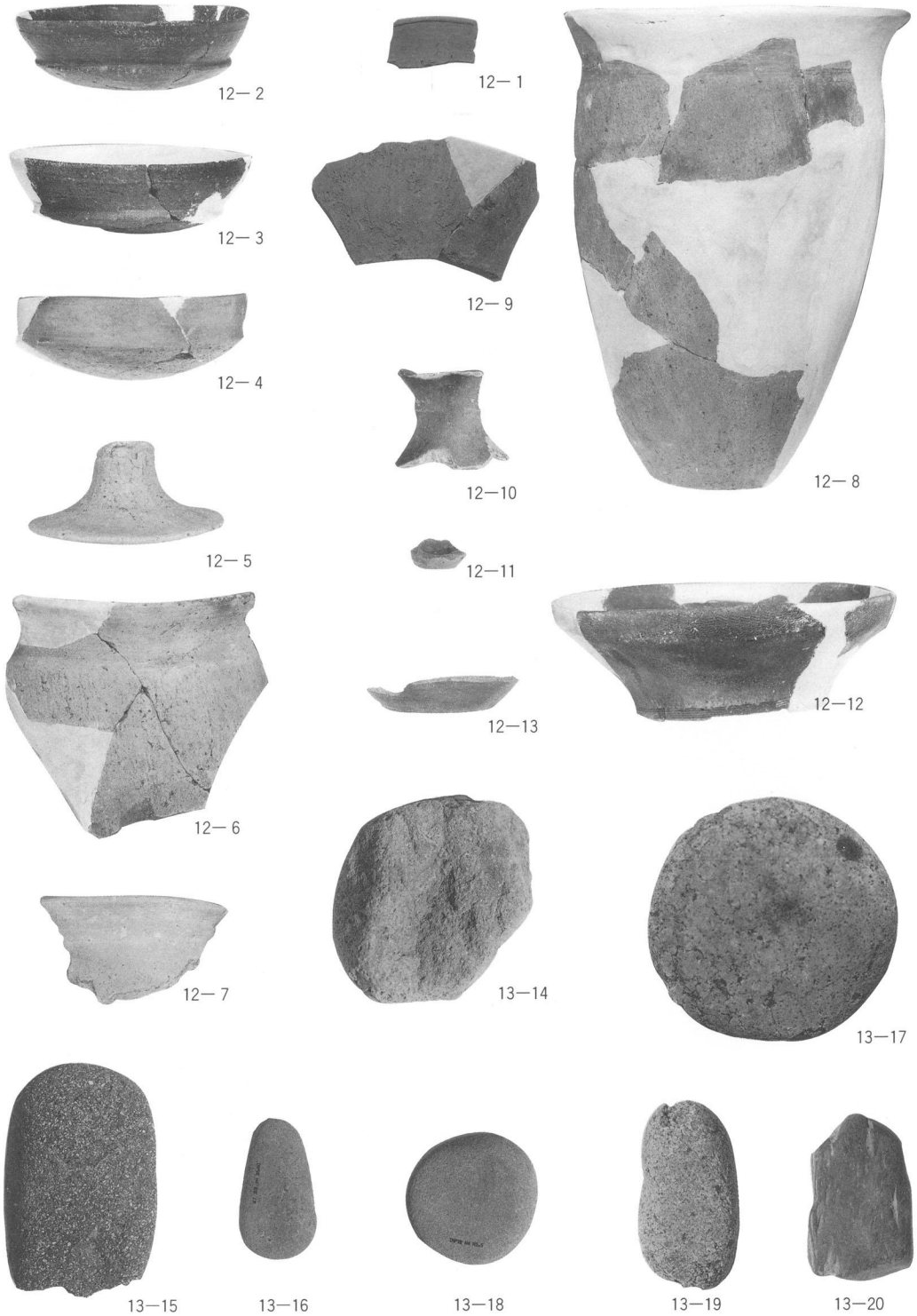


H 2



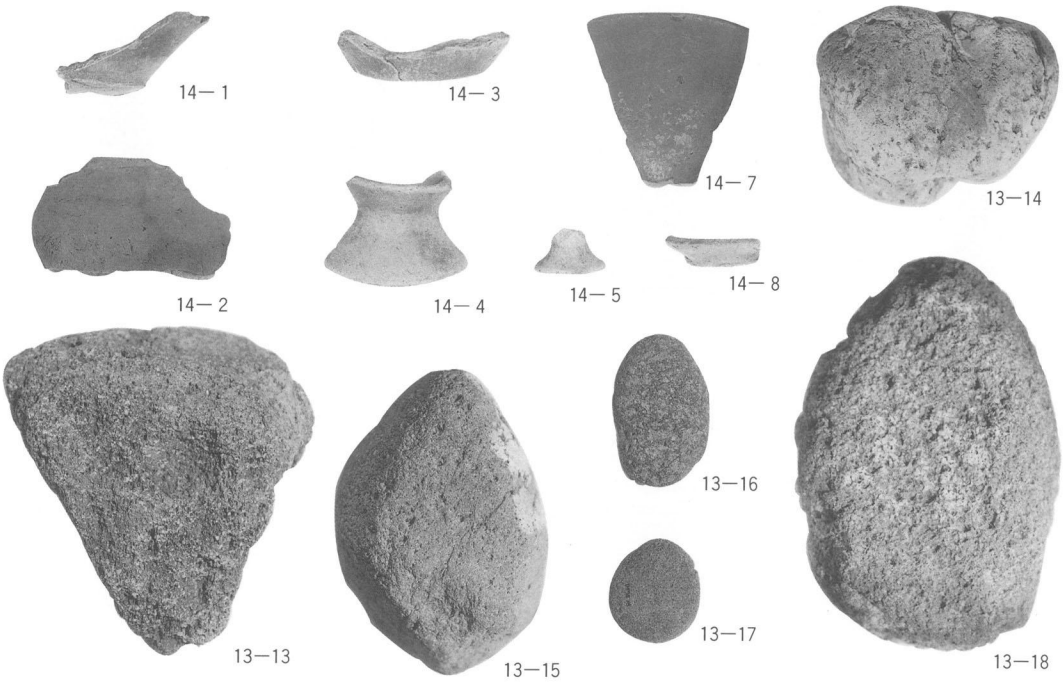
H 3

図版二十　H4

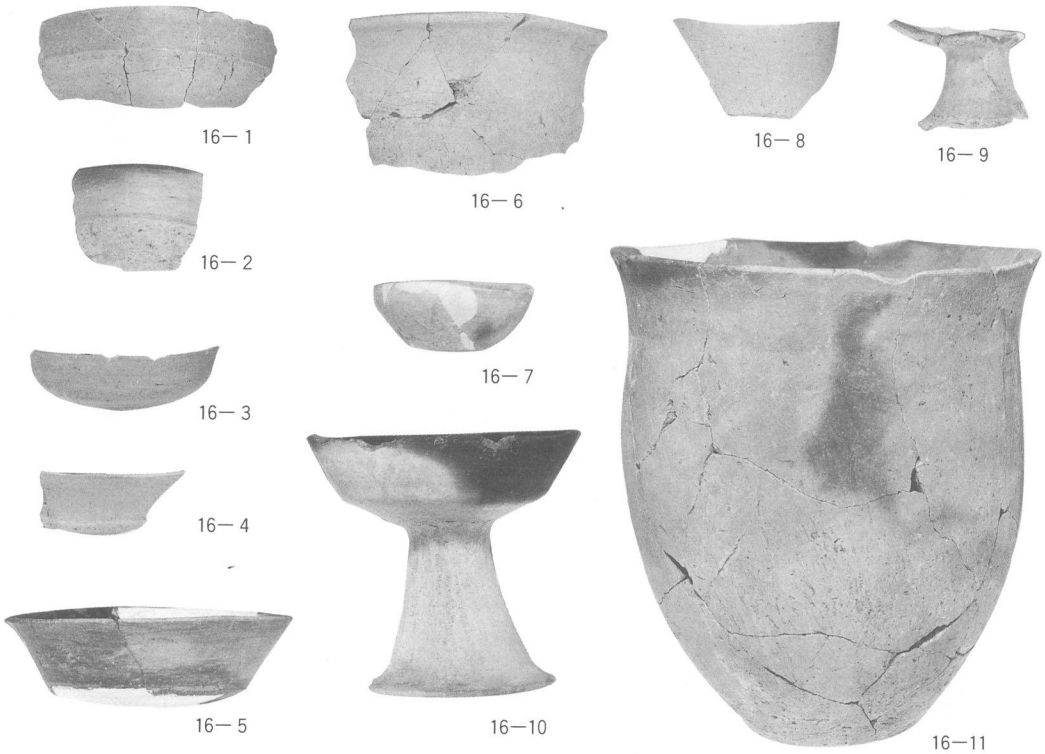

12—2
12—1
12—3
12—9
12—4
12—10
12—8
12—5
12—11
12—12
12—13
12—6
12—7
13—14
13—17
13—15
13—16
13—18
13—19
13—20

H 4

図版二十一　H5・H6



H 5



H 6

図版二十二　H7・H8

15—27

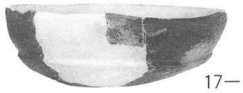
15—25

15—24

15—23

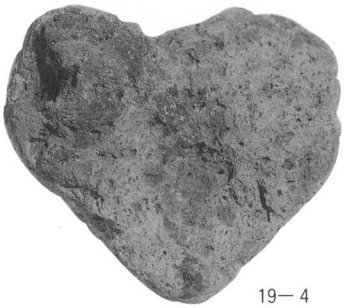
15—26

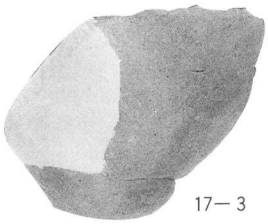
H 6


17—1

17—2

17—5


19—4


17—3

17—4

19—5

19—6

H 7

19—2

19—1

19—7

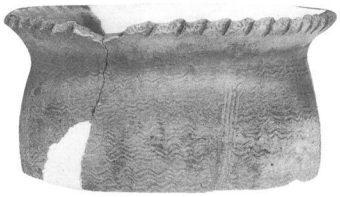
19—3

19—8

19—9

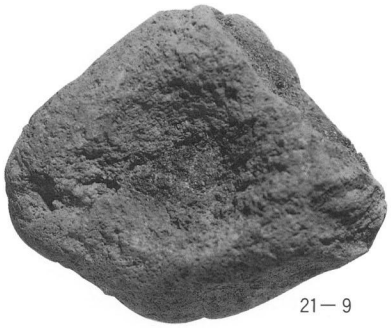
H 8

図版二十三　H11・H12・H14・H16



21－1

21－3

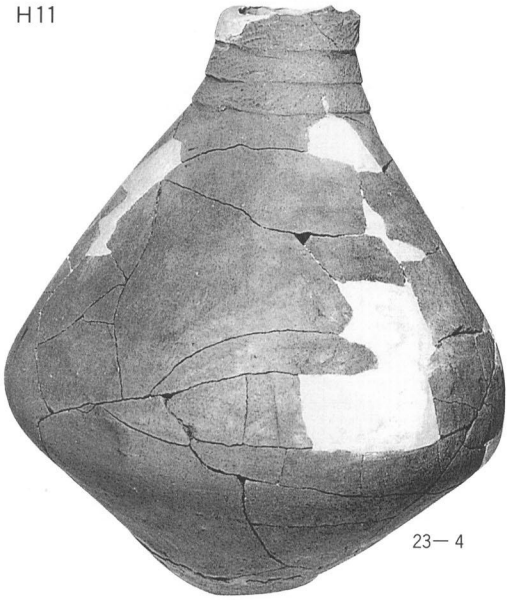


21－9

21－2

H11

23－1



23－4

23－3

H12

23－2

23－5

22－15

H12　22－16

25－4

H14

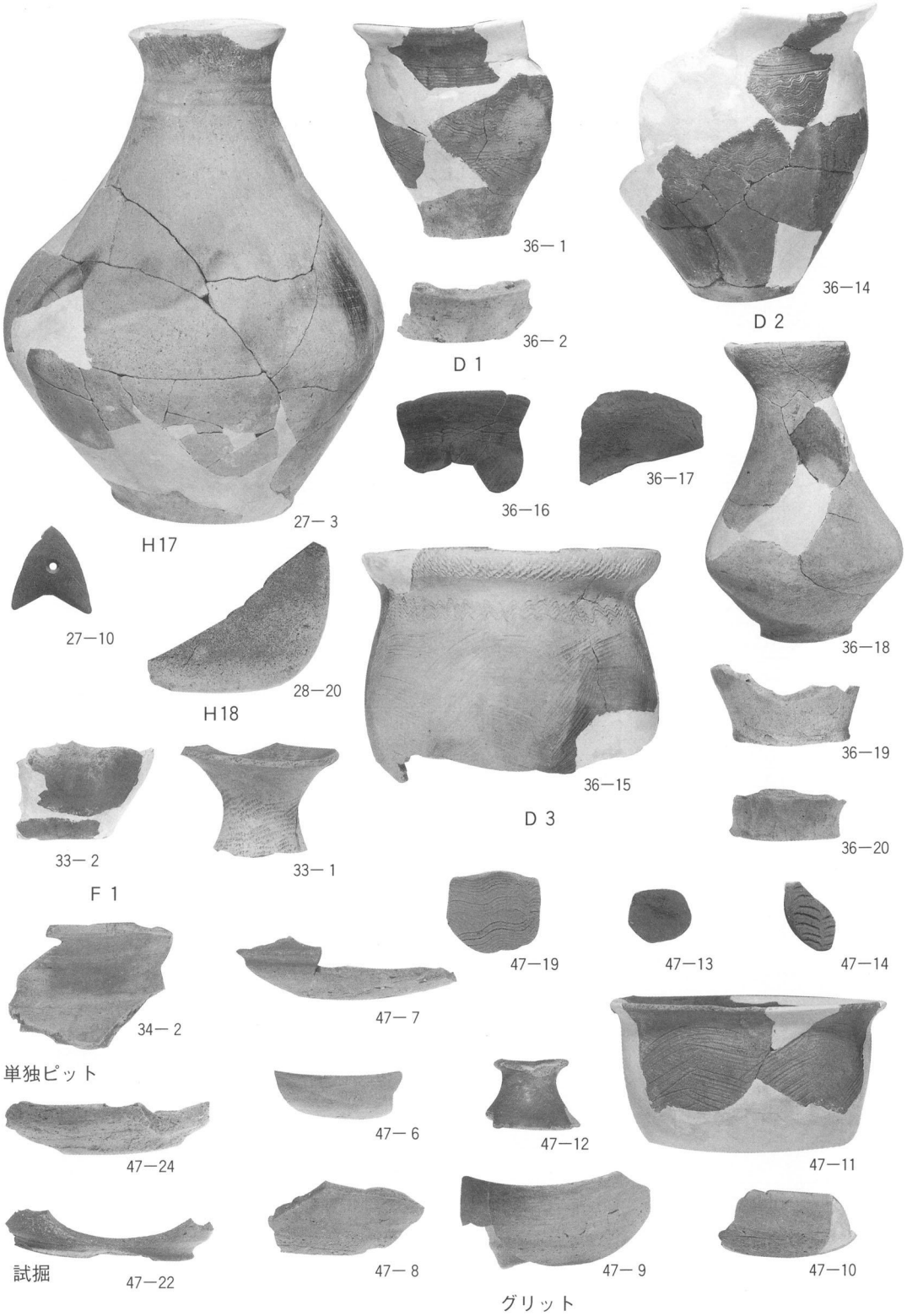
26－12

26－13

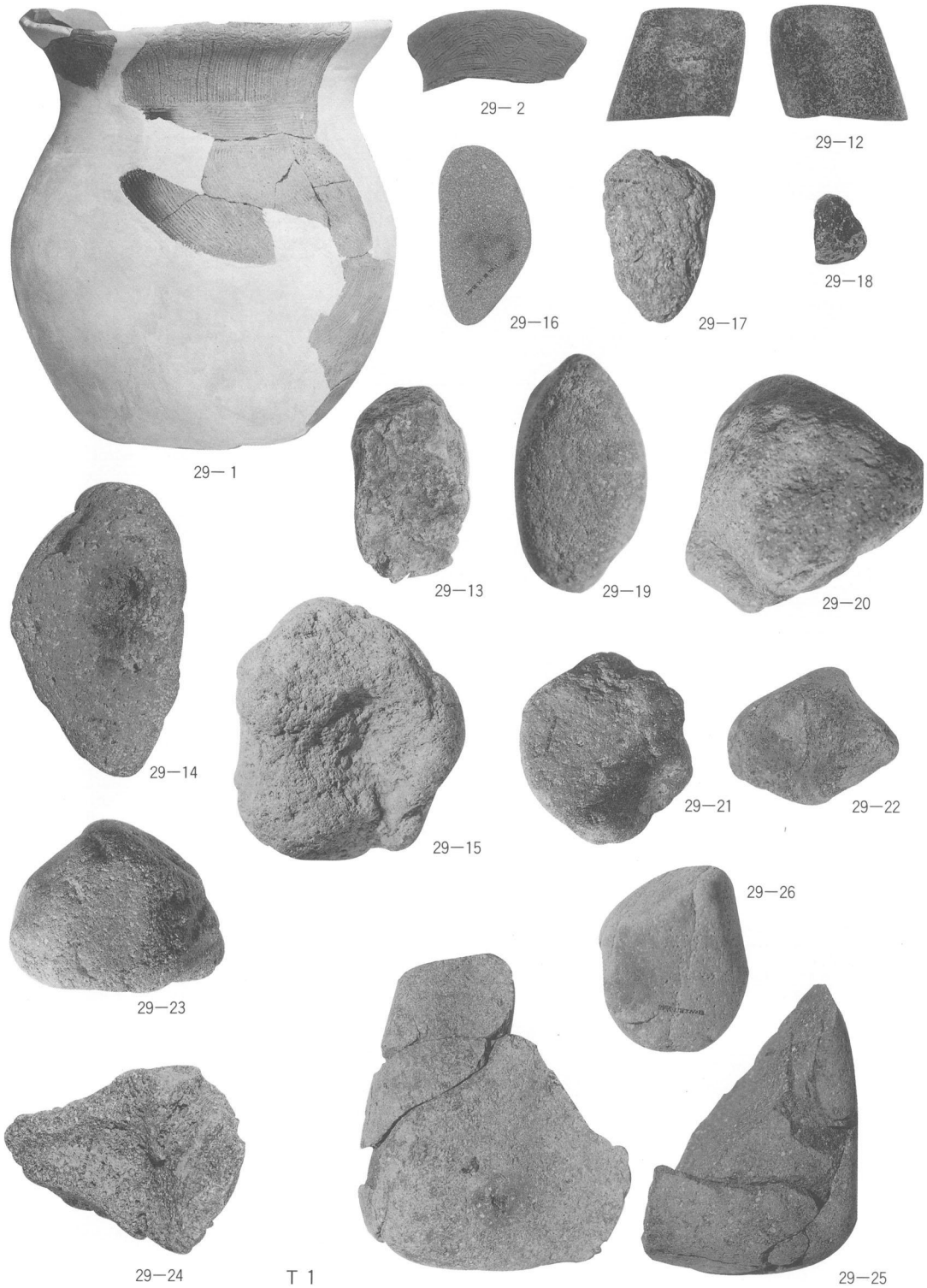
26－14

H16

図版二十四　H17・H18・F1・単独ピット・土坑・グリッド・試掘

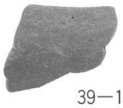


図版二十五　T1

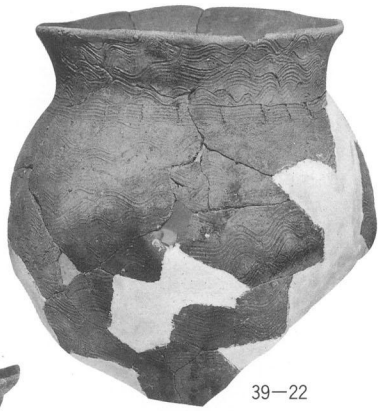

29－1
29－2
29－12
29－16
29－17
29－18
29－13
29－19
29－20
29－14
29－15
29－21
29－22
29－23
29－26
29－24
T 1
29－25

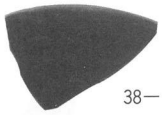
図版二十六　M1

38－2


39－11

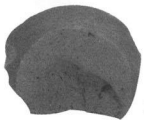
39－12

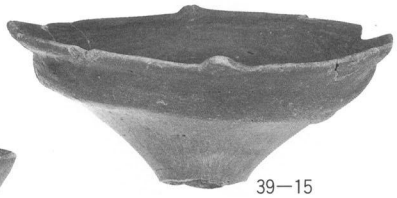

39－22


38－3

39－13

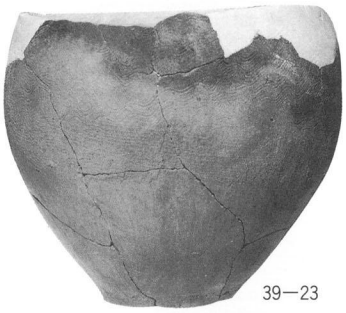
39－14

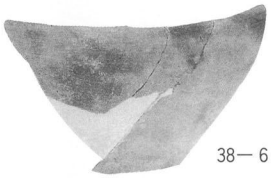

38－4

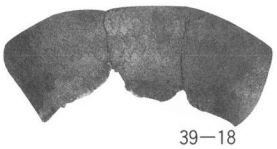

39－15

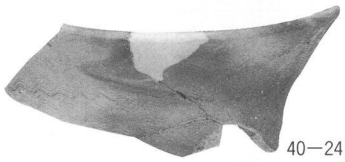
38－5

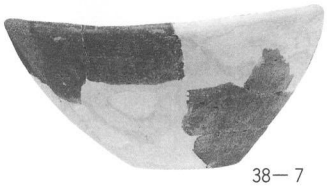
39－16


39－23

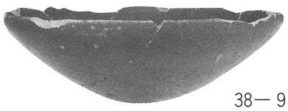

38－6

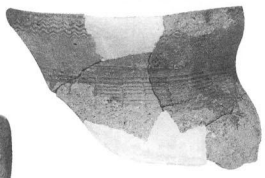

39－18


40－24


38－7

39－19


38－9


39－21

38－8

39－20

40－26

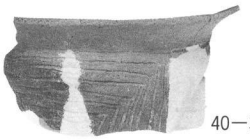
38－10

M 1

図版二十七　M1

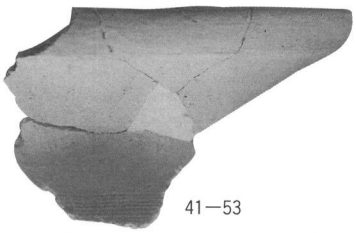
40—25

43—97

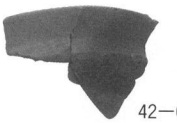

40—30

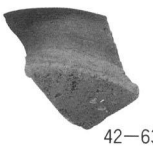
41—55

41—44


41—53

41—45


42—62

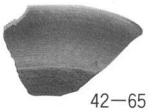

42—63

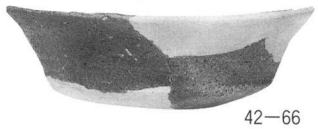
41—46

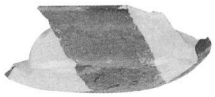
41—47

41—48

42—64

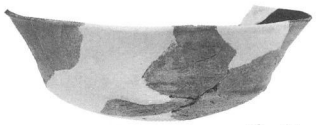

42—65


42—66


42—68

42—70

42—72


42—67

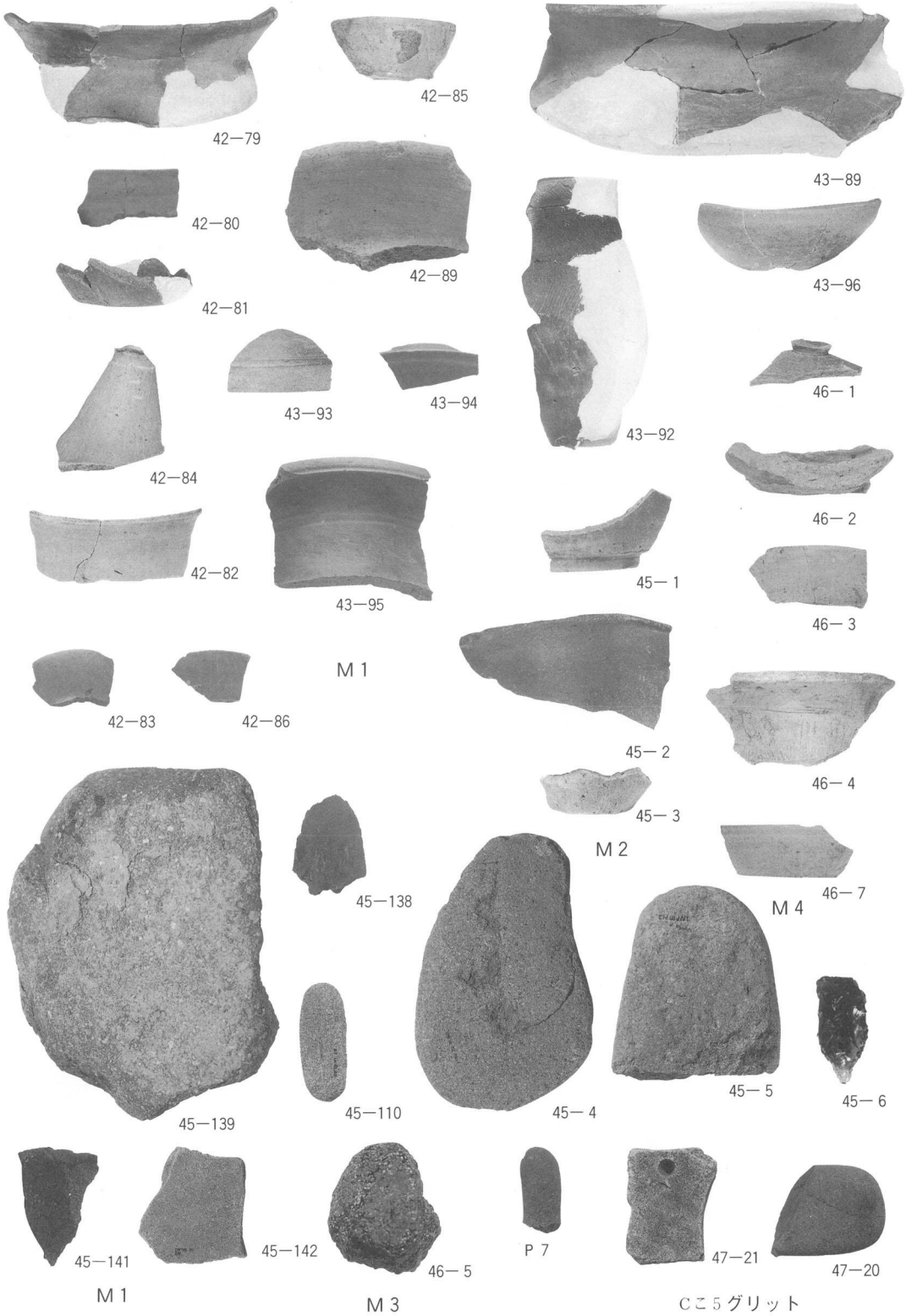
42—69

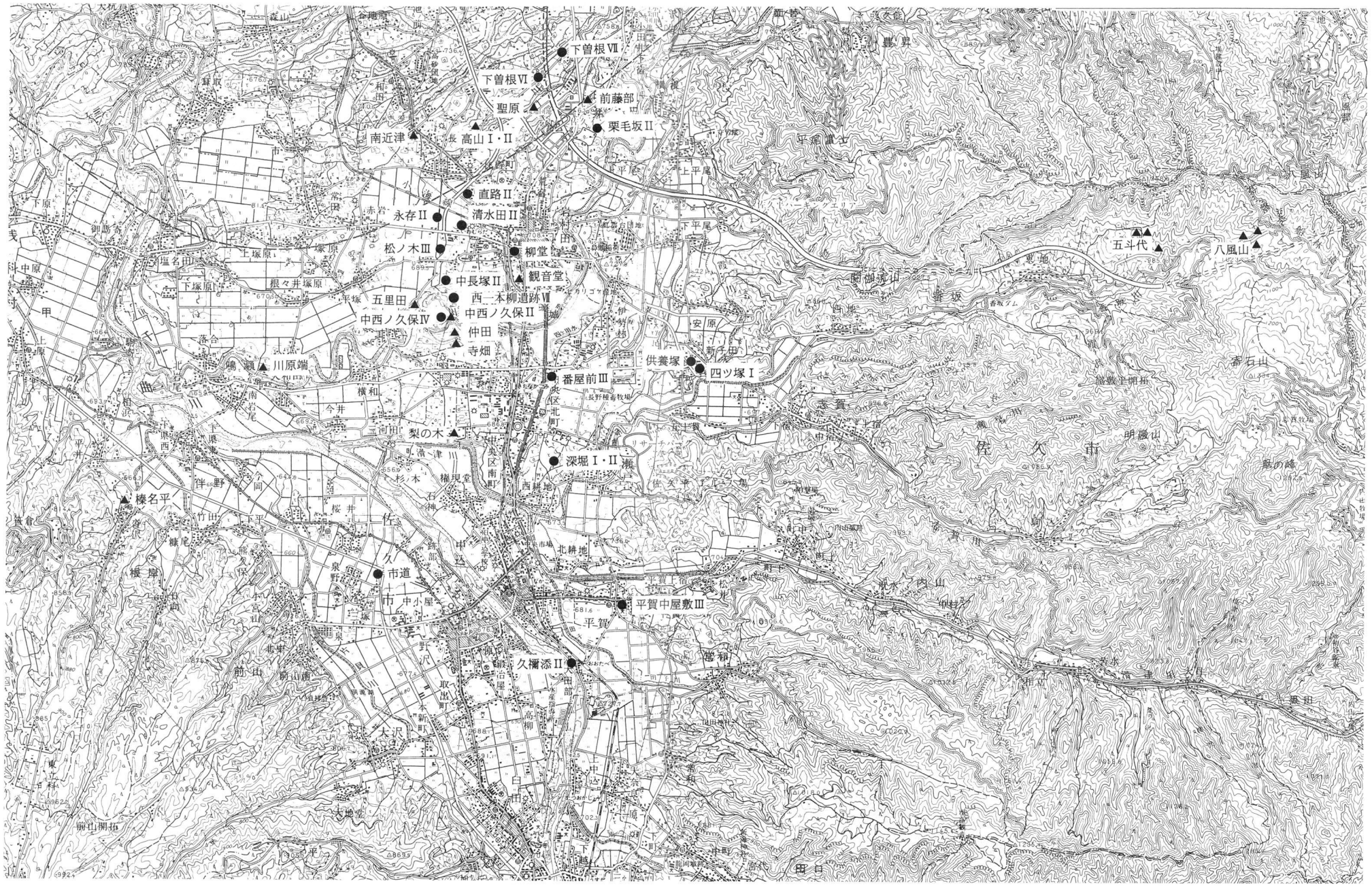
42—71

42—73

M 1

図版二十八　M1・M2・M3・M4・グリッド





平成10年度発掘及び整理調査遺跡位置図　　●発掘　▲整理

佐久市埋蔵文化財　年報 8

平成10年度

2000年 3 月31日

編集・発行　佐久市教育委員会

〒385－8501　長野県佐久市大字中込3, 056

文化財課

〒385－0006　長野県佐久市大字志賀5, 953

TEL（0267）68－7321

印　　刷　株式会社佐久印刷所